

資 料

- 資料 1 キャリアマトリックス開発関係年表
- 資料 2 官民職業情報検討委員会報告（抄）
- 資料 3 職業能力開発関連情報のあり方に関する調査研究報告書（抄）
- 資料 4 キャリアマトリックス掲載 512 職業一覧
- 資料 5 キャリアマトリックス情報収集訪問調査票
- 資料 6 記者発表資料（2006 年 8 月 31 日、2008 年 9 月 26 日）
- 資料 7 キャリアマトリックス掲載新聞記事等一覧
- 資料 8 キャリアマトリックスの書籍等での紹介
- 資料 9 キャリアマトリックス紹介記事
- 資料 10 サイト画面より「利用者の声」
- 資料 11 キャリアマトリックスにリンクを貼っている学校、組織等
- 資料 12 キャリアマトリックスのパンフレットと説明資料

資料 1 キャリアマトリックス開発関係年表

年 代		米国等諸外国の 動向	キャリアマトリックス関係・職業情報・ 職業研究等関係	雇用・労働関係	社会・経済背景
1908	M41	・米.Parsons、“Choosing a Vocation”公刊、個人特性と職業特性による科学的マッチングを提唱、職業指導の流れを形成 ・同年ボストンに職業指導事務所開設			
1911	M44	・米.Taylor、“Shop Management”で時間研究による科学的労務管理法を発表、以後作業分析技法の普及が進展		・職業紹介法制定	
1913	T2	・米.全米職業指導協会NVGA創設			
1914— 1919		第一次世界大戦で欧米主要国は大量の未熟練労働力を動員、採用・配置に苦慮、科学的管理法・心理テストの活用進展			・日、世界大戦特需
1927	S2	・英労働省.職業辞典発行（職業名 29,106）		・東京市少年職業紹介所開設	
1929	S4	・米.株式暴落、経済恐慌に			・米の経済恐慌が世界的に波及
1930	S5		・第3回国勢調査で初めて産業分類と区分した職業分類を使用、自由記入の職業名 20 余万種		
1931	S6	・米.連邦政府職員 11 万人の職務分析実施、職階制導入へ			
1933	S8	・米.ワグナー・ペイザー法制定：全国で統一的な職業紹介サービス制度を規定、統一的な職業情報整備が急務に			
1934	S9	・米.連邦政府による職業調査プログラム開始。職務分析を通じて標準的な職業情報の整備を目指す ・米.ニューディール政策（1934—40）、公共雇用創設に際し一部に職業別対応の視点を導入			
1935	S10	・米.労働省（以下略）、主要 7 産業の職務解説書シリーズ公刊（1935—38） ・独、労働手帳法制定（職業・能力等登録）	・内閣資源局で人的資源の適正配置のため職業分析・適性研究実施（35—37 年）、「金属並機械工業従業者に対する職業分析及適性調査」報告（旋盤工など 10 職種）		
1937	S12		・大阪市.高小生向け職業指導読本発行：職業・産業情報収載 ・厚生省社会局で内閣資源局の職業分析・適性研究を引き継ぎ、職業適性検査研究調査として適性能を重点に実施（金属・機械器具・船舶・車両製造の男子 37 職種と機械器具・製紙・紡績・化学・紡織・食料品製造の女子、38—41 年）		
1938	S13	・米.職業別雇用（動向）観測を開始		・国家総動員法制定、 ・厚生省設置、職業紹介事業国営化	
1939	S14	・米、DOT初版発行 初の体系的職務記述集、見出し職業名 29,744 職業分野と技能度による分類が混在 ・英国民（職業）登録法・雇用制限法制定	* 英、指定職業表発表（技能者の無関係職業への就業や徴兵制限）	・国民職業能力申告令制定 ・第1次労働員計画策定 ・労働動態調査開始	
1939— 1945		第二次世界大戦で米欧諸国は労働力動員（配分・配置・訓練・賃金統制等）に職業情報を活用		・国家総動員法により国民を対象に労働力動員を実施	

1940	S15	・米・公務・重要産業の職務記述書を整備、戦時労働力動員に活用 ・米・労働省職業展望の作業開始	・第3回国勢調査分類、国勢調査に仕事の類似性原則の分類を作成		
1941	S16		・「知能段階による職種分類表」(238 職種・国民学校修了者指導用)厚生省・文部省	・国民労働手帳法制定：職業経歴・資格能力等記載	
1942	S17	・米・一般的職業適性検査 GATB 開発開始(～45)	・職業情報を含む国民学校職業指導教科書発行	・国民能力登録令	
1943	S18	・米・GATB 開発(7.5 万職務情報と5万人労働者データから)			
1944	S19	・米・「職務分析マニュアル」発行、職務分析の標準となる			
1946	S21	・米・復員対策用に職業情報集 M7-1「Occupational Outlook Information」発行、後の OOH の母体になる	・米より職業情報等の本格的導入開始	・GHQ 指示で公的紹介組織・情報の整備を急ぐ	
1947	S22	・米・一般的職業適性検査 GATB-B-1001 公表	・GHQ、職務分析と GATB 日本版の実施を指示 ・職務分析開始	・労働省設置・11 職業安定法制定 公共職業安定所発足	
1948	S23	・ILO、国際職業分類に係る国際会議を開催(モントリオール)し同分類開発を開始	・職務分析手引作成 ・労働省・大規模主要産業で職務分析開始、第1集発行(1957 までに職務解説書 173 冊・14500 職務を発行)		
1949	S24	・米・DOT 第2版(職業名 40,023)発行 ・米・職業ハンドブック(OOH:Occupational Outlook Handbook)第1版発行(288 職業) 復員雇用対策として復員軍人向け職業の展望と解説収載 ・ILO、職業指導勧告(87号)採択：職業選択の自由のもとに労働力有効利用へ	・人事院、全省庁対象に職種調査実施(これにより公務員に職階制導入を図るも中断) ・労働省版 GATB-I 作成に着手		
1950	S25		・GATB-I テスト公表(中学3年用基準) ・内閣、国勢調査用職業分類作成		
1951	S26	・米・職業ハンドブック(OOH)第2版発行(433 職業)	・職務分析記述形式改正	・安定行政職員に職務分析技術訓練講習会開始・技術認定証発行(-71)	
1952	S27		・GATB-I 基準改訂 ・GATB-II の開発に着手 ・雇用観測シリーズ第1集公表(職務内容・雇用見通し等、第2-9 集・計 11 職種、～1956)(労働省統計調査部)		
1953	S28		・DOT にならい「職業辞典」発行(職業名 34,000) ・職業安定行政用に労働省編職業分類 ESCO 設定：米労働省 DOT 分類に準拠	・日本標準職業分類を50年の国勢調査分類を基礎に作成(行政管理庁)	
1954	S29		・職業の手引公表、中高生用に約 100 職種を概説		
1955	S30		3.労働省版 GATB-II 公表(成人求職者適職判定用)		・石炭鉱業合理化臨時措置法制定
1956	S31		・労働省統計調査部「職業ハンドブック」約 300 職種公表 ・職業指導用カラースライド作成開始(全 11 集)		
1957	S32	・米・職業ハンドブック(OOH)労働省予算を確保し第3版発行、以後隔年発行 ・米職業情報季刊誌 OOO 発刊	・「職業小辞典」発行(職業名 4900) ・労働省編職業分類 ESCO 追補改訂(普通職業名 29261) ・GATB-I 基準改訂		
1958	S33	・ILO、国際標準職業分類 ISCO 設定	・労働省版 GATB 第1改訂版公表	・職業訓練法制定：企業横断的職種別労働市場を目指す	
1959	S34	・米・OOH 第4版から対象職業が若者向けとなる		・炭鉱離職者臨時措置法制定：広域紹介・再就職指導等導入	

				・石炭閉山が相次ぎ、中高年離職者の再就職が問題化	
1960	S35		・日本標準職業分類 JSCO 設定、ISCO1957 に準拠	・身体障害者雇用促進法制定	・国民所得倍増計画公表：人的資源の活用・流動化 エネルギー革命進行
1962	S37		・職業辞典改訂委設置・職業分類改訂着手	・職務分析技法の活用方針を変更、職務分析の実施・研修・利用等体制を縮小、随時実施に	
1963	S38		・「産業職業図鑑」第 1 集公表(2,3 集～1966)主要産業の生産工程と職務	・人的能力政策に関する経済審議会答申：職業訓練の普及、労働移動の円滑化等 ・中高年失業者等就職促進措置開始	
1964	S39		・日経連職務分析センター発足	・労働市場センター稼働	
1965	S40	・米.DOT全面改訂第 3 版発行 技能度別分類構造を廃止し職務の性質と就業者に求められる職務要件により分類(職業名 35,550)	・ESCO(労働省編職業分類)全面改訂版公表：①技能度分類廃止、②JSCO(日本標準職業分類)に準拠、③小分類区分増補・代表職業名設定(普通職業名 29674) ・「職業辞典」改訂版	・職業安定局が国立職業研究所の設立構想立案 ・雇用審、職業関係調査研究機関の必要性を答申	・若年労働力の需給逼迫と離転職が社会問題に
1966	S41			・早川労相職研と中高年専門職安の設置を記者会見で示す ・雇用対策法制定：近代的な労働市場の形成を図る(職業の現況・動向の分析、適性検査、職務分析その他職業の基礎事項の調査研究を規定) ・障害者、高齢者の雇用促進のための指定職業制定	
1967	S42			・第 1 次雇用対策基本計画(67～71 年度)技能労働力確保・中高年雇用促進・不安定雇用改善のため職業別労働市場の形成を指向 * 同基本計画基礎資料として労働省、大分類別就業者数予測(ー1971) ・労働省統計調査部、中分類別就業者数予測(ー1985)	
1968	S43	・ILO.ISCO 改定	・「資格職業の手引」公表、約 140 資格職業を高校教師向けに解説	・職業研究調査室(準備室)発足	
1969	S44		・ESCO 追補改訂版、GATB-I 改訂版公表 ・「職業辞典」追補改訂版(代表職業名 52 解説追加)	・職業研究所発足、所員 12 名 ・経済審議会労働力研究委、新経済社会発展計画関連で職業別就業者数予測推計(ー1975)	
1970	S45		・JSCO 改定、ISCO1968 に準拠 ・日米職業共同研究(70～71 年度)	・21.3%の事業所(30 人以上)で職務分析を実施(雇用管理調査)	
1971	S46		・道協室長共同研究で訪米調査 10.中高年齢者の雇用率設定職種「職業分類早見表」 11.米労働省専門家来日し研究討議		
1972	S47		職業レディネステスト公表		
1973	S48				・1 次石油危機、マイナス成長
1974	S49		・「新時代の職業」公表		
1976	S50	・米.NOJCC(Natl.Occupation Information Coordinating Committee)創設：連邦・州・地域での		・第 3 次雇用対策基本計画(76～80 年度)：企業内雇用維持を重視・企業内人材養成を援助	

		職業情報システムの開発・支援、職業情報利用の促進等			
1977	S52	・米DOT第4版(職業名約20,000) 65年から70年代半ばまで実施された75,000を超える職務調査により書き換え・整理されたもので第3版を全面改訂しより広範な分野での利用を目指す	・「職場としごと」中高生向け職業ガイドブック全30巻(1977-79年)公表		
1978	S53	・米OOH第13版発行、対象職業は全球職者層向けとなる			
1979	S54		・職業読本初版公刊 ・NIRA中分類職業需給予測(1980-2000年)実施 ・JSCO第2回改定	・職研十周年記念シンポ「雇用・職業情報サービスのあり方を考える」島田晴雄他 第4次雇用対策基本計画(79-85年度)	・2次石油危機
1980	S55	・米国標準職業分類SOC公表、政府統計の標準に	・雇用開発委中間報告「職業情報の開発の方向について」 ・職業ハンドブック開発に着手		
1981	S56	・米DOT別冊データ集公表、職務・労働者特性7項目の特性数値	・ 81-83年 職業ハンドブック第1版公表(242職種31分冊)、全国の中学高校短大大学16867校他に配布	・職業研究所が雇用職業総合研究所に改称、ME化と労働についての総合的研究に着手	
1983	S58	・米、NCSC(Natl.Crosswalk Service Center)アイオワ州に設立、NOICC予算で産業・職業・労働市場等の情報を政府各省・州等に加工提供	・GATB改訂新版公表		
1984	S59		・職業ハンドブック利用状況調査実施、中学～大学の9割で活用		
1985	S60		・職業読本第2版公刊 ・VPI職業興味検査公表	・雇職総研「MEと労働に関する国際シンポジウム」を開催し国際的反響男女雇用機会均等法成立	・円高不況
1986	S61		・職業ハンドブック改訂第2版公表(254職種) ・ESCO全面改訂版(昭和61年版)公表、JSCO第3回改定		
1987	S62		・ESCO職業名索引公表 ・GATB(事業所用)公表	・経済企画庁「職業構造変革期の人材開発ー構造失業時代への処方箋」	
1988	S63	・ILO職業分類ISCO-88に改訂			
1989	H1		・労働省「若年者等の職業意識に関する懇談会」設置、勤労体験プラザ構想浮上 ・職業レディネステスト新版公表	・雇用職業総合研究所と日本労働協会が統合、日本労働研究機構(JIL)となる	
1990	H2	・米DOT諮問委(APDOT)創設、DOTの抜本的見直し開始			
1991	H3	・米DOT第4版増補改訂版(職業名12,741)発行、最終版に	・職業ハンドブック改訂第3版(1991年版)公表 ・「この仕事はなにをするの?」ESCO職業名解説公表		・バブル崩壊、経済は長期経済停滞に
1993	H5	・ 米「新DOT:21世紀への職業DB(O*net)」報告 米の競争力強化のための情報インフラとして新職業情報データベースの開発と全職業を網羅し常に最新の職業DBを標本抽出質問紙により作成・維持することを提言	・新総合経済対策決定(公共投資、社会資本整備として勤労体験プラザ(仮称)構想が具体化) ・	・労働白書「職業をめぐる諸問題」テーマに公表	
1994	H6		職業ハンドブックの全面改訂・CD-ROM化への開発開始		
1995	H7	・米・労働省の全米求人サイトABJ(America's Job Bank)運用開始	・第8次雇用対策基本計画決定、勤労体験プラザ(私のしごと館)設置へ	・日経連「新時代の日本的経営」発表。雇用流動化を前提に長期蓄積能	・史上最高円高¥79.75で円高不況

					力型、高度専門能力活用型、雇用柔軟型の雇用ポートフォリオを提唱	
1997	H9		・職業ハンドブック1997年版・職業ハンドブックCD-ROM検索システム公表(全面改訂300職種と1995-2010年職業需要見通し) 同、雇用職業研究会(東京) ・JSCO 第4回改定			
1998	H10	・米、労働力投資法 WIA 制定 ・米、SOC 改訂版公表 ・米 O*net98 試行版 OES 分類で公開	・職業ハンドブック CD-ROM 検索システム Ver.1.1 及び利用のガイド公表		・教育訓練給付金制度開始	
1999	H11		キャリアマトリックス関係	職業情報・職業研究等関係	・日経連「労働移動を可能にする力」エンプロイアビリティを身につける自己啓発を提唱 ・JIL「若年者の就業行動の変化と職業への移行システム」の研究開始、以後報告相次ぐ	
				・労働省版 GATB 第1の改訂版公表 ・改正職業安定法により官民共通の標準職業名の制定、職業解説・職業分類表の作成、それらの普及を規定 ・ESCO 改訂版公表		
2000	H12	6.米 NOICC 廃止、職業情報関係機能は NCSC が継続提供 8.米 O*net3.0 試行版を SOC 分類で公開 7.OECD「労働市場政策と公共職業サービスに関するハイレベル会議」(ブラハ)開催、セルフ化・ワンストップ化・ITによる情報提供とマッチング促進・制度改革による就職活動活性化等の流れが明らかに	・厚労省受託研究:官民職業情報 ・厚労省官民職業情報検討会 12.求人・求職情報基盤ニーズ調査実施(企業・個人・紹介機関)厚生労働省受託研究	4.若年層用に中高生用職業ハンドブック(OHBY)開発に着手	・若年層の学卒無業や自発的離職による失業増加・不就業が社会問題化	
2001	H13	・米、質問紙による O*net データ調査開始 ・英雇用省、Worktrain システム開始、求人・訓練・職業情報を融合して Web 上で提供	3.厚労省業務指導課要請:米 O*net なみのインターネット職業情報システムを開発し異職種間の移動を可能にしたい 4.16 付日経新聞一面トップ報道「厚労省職業情報データベース構築へ」 4.厚労省より JIL へ要請研究「新たな職業情報ネットワークシステムに関する研究」 5.厚労省「労働市場における職業関連情報に関する調査研究報告書について」(①職業情報報告書、②職業能力開発関連情報報告書)公表、米 O*net を参考に Web 上で提供する職業関連情報のデータベースの具体化へ	7.全国進路指導研究協議会で OHBY 予定版発表・デモ実施		1.省庁再編で厚生労働省誕生
2002	H14	6.米 O*net4.0 最終試行版改訂情報収集方式 DB で公開 9.米総合キャリア情報サイト Career One Stop 公開	4.JIL、厚労省要請研究として総合的職業情報 DB の研究開発を開始 6.第1回職業情報DB検討会議(厚労省):目的・職種構成等を検討、引き続きプロトタイプ作成 7.厚労省「キャリア形成を支援する労働市場政策研究会報告」	11. OHBY 公表、実質的には PC 使用の統合ガイダンス・情報システムとして CMX の先駆となる 7.全国進路指導研究協議会で OHBY 発表・デモ実施 11.進路指導学会で OHBY 発表・デモ実施		
2003	H15	4.米 O*net5.0(完成版)新方式の 54 職業を掲載し公表 米、OOH2002-2003 発行(250 職業)	・報告書 NO.151「人材の最適配置のための新たな職業の基盤情報システムに関する研究」 ・第2回職業情報DB検討会議:プロトタイプ基本的なDB構築の方向性等を確認、本格的にシステム開発と情報収集にかかると ・総合的職業情報DBを JILPT の第一次中期計画(2003.10-2007.3)の総合プロジェクト研究として研究開発実施へ	・私のしごと館プレオープン ・進路指導学会で OHBY 関係研究発表・デモ実施 ・私のしごと館グランドオープン、ジョブジョブワールド配信	・15 年度予算で官民労働力需給調整機能強化・若年者の雇用・能力開発推進に力点 ・政府「若者自立・挑戦プラン」で若者の職業的自立などの促進へ ・日本労働研究機構が(独)労働政策研究・研修機構(JILPT)に移行	

2004	H16		・日本キャリア教育学会で新職業 DB 構想を発表・試行版デモ実施し関心を集める ・雇用職業研究会で新職業 DB 構想を発表・試行版デモ実施し HW・教育・キャリア関係者の関心を集める ・J*net /パイロット版完成 ・J*net /パイロット版操作マニュアル完成 ・HW 等で J*net モニタリング実施	・キャリア・インサイト(若年層対象)公表		
2005	H17		・雇用職業研究会(福岡)で J*net として予告発表、多くの期待が寄せられる ・「キャリアマトリックス」(CMX)の名称を決定し関連名称とともに商標登録 ・雇用職業研究会(東京)で「キャリアマトリックス」として予告発表し強い関心 ・日キ学会で発表・デモ実施 ・CMX の試験運用開始 ・CMX 第 1 次実用試験版(半数職業)完成、相談機関等でのモニタリング実施		9.職業研究関係 2 部門が上石神井から朝霞の労働大学に移転	
2006	H18		3.CMX 第 2 次実用試験版(公開用)完成、引き続き改良実施 4～・労大で HW 職員に CMX 関係の研修・講習実施 6.日本キャリア教育学会研究セミナー(準研究大会)でキャリア・教育関係者に公開予定版を限定公開し関心集める 9.総合的職業情報データベース「キャリアマトリックス(CMX)」公表(500 職業)プレス発表で反響あり大量アクセス、関係方面に資料配布 10.雇用職業研究会(東京)で本格的 CMX 普及・講習第一陣 11.日本キャリア教育学会(大阪)で発表・関係シンポジウム開催	・子供用職業体験施設「キッザニア東京」、日本第 1 号施設を豊洲にオープン	・4 月の全国安定部長会議で公開予告・準備協力依頼と利用勧奨	
2007	H19	7. 米労働省、ABJ の運用を廃止、公的紹介サイトは各州サイトが中心となる	3.「キャリアマトリックスの研究開発」総合的職業情報データベース開発技術報告書発行 ・CMX の高校・大学への普及進展、アクセスも漸増傾向	12.「独立行政法人整理合理化計画」(閣議決定)で私のしごと館組織体制の抜本的見直し決定 ・キャリア・インサイト MC(30 歳代後半職業経験者対象)公表	4.職業研究 2 部門を統合しキャリアガイダンス部門となる	米のサブプライムローン破綻が世界的な経済危機に波及
2008	H20		9.CMX 新版公開、画面を更新し若者・企業向け新機能や課業情報搭載等の新基軸 10.日本キャリア教育学会(仙台)で CMX 関係発表・シンポジウム開催	9.私のしごと館の運営を民営委託 12.雇用・能力開発機構の廃止を閣議決定(私のしごと館も 2010 年 8 月までに廃止に)		
2009	H21	・米 O*net とリンクした民間 Web 適性検査 Career Scope Online 版提供開始	・CMX アクセス年間 2000 万ビューを突破	3. キッザニア 2 号館甲子園にオープン		
2010	H22	6. 米 O*net 最近版 15.0 改訂職業 120 総職業 965 で公表	4-11. 政府の事業仕分け、CMX やジョブカードに及ぶ 12.内閣、CMX 事業廃止を決定	3. 私のしごと館閉館・「ジョブジョブワールド」配信停止		
2011	H23		3.CMX 配信停止予定			

2000 年以前は原則として月表示を省略

資料２ 官民職業情報検討委員会報告（抄）

以下の記者発表により、二つの報告書が公表されている。

厚生労働省発表（平成１３年５月１７日）

労働市場における職業関連情報に関する調査研究報告書について

産業構造の転換や就業意識の多様化等に伴い、労働移動が活発化するとともに、技術革新の急速な進展等により、職業の内容や求められる職業能力の内容は変化し続けるものと見込まれており、職業関連情報の正確な把握、提供が不可欠になってきている。

こうした中で、労働市場においてミスマッチの解消のため、職業選択や職業紹介場面でのマッチングが的確に行われるとともに、労働者が適切に職業能力開発を行うためには、幅広い職業情報や職業能力開発ニーズ等に関する情報を簡易に入手できるシステムを構築していくことが必要である。

このような状況を踏まえ、厚生労働省では、研究会を開催し、官民にわたる円滑な労働力需給調整に資する職業情報の収集・提供のあり方及び労働者の自発性を重視した職業能力開発等に資する職業能力開発関連情報の具体的内容や収集方策、今後の情報の活用、提供のあり方等について検討してきたところであり、今般、下記の報告書が取りまとめられたところである。

各報告書では、アメリカの職業関連情報提供システムを参考にしつつ、職業関連情報の基礎的データベースを公的機関が整備し、インターネット上に広く公開する等により労働者をはじめ様々なニーズに応えることのできるシステムを構築すること等が提言された。厚生労働省では、今後、これらの報告書に盛り込まれた内容の具体化を図っていくこととしている。

記

○ 職業情報に関する報告書

「官民職業情報検討委員会報告書」

○ 職業能力開発関連情報に関する報告書

「職業能力開発関連情報のあり方に関する調査研究報告書」

担当 職業安定局業務指導課

職業能力開発局総務課

官民職業情報検討委員会報告（抄）

はじめに

我が国の産業構造、職業構造が変化する中で、労働者の職業意識の変化、企業の人事管理システムの変化及びこれらを背景とする労働移動の増加等、労働市場に変化が生じてきている。また、完全失業率が５％にせまる高水準で推移するなど、雇用失業情勢も依然として厳しい。こうした中で、安定した雇用の維持・確保とともに、労働移動を円滑に進めていくための労働力需給調整機能の強化が雇用対策の中で緊急の課題となっている。

本委員会は、官民一体となった労働力需給調整機能強化の観点から、職業選択、円滑な労働移動、職業能力開発等を支援する職業情報の収集・提供のあり方について検討し、官民の職業情報提供機能を共通する基盤のうえに強化・充実する方策を提言するため、平成１２年９月から平成１３年３月までの間に開催されたものである。

この間、並行して部会による情報ニーズ等の調査、海外の現状調査を実施し、これらを踏まえて、今後の職業情報のあり方について、高度情報通信技術の活用を含めた幅広い視点から具体的検討を行い、今般、検討結果を取りまとめて報告書を公表することとした。

この報告書の趣旨に基づき、今後、職業情報の収集・提供の総合的な環境整備に向けて、官民により積極的な取組がなされることを期待するものである。

平成１３年３月

官民職業情報検討委員会

座長 木村 周

官民職業情報検討委員会 委員（平成１３年３月３１日現在）

木村 周 拓殖大学 教授（座長）

大久保 幸夫 株式会社リクルート ワークス研究所 所長

岡本 英雄 上智大学文学部社会学科 教授

木ノ内 博道 株式会社学生援護会 理事

佐々木 和行 (株)ケンブリッジリサーチ研究所 代表取締役社長

松井 博志 日本経営者団体連盟 労務法制部労務管理課長

宮部 寿一 日本労働研究機構 統括研究員

伊岐 典子 厚生労働省職業安定局 業務指導課長

市川 和通 厚生労働省職業安定局 業務指導課主任中央職業指導官

生田 正之 厚生労働省職業安定局 民間需給調整課長

大本 棟弘 厚生労働省職業安定局 労働市場センター業務室主任システム計画官

(部会委員)

宮部 寿一 日本労働研究機構 統括研究員
石井 徹 日本労働研究機構 主任研究員
西澤 弘 政策研究大学院大学 教授
松本 純平 日本労働研究機構 主任研究員
松本 真作 日本労働研究機構 主任研究員
室山 晴美 日本労働研究機構 研究員

(目 次)

I 検討の趣旨

- 1 職業名を中心とする職業情報をめぐる動向
 - (1)職業紹介機関の拡大と職業情報
 - (2)多様な職業情報提供の必要性
 - (3)情報化の進展
- 2 官民職業情報検討委員会の目的

II 職業情報をめぐる現状

A 我が国における職業情報の現状とニーズ

- 1 聞き取り調査
 - (1)調査概要
 - (2)結果概要
- 2 質問紙調査
 - (1)調査概要
 - (2)結果概要

B アメリカの職業情報をめぐる現状

- 1 必須の情報としての従来からの職業情報
 - (1)職業辞典
 - (2)必須の情報としての職業情報
- 2 最近の動き
 - (1)職業情報収集体制の見直し
 - (2)O*NET とは
 - (3)O*NET の効用・効果
 - (4)インターネットにおける求人・求職の情報基盤としての O*NET
 - (5)米国労働省が提供する求人・求職に関する総合的情報サイト
 - (6)企業情報システムとしての共通コードの必要性

(7)米国における職業コード

(8)O*NET、CareerKit 等の開発要員、体制等

3 米国における職業情報整備

III 職業情報をめぐる今後の方向性

1 今後の職業情報をめぐる視点

(1)多様な職業情報の整備

(2)職業情報における職業名の意義と方向性

(3)横断的な職業情報の整備による関連職業の把握

(4)情報の鮮度の保持

(5)明示できていない情報の明確化

(6)職業情報を使いこなす技術

(7)職業能力開発を支援する職業情報

2 今後の方向性

(1)職業情報の基礎的データベースの構築

(2)基礎的データベースを活用した支援システムの構築

(3)官民共通職業名の整備

3 取組の手順

(1)基礎的データベースの構築に向けた検討

(2)支援システムの検討

(3)具体的展開

4 配慮が求められる関連事項

(1)「しごと情報ネット」の取組

(2)関連した分野での情報整備の取組との連携

(3)職業能力評価システムの整備

(4)人的支援の必要性

(5)求人票、求職票等への反映

(今回の開発に特に関係するⅢ 2 「今後の方向性」の部分)

2 今後の方向性

上記 1 の視点に基づき、労働市場における情報インフラの整備の観点から、今後の職業情報充実に向けての具体的な方向性について以下の通り提言する。

(1) 職業情報の基礎的データベースの構築

職業情報を整備する目的は、円滑な労働力需給調整や職業生活の各段階において必要となる情報を的確に提供するとともに、労働市場において使われる共通言語を整備することにより、需給ギャップを明らかにし、マッチング効率を高め、能力開発が促進されること等にある。

産業・職業構造の変化、労働移動を重ねつつキャリアアップしていく傾向の高まり等に対応する職業情報を考えた場合には、いわゆる職業分類を細分化・精緻化する方式ではなく、仕事の内容、求められる能力ばかりでなく、上記 1 に示した関連する豊富な情報を有機的に活用できる体制を考えていくことが重要になる。

そのためには、まず、職業に関する幅広い情報が収集構築される必要がある。具体的には、一定のまとまりとしての職業を単位に、その仕事内容、特徴、必要とされるスキル、能力、経験、就業実態、労働条件、労働力需給、従事者の特性等の関連諸情報をデータベース化し、様々な情報ニーズに応えることのできるシステムを構築するものである。職業情報に対する多面的な要請に応えるために、最近の情報通信技術を駆使したシステムを構築するもので、社会が等しく共有できる職業情報の基盤として、職務内容など仕事の特性に関する情報だけでなく人の特性（スキル、能力、適性など）や労働市場に関する情報も含んだ職業に関するデータベースを構築することは、画期的なものとして期待される。

具体的には、アメリカの O*NET のような、職業情報の基礎データをデータベース化し、インターネット上に広く公開するシステムが参考になるものと考えられる。

なお、こうした取組の成否を左右する要素は、採用・雇用慣行、人事慣行、職業情報の浸透度、民間の新規事業展開の土壌の有無等と多く、我が国独自の雇用慣行、企業の人事制度を踏まえた我が国で必要とされる職業に関する情報や項目などについての学術的、実践的な基礎研究が一層必要となってくる。また、諸外国の先行的な職業情報収集・提供事例もさらに検討することが望ましい。

(2) 基礎的データベースを活用した支援システムの構築

職業情報の総合的情報データベースはあくまでも基礎的なデータの集合であり、必ずしもこれだけでそのまま、様々なニーズに有効に応えられるものとは限らない。こうした基礎的データベースを核として種々の支援システムがリンクする体制を構築することが次に求められることになる。

アメリカの例で言えば、Career Kit(AJB、ACINET、ALX、Service Locator 等)、Career Zone、DISCOVER 等の O*NET を活用した各種支援システムである。

こうした支援システムの構築には、官民が参加する体制が必要である。

アメリカの O*NET においては、職種、職務、求められる能力・現在の業務遂行能力という一連の情報データベースを政府が整備し、それを無償で自由に使える情報源として、民間

人材サービス会社、民間出版社等が活用している。

データベースの構築は、これを活用する応用システムの開発が伴う必要がある。データベースを基礎としたさまざまな応用システムの開発、例えば、職業適性診断システム、さまざまな職種でのスキルの身につけ方やキャリアアップの道筋などと組み合わせたシステムとすることにより、利用価値が高まるが、こうしたシステムの開発には官民の各機関が積極的に取り組むことが重要であり、また、データベース、関連システムが広く活用されることを促進する必要がある。

資料３ 職業能力開発関連情報のあり方に関する調査研究報告書（抄）

１ 職業能力開発関連情報をめぐる背景事情

我が国においては、近年、職業能力開発に関する情報の重要性が増してきているが、その背景として、どのような情勢変化が進んでいるのか。

労働者の就業意識・就業形態の多様化、企業による人材の即戦力志向の高まり、企業内の職務再編の柔軟化や、労働移動の増大等に伴い、これまでの企業主導の職業能力開発に加え、労働者の自発性を重視した職業能力開発の推進等の重要性が増している。

このような中、今後、労働者個人が、労働市場において、適切な情報の提供や相談、援助を受けて自らのキャリア形成に向けた職業生活設計を行い、これに即した職業訓練の受講、職業能力の適正な評価等を通じて、自ら能力を向上させ、職業の安定を図れるシステムを構築する必要がある。

具体的なシステムとしては、労働力需給調整に係るもののほか、キャリア形成支援、職業能力評価システムの整備、多様な教育訓練システムの確立が考えられるが、この他に、労働者個人が労働市場の中で自らの適性を考えつつ、適切な職業選択や能力開発を行えるよう、職業に関する基本的な情報、人材ニーズ動向、教育訓練コース、能力評価等に関する情報を入手できるシステムの構築が考えられる。

今後、我が国においては、具体的にどのような観点で、職業能力開発に関する情報を収集・整理し、提供・活用していく必要があるのか。

今後、企業主導の職業能力開発に加え、労働者の自発性を重視した職業能力開発を一層推進していくための枠組みを構築していくに当たり、職業能力開発に関する情報は、労働市場の構成員である労働者個人や企業等に提供することで、個人主導の能力開発やキャリア形成支援等に資するとともに、今後の職業能力開発施策の枠組み構築や、公共職業訓練コースの開発・設定等の事業運営に当たっても有効に活用すべきものである。

このため、特に、以下の３つの観点から、必要となる具体的な情報内容や収集方策等について整理する必要があると考えられる。

(1) 労働市場の構成員である労働者、企業等に提供することで、個人主導の能力開発、キャリア形成支援等に資する、いわば労働市場インフラとしての役割を果たすことが期待される情報

(2) キャリア形成支援、職業能力評価制度の整備、教育訓練システムの確立など、今後の職業能力開発に係る労働市場政策の企画立案に当たって有効に活用すべき、我が国労働市場全体の実態を鳥瞰できるような情報

(3) 産業界の求める人材育成ニーズに資する効果的な公共職業訓練コースの開発・設定等に当たって有効に活用すべき情報

2 労働市場におけるインフラとして必要な情報

労働市場の構成員である労働者、企業等に提供することで、労働市場の機能を高める、いわばインフラとしての役割を果たすことが期待される情報としては、様々なものが考えられる。このうち、特に、労働者個人に提供することで、個人主導の能力開発、キャリア形成支援等に資するものとして、今後、具体的にどのような情報を収集し、提供していく必要があるのか。

(情報システムの必要性)

個人主導の職業能力開発の重要性が増す中、労働者個人が自発的に能力開発を行い、仕事を見つけたり、雇用の安定を図れるような社会環境、労働市場環境を整備する必要がある。その際、労働者個人が、職業に関する情報や教育訓練に関する情報など、労働市場に関する情報に容易にアクセスでき、入手できる体制を整備することが重要である。

また、労働者個人がキャリア形成していくに当たっては、個人の資質など、個人的な属性の影響を受ける要素も多く、キャリア・コンサルティングが効果的な支援手法として考えられるが、その際、キャリアシート等のツールに併せて、こうした職業に関する様々な情報が必要となってくる。

(必要となる具体的な情報内容)

こうした中、我が国における情報収集の現状を踏まえるとともに、アメリカにおける先進的な取組事例を参考にすると、今後の我が国労働市場におけるインフラとして必要な情報については、以下のようなカテゴリーに分類して整理することが可能と考えられる。(別表1参照)

(1) 労働市場動向に関するもの

(1) 市場全体の動向

景気動向、雇用動向、賃金動向等、労働者個人や企業が長期的な視点で今後の能力開発やキャリア形成、人材育成等の方向性を決める際に必要となる情報

(2) 企業（業界）の動向

企業（業界）の求人ニーズや採用動向、今後求める能力ニーズ等、労働者個人が能力開発やキャリア形成を図る際に必要となる情報

(3) 労働者個人の動向

労働者個人の求職ニーズ、能力開発の実施状況やニーズ、資格取得状況、キャリア形成の取組状況や支援ニーズ等、企業が人材育成、採用等を行う際に必要となる情報

(2) 能力開発の支援に関するもの

(1) 教育訓練

公共職業能力開発施設や専修・各種学校、職業訓練法人等の施設情報や教育訓練の実施状況、大学・大学院におけるリカレント教育の実施状況、教育訓練給付等の各種助成制度等、労働者個人の能力開発の手段である教育訓練の現状に関する情報

(2) キャリア形成

キャリアカウンセリング機関の実態、企業におけるキャリア形成支援に係る取組事例、労働者個人のキャリア形成に係る取組事例、公共機関（国、地方公共団体等）のキャリア形成に係る支援施策の内容等、労働者個人が一定の職業に関する目標を持って実践的な能力開発（キャリア形成）を図る際に活用できる情報

(3) 能力評価

公共及び民間の資格制度の内容と活用状況、企業の能力評価に係る取組事例等、労働者個人が能力開発やキャリア形成を図る際の目安となる能力評価の実態に関する情報

(3) 職業の現状に関するもの

(1) 仕事内容

仕事の中身、モデル的なキャリア形成事例（キャリアパス）等、労働者個人が就業やキャリア形成を図る際に活用できる具体的な仕事内容に関する情報

(2) 就業要件

当該職業（仕事）に必要な具体的な知識や技能、行動特性、実務経験、学歴、資格、適性等、労働者個人が就業やキャリアアップを図る際に活用できる能力等の要件に関する情報

(3) 労働条件

勤務場所、勤務時間、福利厚生、賃金等、労働者個人が就業する際に活用できる具体的な

労働・求人条件やマッチングに関する情報

上記情報については、既存の業務や統計調査等を通じて把握できるもの、実態調査（アンケート調査）を実施すべきもの、それらでは収集できず、相談援助等の業務支援を通じて把握（ヒアリング調査）すべきものに大別することが可能であるが、既存の情報提供事業の活用を含め、今後、具体的にどのような形態で情報を収集することが適当か。

（情報の収集方法）

各種情報については、実態調査（アンケート調査）で収集することが考えられるが、

- ・ 調査項目の中には、アンケート調査実施に係る調査項目の客観化（数値化、多岐選択式化）が困難であり、記述式にせざるを得ず、統計的分析が困難な情報があること
- ・ 調査項目によっては、各地域の産業特性等、地域ニーズや業界ニーズ等に応じた多様性を有するものがあること

等の制約があり、また、

- ・ 全国各地にある、雇用・能力開発機構都道府県センター、都道府県職業能力開発協会に設置されている職業能力開発サービスセンター、公共職業能力開発施設等における各種相談援助等の業務支援を通じて収集された（できる）情報
- ・ 教育訓練給付講座指定、委託訓練の実施等、既存の各種業務を通じて収集された（できる）情報

等を有効に活用していくことも効果的である。

このため、今後の情報収集に当たっては、以下のような手法が考えられる。

- ・ 既存の業務や統計調査では把握できない、労働市場ニーズやキャリア形成支援の現状等、労働市場動向に関する情報については、マクロ的なアンケート調査（短観調査）を継続的に実施して把握、収集する。
- ・ キャリア形成に係る先進的な取組事例等、客観化が困難な情報や、業界ごと、又は、地域ごとのニーズ等に関する情報については、各地にある業務支援機関等と連携の上、業界団体や個別企業ヒアリング調査等を実施して把握、収集する。
- ・ 教育訓練給付講座指定、各種助成金給付等、既存の業務を通じて得られた（る）情報については、当該情報にコードを付与して、データベースを構築することにより把握、収集する。

（情報収集に係る留意事項）

労働者個人が、職業能力開発に関する各種情報を入手し、活用していくに当たっては、労働力需給動向などについて、可能な限り情報の定量化を行い、比較可能性を高めていく必要

があるが、その際、情報内容や記述方法について、職種、職務内容、能力などに係る用語の統一化を図ることが重要である。

また、能力評価や処遇など、各企業の人事管理に直結するような情報については、マクロ的に労働市場の実態を鳥瞰するとともに、収集したものを労働市場に提供（公開）するという観点から、情報のフォーマットを共通化しないと、企業から情報を引き出すことは困難と考えられる。

さらに、労働移動が増大する中、既存の職種の枠が崩れ、外部労働市場でのマッチングや能力開発が必要になってきていることから、今後、情報収集を行うに当たっては、業種、職種の枠を超えた形態での収集方策を検討することも必要である。

一方、情報収集に当たっては、情報の鮮度を高めるとともに、統計的信頼性を高めるため、調査規模や頻度に留意する必要がある、

- ・ 毎年、定期的に収集・分析し、時系列的な比較分析を行う必要のある情報
 - ・ 情報内容に大きな変化は予測されないため、隔年、もしくは3年ごと等、ある程度の期間を隔てて収集・分析する必要がある情報
 - ・ IT化の進展等、経済社会情勢の変化を踏まえた政策課題を踏まえ、時宜に応じて、単発的に収集すべき情報
- 等に分類して調査することが適当である。

（今後の具体的な情報収集方策）

以上のようなことから、情報ごとの性質、収集方法の特徴等に鑑み、当面、上記で整理した必要となる各種情報について、以下のような方法により収集していくことが適当と考えられる。

（1）労働市場動向に関するもの

- ・ 企業（業界）の求人ニーズや今後求める能力ニーズ、労働者個人の求職ニーズや能力開発ニーズ等、既存の業務や統計調査等では把握することが困難で、しかも、経済社会情勢の変化に伴い、時々刻々変化することが予想される、労働市場動向に関する情報については、原則として、マクロ的なアンケート調査（短観調査）を毎年継続的に実施して把握、収集する。
- ・ 業界ごと、又は、地域ごとの人材ニーズ等に関する情報については、各地にある業務支援機関等と連携の上、業界団体や個別企業に対するヒアリング調査を実施して収集、把握する。
- ・ 景気動向や雇用動向等、労働市場全体に係る動向については、既存の各種指定統計等で把握することが可能と考えられるため、実態調査（アンケート調査）では、企業（業界）の動向や労働者個人の動向を中心に把握、収集する。

(2) 能力開発の支援に関するもの

- ・ 公共職業訓練の実施状況、公的な資格制度や助成制度の現状等については、事業実施機関である関係機関（雇用・能力開発機構、中央・都道府県職業能力開発協会等）から収集し、逐次更新する。
- ・ 専修学校や各種学校等の民間教育訓練機関における教育訓練の現状等に関する情報については、民間教育訓練機関を活用した現行の各種業務（教育訓練給付講座指定、委託訓練の実施等）を通じて得られる（た）情報について、コードを付与して、データベースを構築の上、逐次更新する。
- ・ 大学院等の高等教育機関におけるリカレント教育の実態、企業におけるキャリア形成や能力評価に係る取組事例等、現在未把握で、現行の業務では把握することが困難と考えられる民間における能力開発支援に係るインフラの整備状況については、マクロ的なアンケート調査、ヒアリング調査等を実施して、時系列的に把握、収集する。

(3) 職業の現状に関するもの

- ・ 各職業に関する仕事内容や就業要件、労働要件等に関する情報については、現行の職業ハンドブックが有効に活用できると考えられるが、現行の職業ハンドブックは学生・生徒や学校等を主な利用対象としている。このため、今後は、適宜、業界団体に対してヒアリングや一部業務の委託等を行い、労働者のキャリア形成や能力開発に資する、各職業ごとのモデル的なキャリア形成事例、就業に必要となる具体的な知識、技能、行動特性や思考特性等の能力要件等の情報を把握、収集し、充足につなげることが有効と考えられる。

【労働市場におけるインフラとして必要な情報の具体的な収集方策】（省略）

今後、労働者個人が仕事の中身を理解し、職業能力開発を行うための情報を入手できるシステムとしての労働市場インフラを構築していくに当たり、どのような点に留意する必要があるのか。

（情報システムの構築に係る留意点）

収集した情報を労働市場の構成員である労働者個人、企業等に提供する際には、

- ・ 冊子等の広報媒体を活用して、関係機関、業界団体等、特定多数の者に提供
 - ・ インターネット等の情報公開チャンネルを活用して、幅広く、不特定多数の者に提供
- 等の手法が考えられるが、今後の情報システムを構築するに当たっては、主に以下のような点に留意する必要があると考えられる。
- ・ 収集した情報には、個別労働者や個別企業に関する情報（一次情報）と、これを業種や職種等の観点で加工・整理し、必要に応じて分析を加えた情報（二次情報）があり、両者につ

いて、情報の利用目的に沿った効果的な提供を行う。

- ・ インターネットを活用した情報提供については、関係機関のホームページ（ＨＰ）をリンクさせることにより、労働者個人等の情報ユーザーがどこの機関のＨＰからも各種の情報にアクセス可能となるようなシステムを構築する。
- ・ 労働移動が増大する中、既存の職種の枠が崩れ、外部労働市場でのマッチングや能力開発が必要になってきていることから、職種や業種ごとのみでなく、具体的な能力要件や労働条件など、様々な観点からの検索を可能とするシステムを構築する。
- ・ 収集・分析された情報のうち、冊子等の広報媒体については、キャリア形成支援機関や公共職業安定所等の関係行政機関、大学や高校等の学校教育機関等に送付し、キャリアカウンセリングや職業相談に活用するとともに、これから労働市場に参入する層を含め、幅広く活用できるようにする。

（情報システムの運用に係る留意点）

こうした情報システムについては、労働者個人や企業によって、職業選択、キャリア形成、能力開発、転職、採用等、様々な目的で活用されてこそ、その価値が高まるとともに、労働市場におけるインフラとしての機能を果たしたと言える。このため、適宜、情報ユーザーである労働者個人や企業等の情報ニーズを把握し、提供情報の内容更新に努めるなど、情報システムが、労働市場インフラとして効果的に機能しているかどうかをフォローアップしていく体制整備も重要である。

その際、特に、企業（業界）に係る情報については、業界ごとにデータベースを構築し、公共が多角的な視点からの検索機能を付与して、業界ごとの情報サイトとリンクさせた情報システムを構築することが考えられる。こうしたシステムにより、効果的かつ効率的な情報内容の更新が図られるとともに、中央で一元的に情報を集約することに比べ、情報システムの構築・運用に係る初期コスト・ランニングコストを軽減できると考えられ、情報システムの構築に当たっては、官民の適切な役割分担についても留意する必要がある。

なお、特に労働者個人が実際に活用している情報は、明示できないものも多く、その大半はインフォーマルな人的ネットワークを通じて収集したものと思料される。このため、今後、情報システム（フォーマルなネットワーク）を運営していくに当たっては、こうした際のきっかけを付与できるような情報を適切に提供し、労働者個人等を支援していくことが重要となるであろう。

（参考）

我が国における情報システムの構築に当たっては、諸外国における先進的な取組事例として、特に、America's Career Kit（米）が参考になるのではないかと。

<America's Career Kit>（概要説明省略）

<0*Net>

職業辞典 DOT に代わる、より多面的かつ最新の情報を反映したものとして開発されている、職業に関する総合的なデータベース。より多くの情報があれば、より多くの就職や転職の機会があるとの思想に沿って、自分の経験や能力に合った他の仕事があるか、自分の興味や能力を活かせる職業はどのようなものか等を検索することができるシステム。

約 900 の職業それぞれについて、以下のような情報が含まれており、各職業の各カテゴリーは 0～100 の評価値が入っている。0*Net 全体としては、約 900 の職業を行、各項目とそのカテゴリーを列とするマトリックス（行列）となっている。約 900 の職業の分類は SOC(Standard Occupational Classification)に基づいており、列を構成する項目は情報のあるもの、必要性が高いものから順次開発されている。

全ての職業に対してスキルをはじめとする項目の基準が数値で入っているところに重要な意味がある。

- ・スキル－46 の Basic skill と Cross-Functional skill
- ・仕事内容－どのようなことをする仕事か。42 カテゴリー
- ・興味－ホルランドの 6 類型
- ・価値観－職務に関連した 17 の価値観（Work Style）。達成、承認等
- ・Work Context－仕事に関連した 46 の身体的、社会的要因
- ・Organizational Context－仕事に関係する 51 の組織特性
- ・経験訓練－仕事に必要な経験と教育訓練

アメリカにおいては、0*Net について、下記のような効果が期待されている。

（人事担当者、企業経営者）

- ・採用や教育訓練をよりの確に行う
- ・採用時にどのようなスキル等が必要かを明らかにする
- ・社員の教育訓練を設定する際、仕事内容、スキル等を明確にする
- ・正確で詳細な職務記述を可能にする
- ・昇進、昇格の際の判断基準
- ・社員の再就職等を斡旋する際に活用する

（求職者）

- ・求職に当たり、各職業のスキル、興味等の情報を活用する
- ・どの職業が自分に合っているかを知る
- ・教育訓練に係る情報を自分をどのように伸ばすか判断する際に活用する

我が国における既存の統計調査や現行の情報提供事業についても有効に活用できると考えられるが、活用にあたって留意すべき点があるとすれば、それはいかなるものか。

＜人材ニーズ調査＞（概要説明省略）

＜職業ハンドブック＞（同上）

＜職業能力開発ステーション＞（同上）

＜能力開発情報システム（ADD S）＞（同上）

＜学校基本調査＞（同上）

＜専修学校に関する実態調査＞（同上）

＜民間教育訓練実態調査＞（同上）

＜専門職種別労働力需給状況調査＞（同上）

3 労働市場政策の企画立案にあたって有効に活用すべき情報

上記2の観点から必要な情報のうち、我が国労働市場全体のキャリア形成、職業能力評価、教育訓練等に係るインフラの整備状況（実態）を鳥瞰できる情報については、キャリア形成支援、職業能力評価制度の整備、教育訓練システムの確立等、今後の労働市場政策の企画立案にあたって有効に活用できるのではないか。

（情報の必要性）

個人主導の職業能力開発の重要性が増す中、今後、労働者個々人が効果的なキャリア形成を図っていくためには、職業能力の適正な評価を行うとともに、自らの能力に応じた効果的な教育訓練の受講等を通じて、能力を向上させ、雇用の安定や就業の促進を図れるよう、キャリア形成支援、職業能力評価制度の整備、教育訓練システムの確立等、中長期的な視点に立った新たな労働市場政策の枠組み整備、構築を官民が連携していく必要がある。

こうした労働市場インフラの整備にあたっては、官民連携により構築していくことが重要であるが、官は、民間におけるこうしたインフラシステムの整備状況（労働市場のインフラが整っているのか、個人が利用できるようになっているのか等）を常に把握しつつ、システム整備を検討していく必要がある。

（必要となる具体的な情報内容）

このような中、上記2で整理した労働市場におけるインフラとして必要な情報のユーザーとしては、主として労働者個人、企業等であるが、行政としても、これらの情報のうち、特に、以下のような、我が国労働市場全体（特に民間）のキャリア形成や職業能力評価、教育訓練の実態を鳥瞰できる情報については、今後、新たな労働市場政策の企画立案や既存政策の評価を行うに当たり有効に活用できると考えられる。

なお、こうした情報を定期的に収集、更新することにより、時系列的に把握することで、労働市場の成熟度を測ることも可能になると考えられる。

- ・ キャリア形成支援に係る具体的な支援機関（公共、企業内、外部等）及び数、支援体制、具体的な支援内容等、我が国労働市場全体のキャリア形成支援に係る実態（労働市場インフラとしての整備状況）を鳥瞰できる情報
- ・ 公共及び民間の資格制度の活用状況、具体的な職業能力評価機関（企業内、外部等）及び数、評価基準の有無等、我が国労働市場全体の職業能力評価制度に係る実態（労働市場インフラとしての整備状況）を鳥瞰できる情報
- ・ 専修・各種学校等の民間教育訓練機関の数、教育訓練の実施状況、大学・大学院におけるリカレント教育の実施状況等、我が国労働市場全体の教育訓練に係る実態（労働市場インフラとしての整備状況）を鳥瞰できる情報

4 公共職業訓練コースの開発・設定等に当たって有効に活用すべき情報

公共職業訓練コースの開発・設定に当たっては、政策方針企画から訓練コースの設定・実施に至るまでの各段階において、各種の情報が活用されているが、今後は、特に、設定した訓練コースの実施成果（政策評価）という観点が重要になってくると考えられるが、その際、有効に活用すべき情報としては、具体的にどのようなものか。

（以下省略）

5 今後の情報システムの構築に向けた事業展開

今後、特に、上記2の観点から労働市場におけるインフラとして必要となる情報を収集・整理し、提供・活用していくための情報システムを構築していくに当たり、具体的にどのような段取りで検討を進めていくことが適当か。

労働市場におけるインフラとして必要な情報については、関係部局、関係機関等との連携・調整の上、収集・提供していくべきものであるが、労働市場の構成員である労働者個人、企業等によって、様々な目的に沿って効果的に活用されてこそ、また、労働市場政策の企画立案、公共職業訓練コースの開発・設定に当たって必要となる情報についても、それぞれの目的に資する情報を収集し、活用できてこそ、労働市場インフラとしての機能を果たしたと言える。

このため、平成13年度以降は、今後の本格的な情報システムの構築に向けて、本研究会において整理した事項を踏まえ、以下のように事業を展開していくことが考えられる。

- (1) 必要情報に係るニーズ調査（予備的調査）（内容省略）
- (2) 情報収集活動の展開（同上）
- (3) 業務統計の活用（同上）
- (4) 情報収集・提供体制の整備

情報システムの構築に当たっては、職業能力開発行政のみならず職業安定行政とも緊密に連携して事業を展開すべきであり、また、雇用・能力開発機構、中央・都道府県職業能力開発協会、日本労働研究機構等の関係団体相互の効果的な連携方策や、「私のしごと館」等の関係施設の活用方策等を検討する必要がある。

このため、当面、関係行政機関及び関係団体の有識者により、効果的で実現可能性のある情報システムの構築に向けた連携方策等について整理することが適当と考えられる。

また、情報システムを構築するに当たっては、インターネットを活用して、業種、職種に限らず、様々な観点からの情報検索を可能とするとともに、関係業界団体等の情報サイトとリンクさせるなどの付加機能を有したものとする必要がある。

以上のようなことを踏まえ、具体的には、概ね、以下のような段取りで検討を進めていくことが考えられる。

- (1) 関係行政機関、関係団体、関係施設間の連携・活用方策の検討
- (2) 情報システム構築に向けた検討
- (3) 情報システムの設計、簡易版の作成及び検証
- (4) 情報システムの構築、試行、運営開始

資料4 キャリアマトリックス掲載 512 職業一覧

職業分野(大)		職業分野(中)		ESCO	キャリアマトリックス収録職業名
1	モノづくりの 職業	11	金属の製造・加工	A 041-10	金属精錬技術者(鉄鋼)
				A 041-20	鑄造技術者
				A 041-30	鍛造技術者
				I 511-20	製鋼工
				I 513-00	鋳物工
				I 514-00	鍛造工
				I 515-10	金属熱処理工
				I 516-20	圧延工
				I 519-50	非破壊検査員
				I 519-50	金属材料製造検査工
				I 551-20	NC研削盤工
				I 551-20	NCフライス盤工
				I 551-21	NC旋盤工
				I 551-26	マシニングセンター・オペレーター
				I 551-30	放電加工機工
				I 552-00	金属プレス工
				I 553-10	造船工
				I 556-00	めっき工
				I 559-22	金型工
				I 559-70	金属加工・金属製品検査工
				I 561-00	溶接工
		12	機械の設計・組立	A 031-10	エンジン設計技術者
				A 031-20	自動車技術者
				A 031-30	精密機械技術者
				A 031-40	プラント設計技術者
				I 571-00	機械組立工
				I 582-10	AV・通信機器組立・修理工
				I 585-10	IC生産オペレーター
				I 586-10	パソコン組立・調整工
				I 586-20	医療用画像放射線機器組立工
				I 587-31	家電修理エンジニア
				I 591-00	自動車組立工
				I 595-10	自転車製造工
				I 601-00	計器組立工
		13	繊維・木材の加工	I 603-30	カメラ組立工
				I 572-11	紡織保全工
				I 641-40	紡績運転工
				I 644-10	織布運転工
				I 646-00	染色工
				I 651-10	婦人・子供服仕立職
				I 652-10	テーラー
				I 655-00	ミシン縫製工
				I 661-00	製材工
				I 662-00	合板工
		14	食品製造	I 664-20	家具工
				I 664-20	建具工
				I 674-00	紙器製造工
				A 025-10	食品技術者
				I 614-10	みそ製造工
				I 614-20	しょうゆ製造工
				I 622-10	製パン工
				I 622-20	洋菓子職人
				I 622-30	和菓子職人
				I 623-11	豆腐職人
				I 624-10	かん詰・びん詰・レトルト食品製造工
				I 625-00	乳製品製造工
				I 626-20	ハム・ソーセージ製造工
				I 627-40	水産ねり製品製造工
				I 628-10	野菜つけ物工

2	建設の職業	15	日用品製造	I 629-11	冷凍加工食品製造工
				I 629-20	惣菜製造工
				I 629-20	機内食製造工
				I 632-10	清酒製造工
				I 633-10	ビール製造工
				I 633-20	ワイン製造工
				I 532-10	ガラス食器製造工
				I 535-10	陶磁器工
				I 693-00	プラスチック製品成形工
				I 702-10	靴製造工
				I 711-10	かばん・袋物製造工
				I 712-00	玩具製造工
				I 715-10	漆器工
				I 716-00	貴金属・宝石細工工
				I 719-10	バイオリン製造工
		16	印刷・写真	D 339-42	DPEショップ店員
				I 681-20	電算写植オペレーター
				I 681-20	DTPオペレーター
				I 682-20	プロセス製版オペレーター
				I 683-00	印刷作業員
				I 684-10	製本作業員
		17	その他モノづくり	I 725-10	写真・映像処理オペレーター
				A 034-10	電気技術者(強電)
				A 034-21	電子機器技術者
				A 035-10	電気通信技術者
				A 036-20	原子力技術者
				A 042-30	高分子化学技術者
				A 042-40	バイオケミカル技術者
				A 042-50	分析化学技術者
				A 043-10	陶磁器技術者
				A 043-20	ファインセラミックス製造技術者
				A 071-10	生産・品質管理技術者
				A 209-99	調香師
				I 521-10	化学製品製造オペレーター
				I 522-00	石油精製オペレーター
				I 525-10	医薬品製造員
				I 525-30	化粧品製造工
				I 537-10	セメント生産オペレーター
				I 541-00	石工
				I 692-20	タイヤ製造工
				I 729-99	花火師
				I 741-10	発電員
		21	土木・建築・構造物工事	A 051-11	建築設計技術者
				A 051-12	建築施工管理技術者
				A 052-00	土木設計技術者
				A 052-00	土木施工管理技術者
				A 053-10	測量士
				I 553-10	鉄骨工
				I 726-11	CADオペレーター
				I 734-10	建設機械オペレーター
				I 754-10	トンネル建設作業員
				I 755-10	さく井工・ボーリング工
				I 761-10	型枠大工
				I 762-10	とび
				I 763-00	鉄筋工
				I 771-10	大工
				I 779-10	潜水士
				I 781-10	建設作業員
				I 781-20	舗装作業員
		22	仕上・設備工事	I 554-11	建築板金工
				I 571-99	エレベーター据付工
				I 723-40	建築塗装工

				I 742-10	送電線架線工
				I 746-00	電工
				I 762-20	取りこわし作業員
				I 772-10	建築ブロック工
				I 772-20	タイル工・れんが工
				I 774-10	左官
				I 776-10	配管工
				I 777-11	サッシ工
				I 777-30	内装工
				I 778-10	防水工
				I 779-20	保温工
				I 782-00	鉄道線路工事作業員
				A 034-21	カスタマーエンジニア
				A 061-10	システムエンジニア(アプリケーションスペシャリスト)
3	オフィスの職業	31	コンピュータ	A 061-10	システムエンジニア(ソフトウェア開発)
				A 061-10	システムエンジニア(プロジェクトマネージャー)
				A 061-10	システムエンジニア(ITアーキテクト)
				A 061-10	システムエンジニア(ITスペシャリスト)
				A 061-10	システムエンジニア(ITコンサルタント)
				A 061-10	システムエンジニア(セールス)
				A 062-10	プログラマー
				C 312-10	データ入力係
		32	事務	C 251-11	人事係事務員
				C 251-13	広報事務員
				C 252-13	教育・研修事務員
				C 252-13	学校事務員
				C 253-10	受付係
				C 254-10	秘書
				C 255-10	一般事務員
				C 259-20	医療事務員
				C 262-10	銀行窓口係
				C 263-21	経理事務員
				C 263-22	物品購買事務員
				C 281-30	貿易事務員
				C 281-45	損害サービス事務員
				C 289-20	通信販売受付事務員
				C 303-00	郵便事務員
		33	経営・管理	C 231-12	銀行支店長
				E 376-10	ホテル・旅館支配人
		34	その他オフィス	A 209-99	アクチュアリー
				A 209-99	証券アナリスト
				C 252-20	マーケティング・リサーチャー
				C 311-10	速記者
4	販売の職業	41	百貨店・スーパー	C 261-11	レジ係
				C 281-10	デパート仕入部員
				C 281-20	商品管理係
				D 321-20	スーパー店長
				D 324-10	デパート店員
				D 324-10	スーパー店員
				D 327-20	デパート外商部員
		42	営業・セールス	C 252-11	商品開発部員
				C 281-00	商社営業部員
				C 289-10	テレコミュニケーター
				D 324-26	OA機器販売員
				D 327-21	自動車販売員
				D 327-22	医薬情報担当者
				D 327-31	印刷営業員
				D 331-10	住宅・不動産営業員
				D 332-12	生命保険外務員
				D 333-10	証券外務員
				D 333-20	ディーラー
				D 335-11	信用金庫渉外係

				D 335-14	広告営業員
				D 339-99	せり人
		43	販売・配達	C 252-10	チェーン店スーパーバイザー
5	専門・企業サービスの職業	51	専門サービス	C 299-10	検針員
				D 321-10	八百屋・魚屋・肉屋店主
				D 324-20	フラワーショップ店員
				D 324-20	レコード店員
				D 324-20	眼鏡技術販売員
				D 324-20	玩具店員
				D 324-20	スポーツ用品店員
				D 324-20	自転車販売店員
				D 324-20	DIY店員
				D 324-20	ペットショップ店員
				D 324-21	ファッション商品販売員
				D 324-21	シューフィッター
				D 324-22	ベーカリーショップ店員
				D 324-23	書店員
				D 324-23	古書店員
				D 324-25	化粧品販売員
				D 324-26	電器店員
				D 324-30	コンビニエンスストア店員
				D 324-40	駅構内売店販売員
				D 324-70	繊維卸店員
				D 324-70	青果店員
				D 325-10	化粧品訪問販売員
				D 339-30	プレイガイド店員
				H 504-10	郵便外務員
				I 794-10	宅配便配達員
				I 794-21	新聞配達員
				I 794-23	清涼飲料ルートセールス員
		52	施設管理	A 131-30	弁護士
				A 132-10	弁理士
				A 132-20	司法書士
				A 141-10	公認会計士
				A 141-30	税理士
				A 142-10	社会保険労務士
				A 149-10	中小企業診断士
				A 149-99	経営コンサルタント
				A 171-40	翻訳者
				A 205-10	行政書士
				A 205-20	土地家屋調査士
				A 205-30	不動産鑑定士
				A 209-20	通訳者
				A 209-99	ファイナンシャル・プランナー
				A 209-99	気象予報士
				A 209-99	国際協力専門家
				A 209-99	青年海外協力隊員
				A 209-99	シニア海外ボランティア
				A 071-99	産業廃棄物処理技術者
6	個人サービスの職業	61	ホテル・飲食店	E 381-10	寄宿舎・寮・マンション管理人
				E 383-10	ビル施設管理者
				E 384-11	駐車場管理人
				F 423-10	警備員
				I 731-10	ボイラーオペレーター
				I 801-11	ビル清掃員
				I 801-14	列車清掃員
				I 801-20	産業廃棄物収集運搬作業員
				I 801-21	じんかい収集作業員
				C 253-10	ホテルフロント係
				D 323-20	ハンバーガー店マネージャー
				D 324-22	コーヒーショップ店員
				E 361-10	板前

				E 361-11	すし職人
				E 361-20	コック
				E 361-30	中華料理調理人
				E 361-30	ラーメン調理人
				E 361-40	給食調理人
				E 361-99	そば・うどん調理人
				E 362-10	バーテンダー
				E 371-10	ソムリエ
				E 371-12	ホールスタッフ
				E 372-10	ベルボーイ・ベルガール
				E 372-12	ホテル客室係
				E 376-10	ペンション経営者
		62	レジャー・スポーツ	A 203-10	競輪選手
				A 203-10	プロ野球選手
				A 203-10	プロサッカー選手
				A 203-10	プロゴルファー
				A 203-10	力士
				A 203-10	自動車レーサー
				A 203-10	騎手
				A 203-10	競艇選手
				A 203-30	プロ野球審判員
				A 209-99	将棋棋士
				A 209-99	囲碁棋士
				C 281-20	旅行会社カウンター係
				E 375-20	遊園地スタッフ
				E 375-20	ゲームセンター店員
				E 375-20	パチンコ店員
				E 375-27	キャディ
				E 391-10	ツアーコンダクター
				E 391-20	通訳ガイド
				H 491-21	観光バスガイド
		63	その他 個人サービス	A 112-10	リフレクソロジスト
				A 159-20	自動車教習所指導員
				A 161-10	宗教家
				A 202-20	音楽教室講師
				A 202-30	スポーツインストラクター
				A 209-30	ピアノ調律師
				A 209-99	私立探偵
				E 341-10	家政婦(夫)
				E 351-10	理容師
				E 352-10	メイクアップアーティスト
				E 352-10	ネイル・アーティスト
				E 352-10	美容師
				E 353-10	きもの着付指導員
				E 353-20	エステティシャン
				E 353-20	アロマセラピスト
				E 355-10	クリーニング師
				E 393-10	ビデオレンタル店員
				E 393-10	レンタカー営業所員
				E 395-10	葬祭ディレクター
				E 399-99	結婚式場スタッフ
7	福祉・公務の職業	71	福祉	A 121-10	児童相談員
				A 121-11	福祉事務所ケースワーカー
				A 122-10	社会福祉施設指導員
				A 123-10	保育士
				A 124-10	社会福祉施設介護職員
				A 129-10	ケアマネジャー(介護支援専門員)
				A 129-10	福祉用具専門相談員
				A 201-10	キャリアカウンセラー(キャリアコンサルタント)
				A 201-12	産業カウンセラー
				A 209-99	手話通訳者
				E 342-10	ホームヘルパー

		72	公務	A 131-10	裁判官
				A 131-20	検察官
				A 139-50	家庭裁判所調査官
				A 139-99	公正取引委員会審査官
				A 159-50	法務教官
				B 211-20	地方議会議員
				B 212-10	外交官
				C 259-10	行政事務員(国)
				C 259-10	行政事務員(都道府県市町村)
				C 259-99	国際公務員
				C 269-12	税務職員
				F 401-10	陸上自衛官
				F 402-10	海上自衛官
				F 403-10	航空自衛官
				F 403-10	空挺隊員
				F 403-10	戦闘機パイロット
				F 411-10	警察官
				F 412-10	海上保安官
				F 419-10	麻薬取締官
				F 421-10	刑務官
8	医療・保健の職業	81	医師・看護師・ 薬剤師	F 422-11	消防士
				F 422-12	救急救命士
				F 429-20	入国警備官
				A 081-10	外科医
				A 081-10	小児科医
				A 081-10	内科医
				A 081-10	精神科医
				A 081-10	産婦人科医
				A 082-10	歯科医師
				A 084-10	薬剤師
		82	医療技術者	A 091-10	保健師
				A 092-10	助産師
				A 093-10	看護師
				A 101-10	診療放射線技師
				A 102-10	臨床検査技師
				A 103-10	理学療法士
				A 103-20	作業療法士
				A 104-10	歯科衛生士
				A 105-10	歯科技工士
				A 106-10	臨床工学技士
		83	その他 保健医療	A 107-10	視能訓練士
				A 107-20	言語聴覚士
				A 119-20	細胞検査士
				A 111-10	栄養士
				A 112-10	あんまマッサージ指圧師
				A 112-10	カイロプラクター
				A 112-20	はり師・きゅう師
				A 112-40	柔道整復師
				A 119-10	義肢装具士
				A 121-11	医療ソーシャルワーカー
9	教育・研究の職業	91	教育	A 209-99	診療情報管理士
				A 011-10	天文学者
				A 011-11	数学者
				A 011-12	地震学研究者
				A 011-14	動物学者
				A 011-14	植物学者
				A 011-21	土木・建築工学研究者
				A 011-25	情報工学研究者
				A 011-32	畜産学研究者
				A 011-40	細菌学研究者
				A 011-40	医学研究者
				A 012-10	人類学者

				A 012-22	法律学者
				A 151-10	幼稚園教員
				A 152-10	小学校教員
				A 153-10	中学校教員
				A 154-10	高等学校教員
				A 156-10	大学・短期大学教員
				A 157-10	盲・ろう・養護学校教員
				A 159-10	専門学校教員
				A 159-30	職業訓練指導員
				A 202-10	学習塾教師
				A 202-10	英会話教師
				A 202-10	日本語教師
				A 209-60	司書
				A 209-70	社会教育主事
				A 209-99	学芸員
				A 011-10	化学者
				A 011-12	物理学者
				A 011-20	メカトロニクス研究者
				A 011-26	バイオテクノロジー研究者
				A 011-43	薬学研究者
				A 012-22	政治学者
				A 012-23	エコノミスト
				A 209-99	鑑識技術者
				H 462-10	電車運転士
				H 471-10	観光バス運転者
				H 471-11	路線バス運転者
				H 472-12	タクシー運転者
				H 473-11	トラック運転者
				H 482-10	航海士
				H 483-20	船舶機関士
				H 484-10	パイロット
				H 491-10	鉄道車掌
				A 209-99	通関士
				C 301-11	有料道路料金収受員
				C 301-21	駅務員
				C 301-22	空港旅客係
				C 302-10	鉄道運転計画・運行管理員
				C 302-23	タクシー配車オペレーター
				C 302-40	デイスパッチャー
				D 324-50	ガソリンスタンド・スタッフ
				E 372-21	客室乗務員
				F 429-10	道路パトロール隊員
				H 493-10	船員
				H 509-10	航空管制官
				I 592-10	自動車整備工
				I 593-40	航空整備士
				I 791-10	港湾荷役作業員
				I 792-14	引越作業員
				I 792-20	積卸作業員
				I 793-10	倉庫作業員
				I 795-10	こん包工
				A 172-11	新聞記者
				A 172-11	海外特派員
				A 172-20	放送記者
				A 172-31	雑誌記者
				A 172-31	雑誌編集者
				A 172-32	図書編集者
				A 172-99	フリーライター
				A 172-99	トラベルライター
				A 185-22	報道写真家
				A 185-40	テレビカメラマン
				A 191-40	ミュージシャン

				A 193-10	俳優
				A 193-30	声優
				A 194-20	放送ディレクター
				A 194-21	舞台演出家
				A 194-22	映画監督
				A 194-99	舞台美術家
				A 195-00	演芸家
				A 195-50	コメディアン
				A 209-10	アナウンサー
				A 209-40	舞台照明家
				A 209-99	料理研究家
				H 501-21	テレビ・ラジオ放送技術者
				H 501-21	映像編集者
				H 509-99	録音エンジニア
	112	デザイン・広告		A 171-50	コピーライター
				A 172-99	テクニカルライター
				A 182-30	テクニカルイラストレーター
				A 182-30	イラストレーター
				A 182-30	マンガ家
				A 184-11	CGデザイナー
				A 184-11	ゲームクリエイター
				A 184-11	アートディレクター
				A 184-11	グラフィックデザイナー
				A 184-11	広告デザイナー
				A 184-11	広告ディレクター
				A 184-12	ディスプレイデザイナー
				A 184-20	工業デザイナー
				A 184-30	インテリアデザイナー
				A 184-30	インテリアコーディネーター
				A 184-40	ファッションデザイナー
				A 184-41	テキスタイルデザイナー
				A 184-99	WEBクリエイター
				A 184-99	ブックデザイナー
				A 184-99	カラーコーディネーター
				A 184-99	フラワーデザイナー
				A 184-99	ジュエリーデザイナー
				A 184-99	フードコーディネーター
				A 185-21	商業写真家
				A 209-99	スタイリスト
				E 375-20	コンパニオン
				E 394-11	モデル
				I 659-10	パタンナー
				I 724-13	アニメーター
				I 724-20	看板制作者
	113	芸術・工芸		A 171-10	小説家
				A 171-10	児童文学者
				A 171-10	歌人・俳人
				A 171-20	シナリオライター
				A 181-10	彫刻家
				A 182-10	画家
				A 183-10	ガラス工芸家
				A 183-10	金工作家
				A 191-10	作曲家
				A 191-30	クラシック演奏家
				A 192-20	バレエダンサー
				A 209-99	美術品補修員
				I 729-99	刀匠
12	自然・動植物の職業	121	自然	A 202-99	アウトドアインストラクター
				C 259-99	パークレンジャー
				G 432-50	きゆう務員
		122	動植物	A 021-10	農業技術者
				A 022-10	畜産技術者

			A 023-10	林業技術者
			A 024-10	水産技術者
			A 071-99	宇宙開発技術者
			A 083-10	獣医師
			A 209-50	調教師
			A 209-50	犬訓練士
			E 399-60	トリマー
			G 431-10	稲作農業者
			G 431-31	果樹栽培者
			G 431-32	花き栽培者
			G 431-60	ハウス野菜栽培者
			G 432-10	酪農家
			G 432-42	動物園飼育スタッフ
			G 432-99	動物看護師
			G 433-20	造園師
			G 449-99	林業作業者
			G 451-10	沿岸漁業者
			G 454-10	水産養殖作業者
			G 454-99	水族館飼育スタッフ

*職業調査票番号

職業調査票(新規用) Ver. 1.2 (2009)

記入上のお願い

独立行政法人 労働政策研究・研修機構

1. この調査票は、「総合的職業情報データベース」のデータの基礎資料として使用します。
2. 統計資料、調査資料、業界紙、新聞・雑誌の紹介記事、職業に関連する資格の資料などをお持ちの場合は、参考資料としてコピーを添付して下さい。
3. 統計資料・調査資料などがある場合は、それに基づいてお答えください。その際できるだけその情報源を明示してください。また、資料等がない場合でも、推計や経験に基づいて、できるだけすべての質問にお答えください。
4. 個々の企業や就業者による違いが大きいような設問は、この職業に就いている標準的な人(最も多いと考えられるレベル)を想定してください。そして、このような偏りがみられる場合には、その旨をお書きください。
5. *印欄.....は記入しないでください。

職業名

記入者

回答者

所属

電話 FAX

〒

住所

記入年月日 年 月 日

【全般についてのコメント(もしあればお書きください)】

.....
.....
.....
.....
.....
.....

A 職業のイメージ

A－1 この職業の特徴は簡単にいうと、どのようなものですか。

A－2 この仕事のやりがい/面白さは何ですか。また、この仕事をしていく上での苦労やストレスは何ですか。

B 仕事の内容

B－1 この職業に従事している人はどんな仕事をしているか、日常している主な仕事を中心に、その職業が他の職業と区別される中核となる仕事の内容を書いてください。また、どういう目的で、どのようなやり方をするのかを、分かりやすく記述してください。

B－2 この職業を特徴づける機械、装置、器具、原材料、取扱品目、サービスの種類などを、分かりやすく記述してください。

B－3 この職業に従事する人が一人前になるために身につけなければならない知識やスキル（技能・技術）、経験や責任の程度について記述してください。

B－4 タスク（課業）

一つの職業は、いくつもの細かいタスク（課業）から成り立っています。以下にこの職業の通常考えられているタスクを列挙しています。この職業に含まれるタスクをすべて選択してください。妥当と思われるものについて○の箇所に✓をお願い致します。また、これ以外のタスクがありましたら、【追加タスク記入欄】に記入をお願いします。

-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-

上記以外のタスクがありましたら、上記の書き方を参考に、以下に箇条書きでご記入ください。上記内容の修正でも結構です。

【追加タスク記述欄】

C 他職業との関係

C-1 縦横の関係、上下の関係

他の職業との関係についてお聞きします。横の移動、縦の移動に特徴がある場合は、①～④の枠内に記入してください。また、他の職業から指示を受けたり、指示を与える場合には⑤～⑥の枠内に記入してください。

① “この職業” から昇進する職業		昇進の条件
③ “この職業” へ転職可能な職業	↑ この職業 ↑	④ “この職業” から転職可能な職業
⑤ “この職業” に指示を与える職業	→ この職業 →	⑥ “この職業” から指示を受ける職業

- 注) ① この職業から、事業所内で昇進する可能性のある職業を記入してください。
② この職業へ、事業所内で昇進する可能性のある職業を記入してください。
③ この職業へ、事業所を越えて移動・転換（転職）する可能性のある職業を記入してください。
④ この職業から、事業所を越えて移動・転換（転職）する可能性のある職業を記入してください。
⑤ 他の職業から指揮・監督を受けることのある場合、その職業を記入してください。（同じ職業で上級者による指導・監督は除く）
⑥ 他の職業を指揮・監督することのある場合、その職業を記入してください。（同じ職業で見習への指導・監督は除く）

C-2 関係のある職業

2-1 この職業と部分的に共通・類似の仕事をもつ職業があれば、ご記入ください。

(例：美容師と理容師)

2-2 この職業と協力・協同関係にある職業があれば、ご記入ください。

(例：歯科医師と歯科技工士、建築士とインテリアデザイナー)

2-3 この職業の別の呼び名があれば、ご記入ください。

D 就業者の特徴

D-1 就業者数

1-1 この職業にはどのくらいの就業者がいますか。

およそ _____ 人 (資料出所 : _____)

1-2 そのうち男女の内訳数が分かればその数を、分からない場合は割合を記入してください。

(割合の場合は、合計が 100% になるように)

就業者 男性 _____ 人 (%)

女性 _____ 人 (%)

(資料出所 : _____)

1-3 数年前と比較して、男女別の参入割合に変化はありますか。

() ① 男性の参入割合が増えている

() ② 女性の参入割合が増えている

() ③ 男女の参入割合は変わらない

1－4 就業者の数はここ5年でどのように変化してきましたか。

- () ① 増加してきている
() ② 減少してきている
() ③ あまり変化はない

1－5 就業者の数は今後の5年でどのように変化するでしょうか。

- () ① 増加するだろう
() ② 減少するだろう
() ③ あまり変化しないだろう

D－2 年齢構成

2－1 就業者の年齢構成は、①～③のどれにあてはまりますか。(複数回答可)

- () ① 10代～20代が多い(およそ10人中3人以上)
() ② 30代～50代が多い(およそ10人中7人以上)
() ③ 60歳以上が多い(およそ10人中2人以上)

(資料出所 : _____)

2－2 次の年代の就業者の割合は全体の何%くらいですか。

10代～20代	およそ _____ %
60歳以上	およそ _____ %

D－3 就業上の地位別

自営業主と雇用労働者の割合はどのくらいですか。

自営業主 : 雇用労働者 = (:)
(請負・家族従業者含む)

(資料出所 : _____)

D－4 雇用形態

雇用労働者のうち、それぞれの就業形態に関して、割合はだいたいどのくらいですか。

(合計が 100%になるように答えてください。)

正社員	およそ _____ %
パートタイマー	およそ _____ %
契約社員	およそ _____ %
派遣労働者	およそ _____ %
学生アルバイト	およそ _____ %

(資料出所 : _____)

D－5 入職・離転職

5－1 この職業には毎年どのくらい入職者があり、またどのくらい離転職者がありますか。

入 職 : _____ 人

離転職 : _____ 人

(資料出所 : _____)

5－2 この職業に就いている人の毎年の離転職の程度はどうですか。

() ①はげしい (およそ 10 人中 3 人以上)

(その理由 : _____)

() ②普通 (10 人中 2 人程度)

() ③安定している (10 人中 0 ～ 1 人程度)

E 産業や地域の特徴

E－1 産業分野

この職業はどの産業に多くみられますか。①～⑭のうち二つまで選び、一番多いものに◎、次に多いものに○を記入してください。(一つでも構いません。)

() ①農林漁業

() ②鉱業

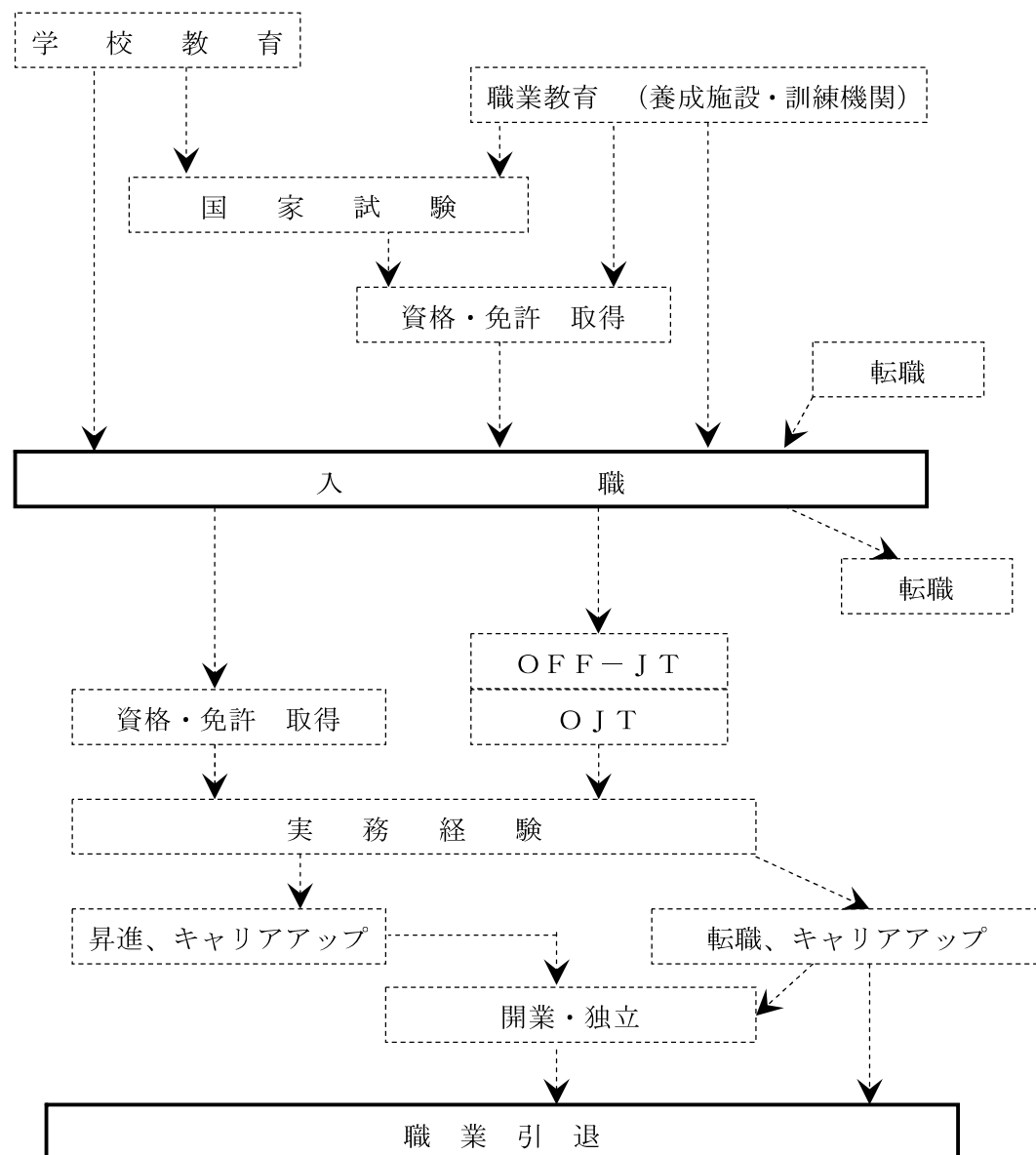
() ③建設業

() ④製造業

F 産参入条件、訓練、昇進、職業キャリアの特徴

F-1 参入・訓練・昇進・移動のコース

この職業に就く場合の典型的な参入・訓練・昇進・移動のコースを選び、点線を太くなくぞってください。点線以外のルートがある場合には、余白に書き込んでください。



F－2 学校教育（学歴）

2－1 最近2、3年の新規学卒入職者の学歴の特徴はどうなっていますか。

学歴別に割合を記入してください。（合計が100%になるように、およその比率をご記入ください。）

中学校・高等学校卒	およそ_____％
専修・各種学校卒	およそ_____％
短大・大学卒	およそ_____％
大学院卒	およそ_____％

（資料出所：_____）

2－2 最終学歴の主な専攻分野には、どのような領域がありますか。

（例：工業高校の建築科、福祉専門学校の看護科、大学の法学部政治学科など）

F－3 職業教育

この職業に就くにあたって、専門的な養成施設や訓練機関等がありましたら、ご記入ください。また、その修業年限等もお書きください。

F-4 国家試験・資格・免許

4-1 この職業に就くために必要な免許・資格はありますか。(複数回答可)

- () ①免許・資格を持っていないければこの職業にはつけない
(必要な免許・資格名: _____)
- () ②免許・資格を持っていなくてもこの職業に就くことができるが、ある特定の業務を行うには免許・資格が必要である。
(特定の業務の内容: _____)
(必要な免許・資格名: _____)
- () ③免許・資格を持っていると、職業に就くときに有利である
(有利な免許・資格名: _____)
- () ④この職業に就いている人はほとんどが公務員であり、所定の公務員試験に合格する必要がある
(公務員試験名: _____)
- () ⑤その他
(具体的に: _____)
- () ⑥免許・資格は特に必要ない

4-2 この職業に関連する資格、持っていた方が望ましいもの、技能のレベルを証明するもの等、ご存知のものをご記入ください。難易度および資格の種類についても記入してください。

資格名	難易度	種類
例) 簿記検定 1級～4級 (日本商工会議所主催)	合格率 〇%	国家資格 公的資格 民間資格
		国家資格 公的資格 民間資格
		国家資格 公的資格 民間資格
		国家資格 公的資格 民間資格
		国家資格 公的資格 民間資格
		国家資格 公的資格 民間資格
		国家資格 公的資格 民間資格

F－5 入職・退職

5－1 通常、この職業へ入職できるのはだいたい何歳くらいまでといえますか。また、だいたい何歳くらいまで働けますか。

入職 : だいたい _____ 歳くらいまでなら入職できる

退職 : だいたい _____ 歳くらいまで働ける

5－2 この職業の開業・独立の可能性はどうですか。

- () ① 非常に高い (5 割以上が開業・独立である)
() ② やや高い (2 ～ 5 割程度が開業・独立である)
() ③ 可能性はある (1 割程度が開業・独立である)
() ④ 可能性は低い (ほぼすべて雇用労働者である)

F－6 教育訓練

6－1 この仕事を続けていく上で、何らかの教育や訓練が必要ですか。

- () ① 必要
() ② 必要でない

6－2 教育訓練「①必要」と回答した場合、教育訓練の期間や内容、種類について、簡単に記してください。

期間 _____
内容 _____

- 種類 () ① O J T (オ ン ・ サ ・ ジ ョ ブ ・ ト レ ー ニ ン グ)
() ② O F F － J T (オ フ ・ サ ・ ジ ョ ブ ・ ト レ ー ニ ン グ)

F－7 一人前

7－1 この仕事に新たに就いた人が、一人で仕事を遂行することができるようになるまでに、
(一人前になるまで) 要する年数はどのくらいですか。

- () ① 1 年未満
() ② 1 年以上 3 年未満
() ③ 3 年以上 5 年未満
() ④ 5 年以上 10 年未満
() ⑤ 10 年以上 15 年未満
() ⑥ 15 年以上

7－2 一人前になるために、年数のほかに特に必要な経験などがあれば書いてください。

F－8 職業キャリアの特色

この職業に就くことによって、他の職業の職業生活と異なるような行動や心構え、生活パターンなどを要求されることがありますか。

(例 金融ディーラー：24 時間、内外の政治経済動向に注意を怠れない。

裁判官：裁判上の公正が求められ、日常行動や社会的交際にも節度が求められる。

プロ運動選手：体力的に寿命があり、若年で他の職種への転換を迫られる。)

G 職業の動向と将来性

G－1

1－1 だいたい5年後を見通して、この職業の労働力の需要はどう変化すると思いますか。

- () ① ふえる
- () ② やや増える
- () ③ 横ばい
- () ④ やや減る
- () ⑤ 減る

1－2 だいたい5年後を見通して、この職業の労働力の供給はどう変化すると思いますか。

- () ① ふえる
- () ② やや増える
- () ③ 横ばい
- () ④ やや減る
- () ⑤ 減る

1－3 労働力の需要と供給の見通しが異なる場合、その理由があればご記入ください。(その場合、仕事の内容や仕事の環境がどう変化すると思いますか。)

H 労働条件に見られる特徴

H－1 休日・休暇

1－1 この職業に就いている人の休日はどの形態が多いですか。標準的な企業規模を想定してください。(複数回答可)

- () ① 土日完全週休2日制
- () ② 週休2日制(土日とは限らない)
- () ③ ローテーション制(具体的に：_____)
- () ④ その他(_____)

1－2 この職業に就いている人の休日・休暇について他に何か特徴があれば、ご記入ください。

H－2 残業

2－1 この職業に就いている人の残業時間はだいたいどのくらいですか。一番近いものを選んでください。（標準的な企業規模を想定してください。）

- () ① 残業は少ない（ほとんどない、または、たまにある程度）
() ② 毎日1～2時間程度残業がある
() ③ 残業は多い（月 _____ 時間くらい）
() ④ その他（ _____ ）

2－2 この職業に就いている人の残業について他に特徴があれば、記入してください。

H－3 勤務形態

3－1 この職業に就いている人の勤務形態は、どのようになっていますか。あてはまるものに○をつけ（複数可）、割合で示してください（合計が100になるように書いてください）。標準的な企業規模を想定してください。

- | | |
|-----------------------------|-------------|
| () ① 朝から夕方までの通常勤務形態 | およそ _____ % |
| () ② 交代制勤務 | およそ _____ % |
| () ③ 夜間・深夜勤務 | およそ _____ % |
| () ④ フレックスタイム制 | およそ _____ % |
| () ⑤ 裁量労働制 | およそ _____ % |
| () ⑥ その他 | およそ _____ % |

（資料出所： _____ ）

3－2 勤務形態が交代制、フレックスタイム制など特徴があるものについて、具体的にご記入ください。

3－3 この職業では、転勤はどの程度ありますか。

() ① しばしばある (どの程度：_____)

() ② たまにある (どの程度：_____)

() ③ ほとんどない

3－4 この職業では、海外勤務や海外出張などの機会がありますか。

() ① しばしばある (どの程度：_____)

() ② たまにある (どの程度：_____)

() ③ ほとんどない

H－4 在宅ワーク

4－1 この職業に就いている人のうち、主に在宅で働いている人は全体の何%くらいですか。
(「在宅ワーク」とは、パソコンやファクスなどのIT機器を使ったりして自宅を中心に
請負・フリーの仕事をするをいいます。なお、週に1～2日程度打合せなどで出社
する場合は、「主に在宅」と考えてください。)

() ① いる (全体のおよそ _____%)

() ② いない

H-5 賃金・所得

5-1 この職業に就いた場合、賃金・所得はどのような形態ですか。(複数回答可)

(医師のように、勤務医と開業医の両方の形態が考えられる場合は、それぞれご記入ください。)

(1) 被雇用者の場合：賃金

() ① 時間給

() ② 出来高級

() ③ 日給

() ④ 月給

() ⑤ その他(具体的に：_____)

(1) 自営業主の場合：所得

() ① 事業収入

() ② 顧問契約

() ③ 手数料

() ④ その他(具体的に：_____)

5-2 この職業の平成20年の高卒・短大卒・大卒初任給(所定内給与額から通勤手当を除いたもの)はいくらぐらいですか。

①高卒 およそ_____円

②短大卒 およそ_____円

③大卒(4年制) およそ_____円

5-3 賃金・所得の平均金額が推計できる場合には、その金額と年齢をご記入ください。

(1) 推計できる場合

平均 およそ_____円(_____歳)

(資料出所：_____)

(2) 推計できない場合

全産業の平均値と比較した場合、高いと言えますか、それとも低いと言えますか。

(全産業計の大卒30～34歳の平成13年度データでは、所定内給与額は329.8千円となっています。)

() ①高い

() ②ふつう

() ③低い

- 5－4 この職業に特有な手当があったり、能力給の割合が高いなどの特徴がある場合にはご記入ください。

- 5－5 この職業における収入は、どのくらい安定していると言えますか。

- () ① 比較的安定している
() ② 不安定であるが、変動が大きい ()
() ③ 個人差が大きい

H－6 語学

- 6－1 この職業では、英語などの語学能力を必要とする業務はありますか。

- () ① しばしばある (どの程度： _____)
() ② たまにある (どの程度： _____)
() ③ ほとんどない (どの程度： _____)

- 6－2 それはどのような業務ですか。

(例：会話(専門的、日常的)、文書作成、書類読解、商品・機器の表示など)

H－7 パソコン

- 7－1 この職業では、パソコンの能力を必要とする業務はありますか。

- () ① しばしばある (どの程度： _____)
() ② たまにある (どの程度： _____)
() ③ ほとんどない (どの程度： _____)

- 7－2 それはどのような業務ですか。

(例：メールの送受信、文書の作成、表計算、プレゼンテーションの作成、データ処理、CAD、CAM、グラフィックの作成、プログラミングなど)

I その他

I－1 職業団体

職業団体（労働組合・職能別組合）はありますか。

() ①ある 名称 _____ 加入状況 _____

() ②なし

I－2 法規

この職業に直接関係する法令や条例はありますか。

() ①ある 法規名 _____

() ②なし

I－3 この職業に関する問い合わせ先・関係団体名

この職業の資格試験に関する問合せ先、あるいはこの職業にかかわる団体とその役割、所在地等を記入してください。

役割は、たとえば免許資格の付与、訓練の実施、技能検定の実施、調査企画、後方連絡、労働組合、職能別組合などと記入してください。

資格試験にかかわる官庁は〇〇省〇〇局〇〇課まで記入してください。

団体名

役割

所在地

電話

ホームページアドレス等

団体名

役割

所在地

電話

ホームページアドレス等

団体名

役割

所在地

電話

ホームページアドレス等

I－4 この職業に関する最近の動き

この職業についての最近の目立った動きがあれば簡単に記入してください。

外部環境の変化（例：国際的競争、法的規制、環境対応、……）

しごと内容の変化（新技術の導入、新たな資格制度、……）

従事者の変化（例：女性や外国人の増加、パート化、後継者不足、……）

その他

ご協力ありがとうございました

資料 6 記者発表資料（2006 年 8 月 31 日、2008 年 9 月 26 日）

開発を進めてきたキャリアマトリックスを一般公開するにあたり、公開前の平成 18 年 8 月 31 日に、厚生労働省の厚生労働記者会と労政記者クラブで口頭での記者発表を行った。

また、その後開発を進め、新キャリアマトリックスとして公開するにあたり、平成 20 年 9 月 26 日に厚生労働記者会と労政記者クラブで口頭での記者発表を行った。

以下はこの 2 回の記者発表の資料である。

平成 18 年 8 月 31 日

独立行政法人 労働政策研究・研修機構（JILPT）
（理事長 小野 旭）
担当：職務キャリア分析研究部門
統括研究員 吉田 修 主任研究員 石井 徹
主任研究員 松本真作
電話：048-463-1320（ダイヤルイン） Fax 048-463-1375
メール：s_mat@jil.go.jp

総合的職業情報データベース「キャリアマトリックス」の一般公開 —最大級の職業情報データベースとガイダンスシステム—

【要 旨】

9 月 4 日（月曜）、労働政策研究・研修機構は、厚生労働省の要請により開発してきた総合的職業情報データベース「**キャリアマトリックス**」を、インターネットを通じて一般公開する。「キャリアマトリックス」は、世界的にみても**最大級の職業情報データベース**として、現代の**主要職業 500**について仕事内容、就業経路、統計情報、能力特性、入職要件等の詳細情報を図版とともに収録している。

また、新たに、仕事と就業者の特性を数値で表示し、自分の**興味関心などから自分に合った職業を簡易に見つけ出す自己診断テスト**や、自分の**これまでの職歴から身につけたスキルや知識を確認するナビゲーション**を装備しており、個人が直接使える「**キャリアガイダンス・システム**」として利用することができる。

キャリアマトリックスは、**インターネットによりどこでも誰でも 24 時間、無料で**利用することができ、若年・中高年の就職問題や労働市場でのミスマッチ解消への貢献が期待できる。

【概 要】

1. 開発の背景 —職業情報の未整備—

近年、就職をためらい、就職につまずく若年層や、団塊定年が近づく中でキャリアの転換に迷う中高年層が増大している。一方、労働市場では大量の求人求職ミスマッチの存在が見られる。これらの背景には、わが国における職業情報の未整備がある。「適職」を探し、あるいは職種転換の「可能性」を見つける上でベースとなる「職業情報」が十分でなく、労働市場においても求人・求職双方にとって共通であるべき求人職業表示（名称・職務内容・公的機関及び民間の職業分類）が未整備であることが指摘されて久しい。ちなみに欧米では、公共財として詳細な職業情報が政府により広く提供され、労働市場での効率的なマッチングやキャリアカウンセリング、企業の人材採用・活用を支えている。

2. 「キャリアマトリックス」の内容

1) 開発の目標

- ①**豊富で信頼できる職業情報の一大データベース**として、一般に公開され、学生・社会人など個人、企業、さらにキャリア・カウンセラーまで、手軽に利用できる情報源、ツールとなる社会インフラであること。
- ②**若年層の適職探し、中高年の再就職**、さらに**キャリア開発**への効率的な情報支援とセルフガイダンスの手段を提供すること。
- ③職業紹介、労働者派遣、学校教育、能力開発等、公的及び民間の様々な活動を支える**職業に関する基盤情報**として、インターネット及びリンクを通じて、リソースを広く提供し、労働市場における効果的なマッチングから、自己啓発、キャリアガイダンス、能力開発、人材開発までを可能にすること。
- ④スキルや知識、職務特性、個人的要件などについて多次元の数値情報、職業情報を収集・整理し「**共通基準・共通言語**」として、自由で多角的な検索や情報利用を通じて、従来の枠を超えた柔軟かつ広範な適職や転職可能性などの探索を可能にすること。

2) 豊富な職業情報

収録職業 500 職種は、労働市場における主要職種の約 9 割をカバーしている。画像・統計等を含む記述内容においては日本における最大級の職業情報であった旧労働省監修職業ハンドブック（1998 年 300 職業・A4 版 811 頁・旧日本労働研究機構刊）の約 6 倍にあたる情報量を有しており、さらに新規職業等の充実を図った。

職業情報は、以下のようなもので、常に最新のものとなるべく更新される予定である。

- ①「**どんな職業か**」……主要な業務をもとに仕事内容を画像とともに解説
- ②「**就くには**」……その職業に就くための要件や資格を解説
- ③「**労働条件の特徴**」……特有の労働条件・就業状況・雇用見通しなどを解説し、賃金・就業者数・賃金データ等を図示
- ④「**職業プロフィール**」……職業興味や価値観・必要なスキル・知識などその職業固有の特徴を数値で表示
- ⑤「**参考情報**」……関連職業、資格情報を提供し、各職業の関係団体のHPやジョブジョブワールド（色々な仕事の映像が見られるサイト）とリンク

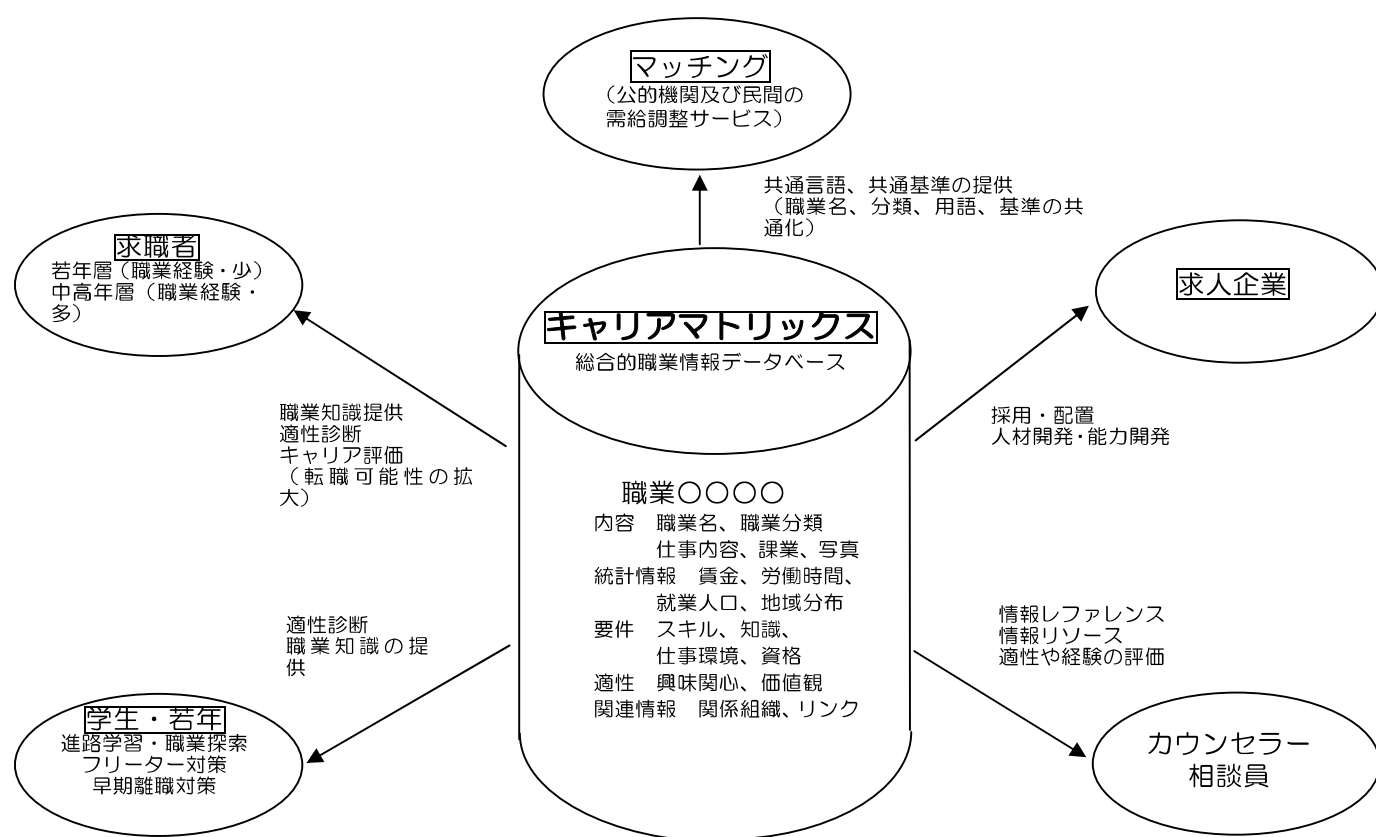
3) キャリアマトリックスの情報提供・ガイダンスシステム —若年層から中高年まで—

キャリアマトリックスは、豊富な職業情報を使いこなすため、次のような利用システムを備えている。

- ①若年層向けに適職探しを支援する「適職探索ナビ」。

- ② 社会人向けに職業経験から転職可能な職業候補を見つけ出し適合度を示す「キャリア分析ナビ」。
- ③ 仕事のイメージやテーマ、職務内容、職業名などから多面的に職業を探し出す「職業探索システム」。
- ④ 現在、企業向けの人材採用支援システムや人材開発・人材活用の支援システムを開発しており、また、個別具体的な求人・求職サイトとのリンクも検討を進めている。

図 キャリアマトリックスの機能と役割



3. キャリアマトリックスの7つの特徴

- ① **インターネットを通じて**、どこでも居ながらに職業情報を調べ、ガイダンスシステムを使う。
- ② **約 500 の職業について**、50 万人の各職業従事者、600 箇所の機関・団体に対する広範な調査に基づき、統一的な形式で数値情報をふくむ**詳細かつ基盤的な情報**が提供されている。

- ③職業名が不明であったり、断片的な情報であっても仕事のイメージや活動、その職務・特性など**多様な手がかりから職業を検索**できる。
- ④**興味・関心等の自己診断テスト**を用意しており、診断結果から適切な職業を探すことができる。
- ⑤**自分の職業経歴からスキルや知識を抽出**し、新しい可能性や適合度、補強すべき事項等をチェックできる。
- ⑥求人情報や求職者情報（これまでの仕事内容、経験、スキル、強み、アピールポイント等）を的確に作成でき、**精度の高い効率的なマッチング**ができる。
- ⑦**職業の世界を探索**し、自分のキャリアイメージとその達成への方向を展望できる。

4. キャリアマトリックスの将来像

キャリアマトリックスは、**知的公共財としてインターネットで公開**され、公的機関及び民間の関連サイトとのリンクや連携を行い、その幅広い利用を通じて、内容を充実してゆくこととなる。今後は、広範な職業情報を網羅的に探索し、体系的に収集・整理するシステムを整備し、常にアップツーデートの「**最新・広範・正確で信頼でき使いやすい共通基盤としての職業情報**」を提供する。そして、一般国民、企業、学校、相談機関・公的機関及び民間の需給調整機関、キャリア・カウンセラーや相談員などに、**日常的に使われる情報インフラ**としてのシステムとなることを目指している。

5. 公開方法

- ①公開時期 9月4日（月曜）午前10時
- ②アクセス方法

キャリアマトリックスは次の二つサイトから利用可能であり、利用の集中やメンテナンスによるサービス停止がないようにしている（ミラーサイト）。

<http://cmx.vrsys.net> <http://cmx.hrsys.net>

[参考] 独立行政法人 労働政策研究・研修機構：厚生労働省所管の研究・研修機関であり、2002年設立。練馬区上石神井に研究所、埼玉県朝霞市に労働大学校がある。

平成 20 年 9 月 26 日（金）

独立行政法人 労働政策研究・研修機構（JILPT）
（理事長 稲上 毅）
担当：キャリアガイダンス研究部門
統括研究員 西村公子
副統括研究員 松本真作
電話：048-463-1320（ダイヤルイン） Fax 048-463-1375
メール：s_mat@jil.go.jp

総合的職業情報データベース「キャリアマトリックス」新版公開 —最大級の職業情報データベースと関係ツール群—

【要 旨】

独立行政法人労働政策研究・研修機構は総合的職業情報データベース「キャリアマトリックス」の新版を、インターネットを通じて、9 月 29 日より公開する。

「キャリアマトリックス」は現代の**主要職業 500**について、仕事内容、就業経路、統計情報、各種特性、入職要件等の情報を職業の写真とともに提供する、**最大級の職業情報データベース**といえる。

現在のキャリアマトリックスは 2006 年 9 月の公開から 2 年が経過しているが、今回、若年対策として、若者の利用を促進する機能、また、企業での利用につながる機能、職業情報に関しても課業（task）リストの提供を初めて行う等、新たな機能や内容を加えた**新キャリアマトリックス**として公開するものである。

新キャリアマトリックスは、従来通り**インターネットによりどこでも誰でも 24 時間、無料で**利用することができる。

【概 要】

1. キャリアマトリックスとは

労働政策研究・研修機構では 2006 年 9 月よりインターネットを通じて、総合的職業情報データベース「キャリアマトリックス」を一般公開してきたが、このたび、若者向け、企業向け等、新機能を追加するとともに、職業情報に関しても、各職業の課業（task）を新たに網羅した新キャリアマトリックスを開発し、9 月 29 日（月曜）午前 9 時から公開を開始する。

当機構は以前から、「職業ハンドブック」等の冊子や CD-ROM により、関係分野の基盤となる職業情報を提供してきたが、これをインターネットのサイトとし、各種の自己診断ツールとともに提供したものである。システムは労働市場における効果的な求人求職、キャリア形成等を支援することを目的としている。

キャリアマトリックスは約 500 の職業に関して仕事の内容や就職経路、その後のキャリア、

労働条件の特徴、必要なスキルや知識等の情報を数値化した「職業プロフィール」等を、職場の写真とともに提供しており、提供している情報の量と豊富さにおいて、世界的にみても最大級のサイトといえる。

新キャリアマトリックスの機能や内容、これまでの経緯や開発は以下の通りである。

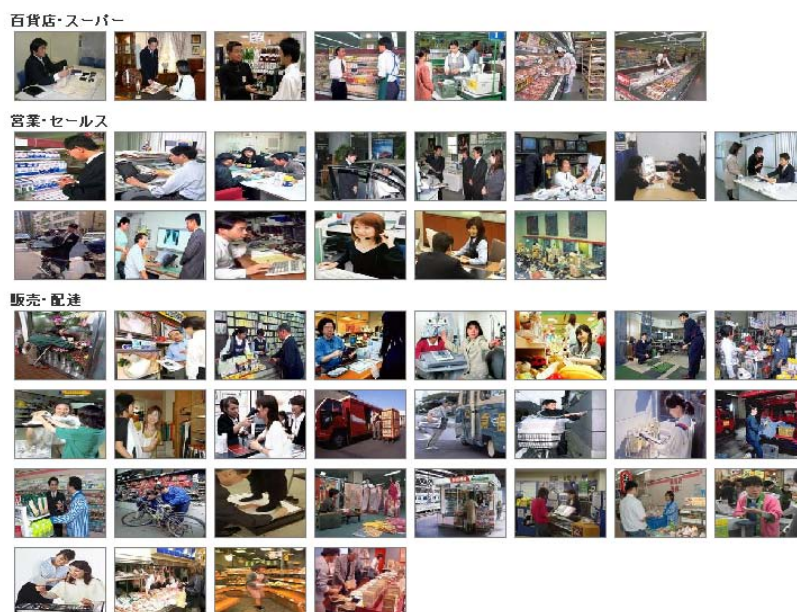
2. 新「キャリアマトリックス」の機能と内容

新キャリアマトリックスでは、従来の機能、内容に加え、次のような点を強化、充実している。

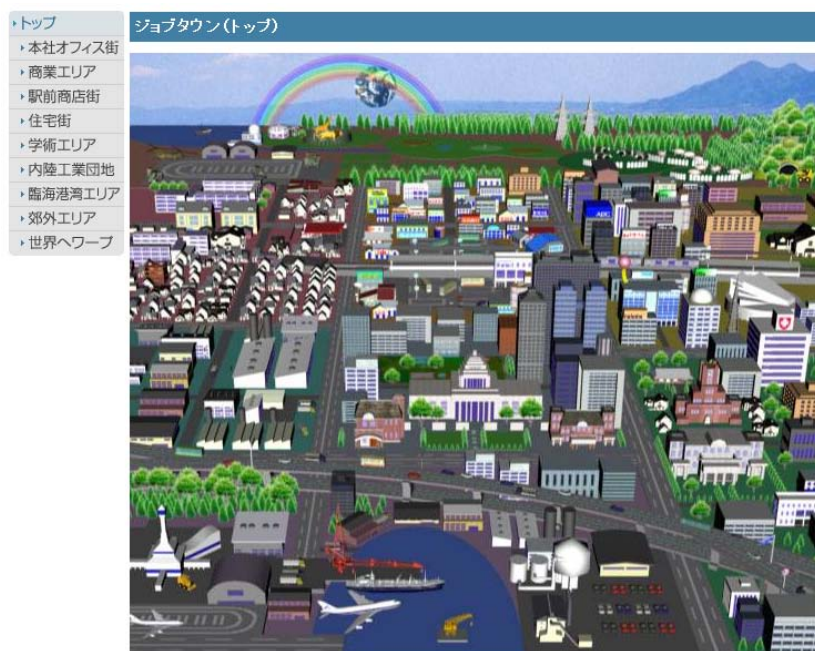
A) 若者向け新機能

新キャリアマトリックスではこれまでの機能に加え、若者向けの機能として「職業ギャラリー」（職業をフォトギャラリーのように一覧表示）や「ジョブタウン」（仮想の街を画面に表示しそこで職業探索）を提供する。

さらに、若者向けにキャリアマトリックスの携帯電話版を「キャリアマトリックス・モバイル」として新たに開発した。この携帯版は近日公開される厚生労働省のサイトのなかから提供される。



職業ギャラリー



ジョブタウン

B) 企業向けの新機能

新たに、「人材採用支援システム：職務要件の作成」と「人材開発シミュレーション：職種転換の検討」も提供する。前者は企業が求人を行う際、必要とする職務要件を明確化するためのツールであり、後者は企業等が現状の人材を新規事業等で活用するためのツールである。

職業とキャリアに関する総合情報システム

CAREER MATRIX

閉じる

提供: 独立行政法人 労働政策研究・研修機構

人材採用支援システム — 職務要件の作成

ガイド

人材採用企画書

職務要件

職業名

仕事内容(職業)

必要なスキル

労働条件

賃金

勤務時間

勤務場所

...

人材採用にあたっては、職務要件の中核となる職務能力を明確にすることが必要です。

ここでは簡単な操作で仕事に関連した職務要件(職業名、仕事内容、必要なスキル、知識等)が作成できます。

〈活用例〉

- ・仕事内容や必要なスキル他を明確にし、適切な人材を採用したい。
- ・今まで採用していなかった職種を募集する。仕事内容や必要なスキルは、「事務」や「販売」ではなく、もう少し詳細に仕事の内容を書きたい。

ステップ1

近い職種を選択

求める人材に近いものを約500職種のなかから選択。

ステップ2

職務要件の編集

選択した職種を元に、職務要件を修正、追加。

ステップ3

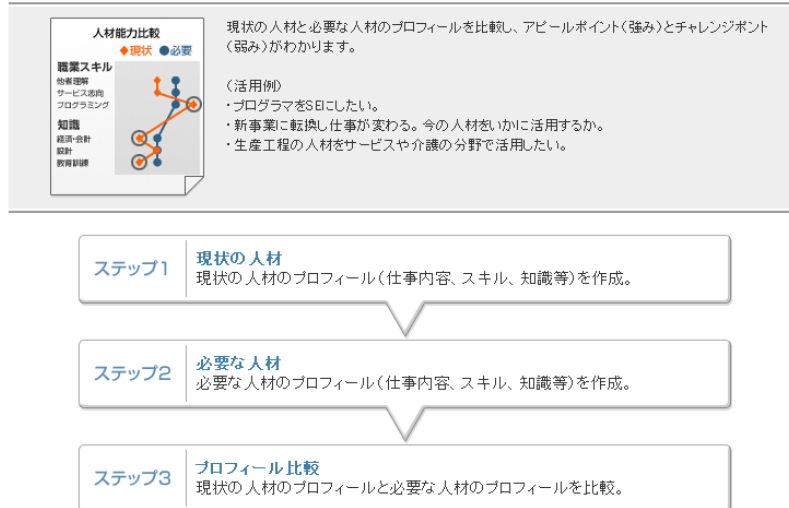
職務要件シート表示

職務要件シートが表示されます。職務要件は保存しワード等で編集することもできます。

人材採用支援システム：職務要件の作成

-215-

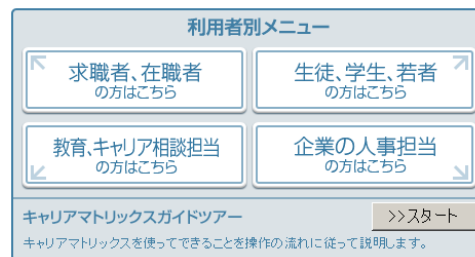
ガイド



人材開発シミュレーション：職種転換の検討

C) 利用者別メニュー

若者向けや企業向けの機能を追加したため、新たに利用者別メニューを用意することとした。「求職者、在職者」「生徒、学生、若者」「教育、キャリア相談担当」「企業の人事担当」の4つに分れており、将来的には内容面でもさらに充実させ、それぞれの利用者が必要とする情報をシステムティックに提供することを考えている。



D) 相談窓口マップ検索

最寄りのハローワークや関連機関を近いものから検索し、地図上で示す機能である。インターネットからの情報だけに頼ることなく、関係者や専門家に会い、また、実際の職場等も訪問するなど、サイト以外の情報も積極的に活用するよう、行動を起こすことを支援している。



E) 課業を加えた職業情報

提供する約 500 職種の職業情報は更新しており、また、各職業を多面的に数値化した職業プロフィールの元となるデータも、その後の蓄積により、より確かなものとしている。

今回新たに、全職業を網羅した課業(task)のリストを提供する。各職業それぞれ 10～20 の課業が表示され、すべてを合計すると約 1 万を超す課業となる。課業は後述の Web 職務調査でデータを収集した、現職者約 26,124 名の回答より作成している。現職者のデータに基づく課業をこれほど網羅的に提供したものはこれまでない。

3. 職業情報の内容

収録職業 500 職種は、労働市場における主要職種の約 9 割をカバーしている。画像・統計等を含む記述内容においては日本における最大級の職業情報であった旧労働省監修職業ハンドブック（1998 年 300 職業・A4 版 811 頁・旧日本労働研究機構刊）の約 6 倍にあたる情報量を有している。前述のように、さらに今回、各職業の課業(task)リストの提供を行うこととした。また、職業情報は、常に最新のものとなるべく更新作業を継続している。

- ① 「**どんな職業か**」……主要な業務をもとに仕事内容を写真とともに解説

課業(task) リスト 各職業10から20の課業をすべての職業について提供。課業とは職務を作業内容に分解したものであり、仕事内容を明確にすることができる。

- ② 「**就くには**」……その職業に就くための要件や資格を解説
- ③ 「**労働条件の特徴**」……特有の労働条件・就業状況・雇用見通しなどを解説し、賃金・就業者数・賃金データ等を図示
- ④ 「**職業プロフィール**」……職業興味や価値観・必要なスキル・知識などその職業固有の特徴を数値で表示
- ⑤ 「**参考情報**」……関連職業、資格情報、各職業の関係団体のHP等へのリンク

看護師

A 専門的・技術的職業

↳ 09 保健師(士)、助産師、看護婦(士)

↳ 093 看護婦・看護士

| [どんな職業か](#) | [就くには](#) | [労働条件の特徴](#) | [職業プロフィール](#) | [参考情報](#) | [印刷](#)

どんな職業か

▲▼ トップ

社会の様々な場所で、病気やけがの治療を受ける人々や介護を必要とする人々、体や心の健康上の様々な問題を抱えながら生活する人々を看護や診療の補助などを通じて支える。

病院・診療所などの医療施設では、患者への医療の提供に、医師・薬剤師・栄養士・臨床検査技師・理学療法士・作業療法士・医療ソーシャルワーカーなどの専門職種とともに医療チームの一員として参加する。現代医療には、救命救急医療・高度先進医療・リハビリテーション・生活習慣病の管理・精神医療・終末期医療など多様な側面があり、医師が診断・治療を行う際の補助の役割を求められることが多い。介護保険施設・[社会福祉施設](#)では、医療施設と比べて医師の関与が少ないため、看護師は日常的な医療管理や緊急時の判断を求められることが多い。[訪問看護ステーション](#)の看護師は患者宅を訪問してケアを行うほか、家族への支援も行う。学校や企業の健康管理部門では健康管理や心身の保健相談に当たっている。

どのような領域にあっても、人々の食事や睡眠、排泄などの営みが、安楽に、またその人らしい尊厳を保ちながら行われるよう支援すること(療養上の世話)は、患者やその家族への心理的なサポートとともに、看護師の仕事の中でも重要な位置を占めている。現在これらの業務は科学的な根拠に基づいて人々に提供されている。またケアの受け手との間での確かなコミュニケーションを図る能力も求められている。

[>>この職業の用語集](#) [>>仕事の内容\(課業リスト\)](#)



類似職業

[>>助産師\(A092\)](#)

[>>保健師\(A091\)](#)

利用者ビュー(関連して多く見られている職業)

[>>保健師](#)

[>>臨床検査技師](#)

[>>薬剤師](#)

「看護師」の仕事内容(課業リスト)

1. 病院・診療所・社会福祉施設などにおいて、医師の診療を補助する。
2. 患者の診療記録や経過をカルテに記入し、整理する。
3. 患者の顔色や患部の様子を観察し、健康状態や症状をチェックする。
4. 患者の体温・脈拍・血圧を計測して、健康状態や症状をチェックする。
5. 医師の指示を受けて患者に薬の塗布、注射、吸入、吸引、点滴を行う。
6. 患者に検査の指示を伝え、結果を確認する。
7. 患者に服薬の方法や注意事項の指導をする。
8. 入院患者を見回り、体温・血圧・脈拍を定時に測定し、変化が確認できるまで観察する。
9. 入院患者の服薬や食事・排泄の介助など日常の世話をする。
10. 寝たきりの入院患者の体位変換をする。
11. 診療に用いる医療品の準備や補充など在庫を管理し記録する。
12. 病室や処置室の準備、器具・装置・備品の管理をする。
13. 手術室への患者の搬送や手術中の執刀医への器具の手渡しをする。
14. 病院や施設で、感染予防の措置を患者や外来者に指導する。
15. 地域や学校で、衛生管理・病気予防・家庭看護などの相談に応じる。
16. 家庭看護の契約をしている患者を訪問し、所定の処置や健康のチェックをする。

4. キャリアマトリックスのツール群

システム全体としては次のようなツールを提供しており、このうち New!となっているものが今回、新たに提供するものである。

キャリアマトリックス・ツール

凡例: 求職 求職者、在職者向け 学生 生徒、学生、若者向け 専門 教員、キャリアカウンセラー向け 企業 企業の人事担当者向け

職業理解

New! → 職業探索 求職 学生 専門 企業

職業名や職務内容から職業を検索し、職業についての詳細情報を表示します。

New! → 職業ギャラリー 求職 学生 専門 企業

キャリアマトリックスに収録されている職業の写真を一覧表示しています。写真を見て、気になる職業の情報をみてみましょう。

New! → ジョブタウン 求職 学生 専門 企業

ジョブタウンのイラスト地図を見ながら、気になる場所で働く職業を探してみましょう。

自己理解

連動探索ナビ 求職 学生 専門 企業

「興味」や「ワークスタイル」などから、あなたに合う職業を探索します。

キャリア分析ナビ<ベーシック版> 求職 学生 専門 企業

これまでの職歴から「スキル」などを推定し、アピールポイントや合っている職業を見ることができます。

キャリア分析ナビ<アドバンス版> 求職 学生 専門 企業

これまでの職歴を「スキル」などへ分解・分析し、気になる職業との適合度を比較できます。
使い方に難しい部分があります。最初にベーシック版で慣れてから、ご利用下さい。

人材管理

New! → 人材採用支援システム 求職 学生 専門 企業

キャリアマトリックスの約500の職業情報を元に、職務要件(仕事内容、必要なスキルや知識、等々)を明確化します。

New! → 人材活用シミュレーション 求職 学生 専門 企業

社内の現状の人材と将来のあるべき姿を客観的に比較でき、人材の活用、教育訓練などの検討ができます。

(参考)

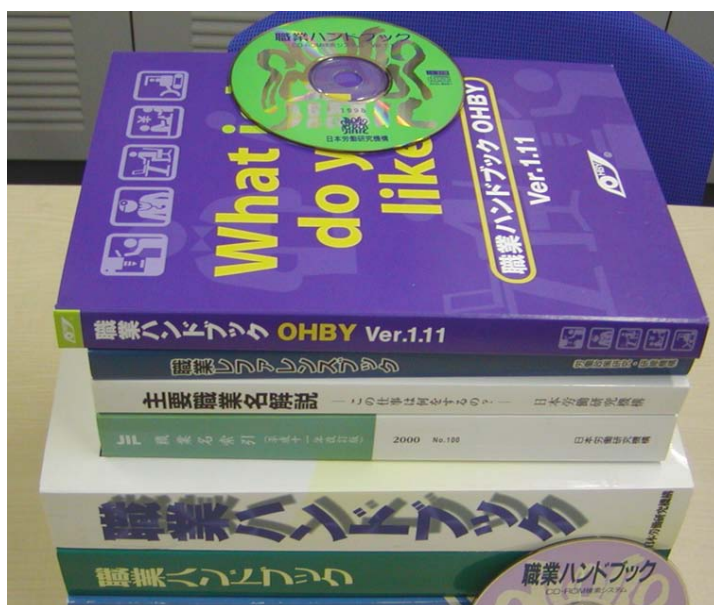
1. これまでの経緯と開発方法

当機構では以前から求人求職、キャリア形成支援等の基盤となる情報として、職業情報を収集、編集し、提供してきた。ここではこれまでの経緯と新キャリアマトリックスの開発方法等について説明する。

A) これまでの経緯

キャリアマトリックスの研究開発が始まったのは 2000 年である。当初、欧米や北欧等、各国公的機関による職業情報提供システムの動向等を調査している。2002 年度、システム開発の基本的な構想が決まり、2003 年よりシステム開発と職業情報等の収集を行い、2006 年に一般公開を開始した。今回、上述の新機能を加え新キャリアマトリックスとして公開するものである。

キャリアマトリックス開発以前、当機構では職業ハンドブックや OHBY として冊子、CD-ROM 等により、求人求職、キャリアガイダンス、能力開発等の基盤となる情報を提供してきた。



B) システム開発

専門家、学識経験者、関係団体等からなる委員会を設置し、開発の方向性を審議し検討した。そしてその方向性に沿って、これまでに 200 回に及ぶ、開発チームによる検討会議を重ね、試作、検証を行い、システムを開発してきた。また、外部専門機関によるシステムに対するユーザビリティの客観的な評価と確認等も行った。

さらにシステムが大方できあがった段階で関係者に開示し、問題点がないか、具体的な利用活用場面はどのようなものとなるか等ヒアリングを行ってきた。

C) 職業情報等の収集

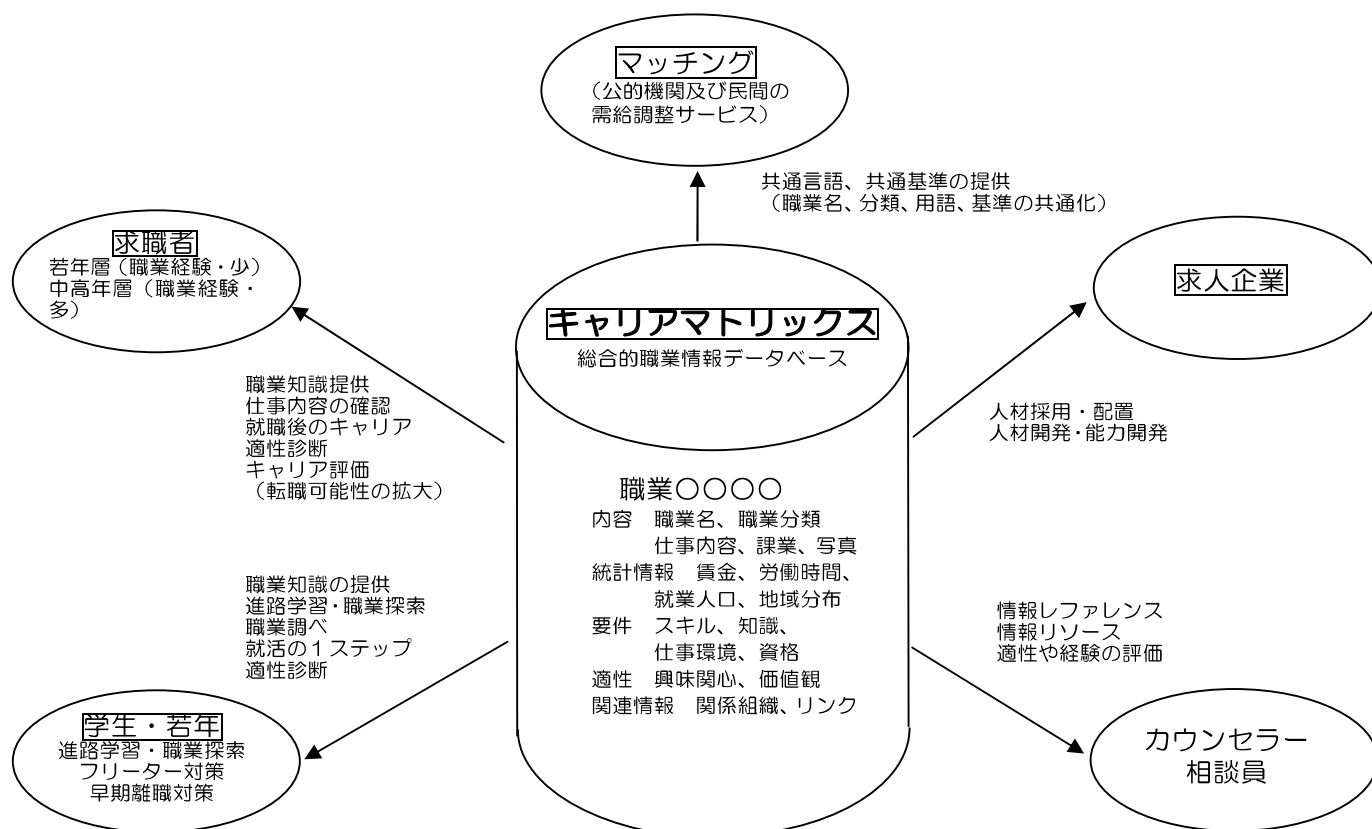
各職業の関係機関を訪問し、職業に関する情報や資料、写真等を収集するとともに、調査会社の Web モニターを用いて、現職者から情報収集を行った。これまでに協力をお願いした Web モニターは 300 万人近い数になっている。この Web での調査では各人の現職を聞き、その現職に関して、課業リストの確認、仕事をする上で重要なスキルや知識、仕事環境等の評価をしてもらっている。

このようにして得られた情報から職業情報の中の「職業プロフィール」が作られ、今回、新たに提供する「課業 (task) リスト」を作成している。

2. 利用活用状況

2006 年 9 月の一般公開以降、ページビュー累計は 3800 万、ビジット (訪問) 累計は 150 万となり、多くの利用がある。現在もアクセス数は伸び続けており、職業やキャリアの百科事典としての認識が定着すれば、まだまだ利用は増加すると考えられる。

キャリアマトリックスの利用活用を図式化すると下図のようになる。



3. キャリアマトリックスの運用体制等

キャリアマトリックスは労働政策研究・研修機構によって、継続して情報の更新、運用を行っている。キャリアマトリックスでは、下記アドレスの二つのサイトから同じ内容を提供している（ミラーサイト）。利用の集中やメンテナンス等によるサービスの停止がないよう、別々に設置した複数のサーバより情報提供を行っている。システムの運用に関して、運用チームを作り、常時監視、障害の事前対処等にあたっている。

システムに搭載される情報内容、コンテンツに関しては、当機構内にチームを作り、常に情報の収集、更新等にあたっている。

キャリアマトリックスのアドレス

<http://cmx.vrsys.net> <http://cmx.hrsys.net>

同じアドレスで9月29日午前9時から新キャリアマトリックスに切り替わる。

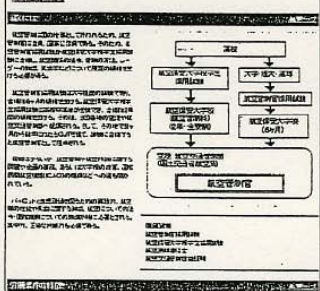
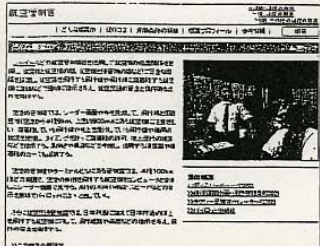
資料7 キャリアマトリックス掲載新聞記事等一覧

日付	記載者	内 容
2006/9/4	化学工業日報	【労働政策研、世界最大級の職業 DB をネット公開】独立行政法人の労働政策研究・研修機構は、約五百職種を収録した世界最大級の総合職業情報データベース「キャリアマトリックス」をインターネットできょう四日午前十時から一般公開すると発表した。若者の適職探しから中高年の再就職まで、個人や学校、企業などが二十四時間、無料で利用することができる。
2006/9/5	毎日新聞朝刊	【世界最大級の職業サイト公開】世界最大級の職業情報のデータベース「キャリアマトリックス」を独立行政法人「労働政策研究・研修機構」（小野旭理事長）が製作、4 日公開した。日本の主要な約 500 の職業の仕事内容や必要な能力、就職方法、平均賃金、動画による情報などが収録されている。同機構は、厚生労働省の委託を受け、就職につまずく若者や就職でのミスマッチ解消を目的にデータベースを作成した。500 の職業掲載は、同様のデータベースの米国の約 900 に次ぐ規模。掲載されている情報は、統計資料からの就業者人数や賃金、就業に必要な資格などきめ細かい。実際に働く人約 50 万人から得た調査結果などから仕事の特徴ややりがいなどを五つ星で評価している。アドレスは http://cmx.vrsys.net
2006/9/10	日本経済新聞朝刊	【若者の仕事選び ネットが入り口】どんな職業が自分にふさわしいのかよく分からない。こんな若者に職業選択のための情報をインターネットで無料提供する事業を独立行政法人の労働政策研究・研修機構が始めた。看護婦や客室乗務員など、五百職種の仕事内容や給与、求められる能力などを紹介し、定職を見つけやすくしてフリーター・ニート化を防ぐ。（以下省略）
2006/9/16	朝日新聞夕刊 1 面	【ネットに「職の百科事典」－500 超す仕事 適性や賃金公開－】500 を超える職業を紹介する情報データベース「キャリアマトリックス」を、独立行政法人の労働政策研究・研修機構がインターネットで公開し始めた。仕事の内容や平均的な賃金、労働時間だけでなく、どんな人が向いているかなど、多面的な情報を発信する、いわば「職の百科事典」。就職に悩む若者や転職に迷う人に役立ててもらおう狙いだ。（以下省略）
2006/9/11	労働新聞 日本労政調査会	500 職業の情報を提供 JIL が構築 世界最大級データベース 労働政策研究・研修機構は、世界的に診ても最大級の職業情報データベースとなる「キャリアマトリックス」を開発し、このほどインターネットを通じて一般公開した。24 時間、誰でも無料で利用可能である。（以下省略）
2006/9/26	福祉情報	世界最大級の職業情報 DB「キャリアマトリックス」を公開－労働政策研究・研修機構－ 財形福祉協会

2006/10/22	朝日中学生ウィークリー	「職の百科事典」ながめてみよう ネット上で職業データベース公開 五百を超える職業について紹介するデータベース「キャリアマトリックス」が、先月からネット上で公開されています。どんな仕事内容か、就くにはどうしたらいいかなどが画面やデータで詳しく紹介されていて、「世界最大の職の百科事典」といえる充実ぶりです。また、なりたい職業が思いつかなくても、質問に答えていけば、向いている職業がわかるようになっていきます。将来を考える手がかりに、利用してみてはいかが？！（以下省略）
2007/7/13	読売新聞	【人材会社 転職に活用】最下段「何に興味があるのか」「どんな仕事に向いているのか」などがわからず悩んでいる人は、インターネット上でできる診断テストを利用していてもいい。労働政策・研修機構のキャリアマトリックス（URL）。
2009/1/29	日経新聞	「会社分析就活制す近道」の記事の中に就職活動に役立つサイトとして「キャリアマトリックス」が取り上げられており、「約 500 種類の職業を紹介。現場で働く 277 万人のモニター調査を基に作成。3 月から携帯端末での閲覧も可能に。」と紹介されている。
2009/10/6	読売新聞	ネット版 職の百科事典 社会にはどんな仕事があり、自分に向いた職業は何か。こんな悩みを持つ若者に役立ててもらおうと、労働政策研究・研修機構は、職業情報のデータベース「キャリアマトリックス（ http://cmx.vrsys.net ）」をインターネットで公開している。労働者約 50 万人、約 600 団体からの情報をもとに、約 500 の職業の内容や就職要件などを紹介しており、いわば「職の百科事典」だ。（以下省略）

「職の百科事典」ながめてみよう

ネット上で職業データベース公開



▲例えば「航空管制官」はこのように説明されます

「職の百科事典」は、約500種類の職業について、その仕事の内容、必要なスキル、労働条件などを詳しく紹介しています。また、各職業の関連する資格や試験情報も提供されています。

「職の百科事典」は、約500種類の職業について、その仕事の内容、必要なスキル、労働条件などを詳しく紹介しています。また、各職業の関連する資格や試験情報も提供されています。

「キャリアマトリックス」の紹介例

職業	就くには	労働条件など
料理師	学歴を問わないが、何より料理が好きで、技術習得に約5年、独立には10〜20年の修業が必要	立ち仕事で昼食時は息つく暇もない忙しさも。名人芸の味を出し、話題になる店もある
モデル	オーディションで選ばれるなどモデル事務所や専属モデル事務所などに所属。歩き方など基本的な教育を受け、デビュー	早期、深夜の撮影もあり、労働時間は不規則。美、感性、演技力を兼ね備えたプロだけが生き残る世界
国家公務員	国家公務員試験合格者か薬剤師免許取得者。研修後に任命される。捜査に危険が伴うため拳銃訓練も	残業が多く勤務が不規則。給与は国家公務員の行政職の水準に調整。手当。男性が9割だが、女性も増えている
国家資格者	国家資格が必要。筆記と検定などの実技試験。身体検査。専門が試験。受験者は千人以上が受験し合格は約40人	選考寿命が長く、10〜60代まで。公営競技界では珍しく、女子選手が1割に達し「ママさんレーサー」も
出版社	出版社主催の新人賞に応募し、賞をとるのが近道。最近では同人誌で人気となり、出版社から声がかかることも	収入は原稿料や印税。ヒット作が出て高収入を得る人から、マンガだけでは生活できない人まで、実力次第

500職業の情報を提供
「職の百科事典」は、約500種類の職業について、その仕事の内容、必要なスキル、労働条件などを詳しく紹介しています。また、各職業の関連する資格や試験情報も提供されています。

2006.9.11 労働新聞

職を探すことでの職歴を生かす。世界最大の「職の百科事典」だ。と語る。将来はハローワークなどの職業紹介サイトなどもリンクする計画だ。24時間無料。アクセスはhttp://chix.vtss.net/

ネットに「職の百科事典」 500超す仕事 適性や賃金公開

206.9.16 朝日新聞

収束、5億円を投じ、5年かけて開発した。網羅した職業は500。日本の労働者全体の9割がこれらの職業に就いている。パイロットやモデル、スポーツ選手、料理人、宗教家、アウターなどをとに計算した平均的な賃金、年齢などもわかる。動画で実際の仕事風景を見るホームページともリンクしている。

世界最大級の職業情報データベース「キャリアマトリックス」を公開

行政法人「労働政策研究・研修機構」(小野垣重長)が製作、4日公開した。日本の主要な約500の職業の仕事を内容や必要な能力、就職方法、平均賃金、動画による情報などが収録されている。同機構は、厚生労働省の委託を受け、就職にまつ若者や就職のミスマッチ解消を目的にデータベースを作成した。500の職業掲載は、同様のデータベースの米国の約900に次ぐ規模。

労働政策研、世界最大級の職業DBをネット公開

2006/09/04 化学工業日報、11ページ、415文字

独立行政法人の労働政策研究・研修機構は、約五百職種を業情報データベース「キャリアマトリックス」をインターネットでき、すると発表した。若者の適職探しから中高年の再就職まで、個時間、無料で利用することができる。

「WEBクリエイター」などの職業名を検索すると、詳しい仕事ほか、働いている様子が動画で見られるものも多い。その職業条件、労働条件や賃金水準なども分かる。また、簡単な質問に答え業を探せる「適職探索ナビ」や、それまでの履歴で自分に合った

500職種紹介 データベース

労働政策研が公表を始めた。どんな職業が自分にふさわしいのかよく分からない。こんな若者に職業選択のための情報をインターネットで無料提供する事業を独立行政法人の労働政策研究・研修機構が始めた。労働政策研究・研修機構は、厚生労働省の委託を受け、就職にまつ若者や就職のミスマッチ解消を目的にデータベースを作成した。500の職業掲載は、同様のデータベースの米国の約900に次ぐ規模。

2006.9.10 日本経済新聞

資料 8 キャリアマトリックスの書籍等での紹介

(1) 本間啓二, 金屋光彦, 山本公子「キャリアデザイン概論」2006. 3 雇用問題研究会

第2章自分を知る 第1節自分を知る 2 自己理解の内容 (2) キャリアマトリックスにおける自己理解 (P29～31)

第4章職業世界を知る 第1節産業と職業の情報 5 職業情報の種類と情報へのアクセス

(1) 職業情報のメディアの種類③インターネットの職業・就職関連サイト

「29～31 頁で紹介しているキャリアマトリックスは、誰でもアクセスできるようになる職業に関する総合的なデータベースである」(P95)

(2) 八幡成美「職業とキャリア (キャリアデザイン選書)」2009. 2 法政大学出版局

第2章職業の情報と職務分析 3 職業情報にアクセスする

「たとえば、独立行政法人労働政策研究・研修機構が提供しているキャリアマトリックスが代表例であるが、そこでは 500 ほどの種類の職業情報が提供されており、職業名や作業内容、キーワードから各種の職業情報を検索できる」(P25)。

(3) 本間啓二, 金屋光彦, 山本公子「改訂キャリアデザイン概論」2009. 9 雇用問題研究会

「キャリアデザイン概論」2006. 3 と同様にキャリアマトリックスが紹介されている。

(4) 「キャリアのみかた」2010. 2 有斐閣

「職業の数と調べ方」(P37) として、キャリアマトリックスが画面とともに紹介されている。「用語解説」としてもキャリアマトリックスが一項目として解説されている (P44)。

(5) 「キャリア・コンサルティング理論と実際」2010. 3 雇用問題研究会

キャリア・コンサルティングに関する教科書的な冊子である本書において、4 章「職業理解の実際」のなかで、キャリアマトリックスのトップ画面が細かく紹介がされている (P267)。

(6) キャリア・コンサルティング技能検定

キャリア・コンサルティング技能検定 (2 級) の学科試験において、試験科目の範囲として、「仕事・職業に関する理解」があり、具体的な設問として、キャリアマトリックスの知識を問う問題が例年出題されている。

資料9 キャリアマトリックス紹介記事

(1) 「インターネットでの新たな基盤情報の提供ー総合的職業情報データベースの開発ー」 『職業安定広報』2004年5月21日

『職業安定広報』（2004年5月21日）の特集「調べてみよう！職業関連」の中で、開発中であったキャリアマトリックスについて、総合的職業情報データベースとして紹介。



インターネットでの 新たな基盤情報の提供

総合的職業情報データベースの開発

手軽に使える森羅万載

労働政策研究・研修機構では現在、インターネットによる新しい職業情報・職業情報の提供システムを開発しています。インターネットを通じて、若年から中高年までの人々が、自分の特性に合った仕事を探したり、今までのキャリアを生かせる仕事を見つけたりといった意思決定を支援するものです。完成後は、職業や職務に関する詳細な情報や、各種の基準となる数値、関連する情報、等多様な情報がデータベースとして提供できることになっており、また、このデータベースをコアとして、就職、転職に関する総合的な情報

開発中のメニュー

システムの基盤となるのは、職

利用方法 今後のスケジュール

職種の経験や、スキル、興味等の要件と、求人側が求める要件を結び、共通の言語や基準がなく、食い違いが随所に生じ、ミスマッチや就職プロセスでの様々な問題が生じています。

現在、システムの開発が進んでいます。専門家による検証や第一

労働政策研究・研修機構

このように強みがあるはずですが「ペーパーポイント」から、このような職業や職務が問われています」という結果が得られるものです。

共通言語整備

システム開発と平行して行われているのが、求人求職における「共通言語」の整備です。現在はこのようなものがあるために、求

ることができません。現在開発中のシステムは、一般向けのものですが、職員やカウンセラー等、専門家向けのシステムも開発する予定です。

労働政策研究・研修機構
主任研究員 松本良彦

(2) 「新時代の職業情報システム：キャリアマトリックス」『ビジネスレーバートレンド』
2007 年 1 月号

『ビジネスレーバートレンド』2007 年 1 月号において、前年 9 月に一般公開を開始したキャリアマトリックスを紹介。

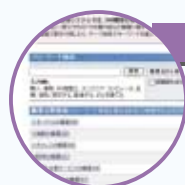
小特集

新時代の職業情報システム キャリアマトリックス

■ 充実した職業情報を提供します。 約500種類の職業に対して、充実した職業情報を提供します。

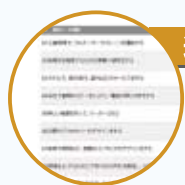
どんな職業か	就くには	労働条件の特徴	職業プロフィール	参考情報
具体的な仕事の内容を、文章と写真で詳しく説明します。	その職業に就くための方法について、解説文とフローチャートで示します。また、関連する資格も紹介します。	勤務地、就業形態、勤務時間、就業者の年齢・地域別の構成、今後の展望などを紹介します。	スキル、興味、ワークスタイルなど、職業の特徴を数値化して示します。	類似職業や関連資格、外部サイトへのリンクなどの情報を提供します。

■ 自分にあった職業が見つかります。 知りたい職業、自分の興味やスキルにあった職業、自分のキャリアが活かせる職業などを、素早く見つけることができます。



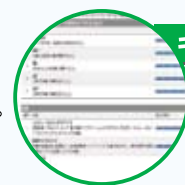
職業探索

職業名、職業分類、テーマなどから、職業を検索できます。



適職探索ナビ

興味、スキルなどから適した職業を探します。学生など若い人向きです。



キャリア分析ナビ

過去の経験から、自分のスキルや知識を確認し、そのような経験を活かせる職業を探索します。職業経験のある社会人向けです。

活用例

キャリアマトリックスは、就職を考えている学生や、転職、再就職を考えている社会人、また、就職に考えるカウンセラーや相談員等に活用していただけます。

若年者・学生は



- CASE1 「やりたいこと」探しに
- CASE2 仕事探検に
- CASE3 適職探しに
- CASE4 適職選択に

社会人は



- CASE1 キャリアの棚おろしに
- CASE2 新しい可能性の発見に
- CASE3 アピールポイントの確認に
- CASE4 キャリアアップに

教員やキャリアカウンセラーは



- CASE1 キャリア教育に
- CASE2 進路決定支援に
- CASE3 マッチングに
- CASE4 専門情報のリファレンスに

企業人事担当者は



- CASE1 効率的な人材確保に
 - CASE2 人材活用に
 - CASE3 人材開発に
- (企業向けに、求人・人材活用・人材開発を支援するシステムの開発を現在進めています)

アクセス

キャリアマトリックスへのアクセスは、下記のアドレスから。2つのサイトから同じ内容を提供しています(ミラーサイト)

<http://cmx.vrsys.net>
<http://cmx.hrsys.net>



キャリアマトリックストップ画面：ポータルサイト

■ お問い合わせ先

E-mail: cmx@vrsys.net

独立行政法人
労働政策研究・研修機構 労働大学校

I・キャリアマトリックスは 職業・キャリアの「総合情報ガイド」

JILPT 統括研究員 吉田 修

キャリアマトリックスは、JILPT が開発したインターネットで職業・キャリア情報を総合的に提供する新時代の職業情報システムである。キャリアマトリックスは、豊富な職業情報を収録したデータベースを中核としているが、単なる情報の集積ではない。個人、個別企業のそれぞれ個別的なニーズに応え、求められる職業・キャリア情報を提供し、その達成方向に向けての示唆と助言を行うなど必要な支援を与える「総合情報ガイド」を目指している。

具体的には、職業・職務内容に関する詳細な解説情報と所要のスキルなど諸特性の数値データ等から構成されるデータベースとテストを含む多角的な検索システム、そして多彩な情報リンクからなっており、若年の適職発見から中高年の職業キャリアを生かした就業可能性の探索まで、個々の主体の意志決定を支援する「情報+ガイダンス」機能をもつ。また労働市場における多様な職業情報を整理し、共通言語として効果的なマッチングの基盤を提供したり、企業内での人的資源の最適活用をサポートするなど多様な機能をもっており、二一世紀における個人のキャリア発展と産業・労働の効率化への強い支援ニーズに応えるものである。このシステムは厚生労働省の要請に

基づいて二〇〇一年に研究が始まり、昨年九月、まず職業情報提供と対求職者・若年層サービスを中心としたシステムからインターネットにより公開を開始している。現在は本邦初の本格的職業情報システムとして若年相談機関やハローワーク、学校等から一般市民・家庭へと普及が進みつつある。今後は、対求人者サービスシステムの開発とともに、雇用・能力開発・教育など他の関係官民システムを含む情報連携の一つの中心として日本における官民共通の職業キャリア支援のポータルサイト（総合案内）、「公共情報財」としての活用が期待されている。

1 開発の背景

「職業情報の機能」

近年、就職をためらい、つまづき、就職後も離転職を繰り返す若年層や、団塊定年の到来を控えてキャリアの転換に悩む中高年層が増大している。一方、労働市場では大量の求人求職ミスマッチによる構造的失業が見られ、その要因として、わが国における職業情報の未整備とそれによる市場の調整機能の弱さがあげられている。

今日の社会で職業情報は三つの重要な役割をもっている。

第一は、個々人のレベルにおける自主的かつ適確な職業キャリアの探索・

選択・開発における「意志決定の基礎情報」としての役割である。ここでは普遍的な職業名称、職務内容、必要なスキル、知識・興味等の特性、就職経路とキャリア展開、労働条件、労働需給と見通しなどの情報が不可欠である。さらに個々人のキャリア開発を支援するキャリアアカウンセリングにおいても、その可能性を拓く職業情報の提供は不可欠な要素となっている。

第二は、社会・企業レベルにおける「職業の仕様、流通の規格」としての役割である。労働市場（外部・内部）における需給調整において普遍的な職業名称・整理分類と正確・妥当な内容定義は、精密なマッチングを行う上で不可欠であり、あたかも多様な商品に対するJIS規格のように求人・求職双方における共通認識が確保されねばならない。これは、人口減・人手不足時代の企業の人材

表1 キャリアマトリックスの提供するもの

	主要機能	サービス内容	充実・発展の方向
I	総合的職業情報提供 ・職業の共通言語 ・職業キャリアの総合ポータル	・多様な職業名・内容の共通理解と効率的なマッチングを可能とする辞書・事典・シンソーラス機能 ・官民共通総合的職業・キャリア情報 ・個別ニーズに沿ったダイナミックな情報検索と提供 ・雇用・職業分野の包括的な情報案内	・多角的でファジーな検索の充実 ・Webを通じた職業情報の探索・収集システムの構築 ・官民による個別・専門的システム等開発への共通技術基盤の提供 ・職業情報蓄積による職業構造の解析・新職業分類体系の開発
II	アセスメント支援 ・適性診断テスト	・興味・スキル等から診断し適職探索と情報提供を統合システム的に提供	・官民の専門アセスメントと連携 ・共通技術基盤の提供
III	キャリア教育支援 ・ガイダンス ・教育用情報	・職業情報、テストを駆使して若年層のキャリア発達（キャリアリテラシー、職業意識等）を支援	・キャリア発達促進プログラム ・リアルで教育的なキャリア探索試行システム
IV	職業選択・就職支援 ・職歴者の職業資産分析・可能性探索 ・若年者の進路探索	・離転職者職歴からスキル・プロファイリング、幅広く可能性を探索し再就職を支援 ・若年層の適職・キャリア探索支援	・職業資産の精密な評価とガイド ・個々人の職業資産価値評価 ・労働市場サイトとのリンク ・オートマッチングシステム
V	人的資源管理支援 ・人的資産情報	・求人要件明確化・人的資産評価で採用・配置を効率化、人材確保・活用を支援（開発中）	・内外労働市場と連携した人材管理システムで人的資源管理を支援 ・能力開発・求人システムとの連携
VI	キャリア形成支援 ・キャリア情報	・個人のキャリア開発とコンサルティングを情報面から支援	・官民のキャリア開発システムと連携
VII	キャリア専門家支援 ・専門技術情報	・官民カウンセラー等専門家に職業キャリアデータベースから情報支援	・専門水準向上等への支援 ・双方向交流による情報データ蓄積

の効率的配置・最適活用において必要となる要素でもある。

第三は、「職業」を通じて労働・キャリアに関連する各種の社会システムを結びつける「キー概念」としての役割である。職業情報は、米労働省のO*NETシステムに見られるように、官民のキャリア教育から職業相談、人材紹介、教育訓練、キャリアカウンセリング、各種支援措置等にいたるまでの多様な情報サービスを結びつける上で基本要素としての役割を担う。

「米欧に遅れた職業情報と関連システムの整備」

ちなみに欧米では、早くから職業情報や提供システムが整備され、職業別労働市場での効率的なマッチングや個人への手厚いキャリアカウンセリング、企業の効率的な人材リクルートとその活用を支えてきた。近年の産業構造の変化は欧米においても職業内容に大きな変化をもたらした。職業情報と関連情報システムについてもこの一〇年間に大きな革新が見られる。

すなわち、米のO*NET等によって代表されるインターネットによる公的職業キャリア支援情報システムの発展であり、官民共通の「公共情報財」として重要な社会インフラとしての役割を果たしている。

2 キャリアマトリックスの主要機能

キャリアマトリックスの主要機能としては表1のようなものがあり、諸特性の数値情報を基盤にもつ総合的職業情報をコアとして多角的なサービスを提供する。詳細は後述の解説を参照。

Ⅱ. 目で見るキャリアマトリックスのシステム

1 世界最大級の情報リソース

労働政策研究・研修機構では、インターネットによる新しい職業情報、キャリア情報の提供システムを開発し、九月より一般公開を開始した。公開以来、多くの報道機関で取り上げられ、求人サイトにバナーが設置されたり、大学就職部、キャリアセンターのホームページ等に紹介が数多く行われ、予想以上のアクセスを得ている。ここでは、このキャリアマトリックスに関して、システムの画面を中心として、紹介していくことにする。

この種のシステムとしては、米労働省が開発しているO*NETが有名である。本システム同様、職業を多面的に数値化し、データベースとして提供している。また、米労働省のサイトで最もアクセスが多いトップ三は、①具体的な求人・求職情報の提供（AJBとよばれ、日本のハローワークインターネットサービスに相当）、②就職・転職に関する

総合案内サイト(Career InfoNet)、③職業情報であるが、本システムはこの②と③の部分を担うシステムということができる。

職業情報を提供するサイトは、英国、ドイツ、フランス等にもある。それぞれ政府が開発、提供し、米O*NET同様に、就職、転職、キャリア開発、能力開発、等々に関する基盤となる情報となっている。各国のサイトはそれぞれに特色があるが、提供している内容を、職業数、項目数、コンテンツの

多様性等で総合的に評価すると、キャリアマトリックスはこれら諸外国のものに比べても、最大級の情報を提供していることができる。

2 システムの主要画面とその構造

システムのトップ画面(ポータルサイト) 図1はシステムのトップ画面である。トップ画面の中央にシステムの中心機能となる「職業探索」、「適職探索ナビ」、「キャリア分析ナビ」がある。

JILPT主任研究員 松本真作

図1 キャリアマトリックスのトップ画面



左側には、週替わりでの一つの職業を紹介する「職業スポットライト」、後で説明する職業検索の機能の一つであり、やはり週替わりで特定のテーマに関連する職業を紹介する「今週のテーマ」がある。その下では様々な関連分野のサイトを紹介しており、この部分が充実していくと、キャリアガイダンス、就職・転職、キャリア開発、求人・求職等々の総合案内サイトとして、本システムがポータルサイトになっていくといえる。右側には就職や転職、キャリアガイダンス等における最近の話題を紹介する「トピックス」があり、その下には、毎週アクセスされた職業をアクセス順に紹介する「職業アクセスランキング」がある。そして、システムの運営等に関する「お知らせ」があり、また、システムの操作マニュアルやパンフレット等をダウンロードできるコーナーも用意されている。

職業検索 「職業検索」では(図2)、様々な方法で職業を検索することができる。「フリーワード検索」では、職業名や職業解説に含まれる言葉から職業を検索でき、「職業分野検索」では当機構が一九八一年に刊行し、第四版まで改訂を重ねてきた『職業ハンドブック』で用いている分類により、職業を探ることがで

きる。「テーマ検索」ではこのテーマ面を「今週のテーマ」ではこのテーマを週替わりで紹介している、「モノを加工する」、「デザインする」、「人をケアする」、「海外で活躍する」等、職業を特徴づける五二のテーマから職業を

探することができる。テーマを選ぶとそれに関連した職業のリストが提示される(図3)。「テーマ検索」は上から順番に、モノに関するもの(DPT)として知られる対物関係志向の「Thing」、概念やアイデアに関するもの(DP

CAREER MATRIX

図2～7

図2 職業検索の画面



図4 適職探索ナビ自己診断テスト



図6 自己診断テスト結果(2)



図3 職業検索—テーマ検索



図5 自己診断テスト結果(1)



図7 キャリア分析ナビ(ベーシック版)アピールポイント



探することができる。テーマを選ぶとそれに関連した職業のリストが提示される(図3)。「テーマ検索」は上から順番に、モノに関するもの(DPT)として知られる対物関係志向の「Thing」、概念やアイデアに関するもの(DP

Tの対情報関係志向の「D、Data」、人に関するもの(DPTの対人間関係志向の「P、People」とその他、の四つにまとめられており、これらが分かっているとテーマを探しやすい。職業検索では、この他にも職業の五十音順検索や、

CAREER MATRIX

図8～12

38

図8 キャリア分析ナビ(ベーシック版)適職リスト

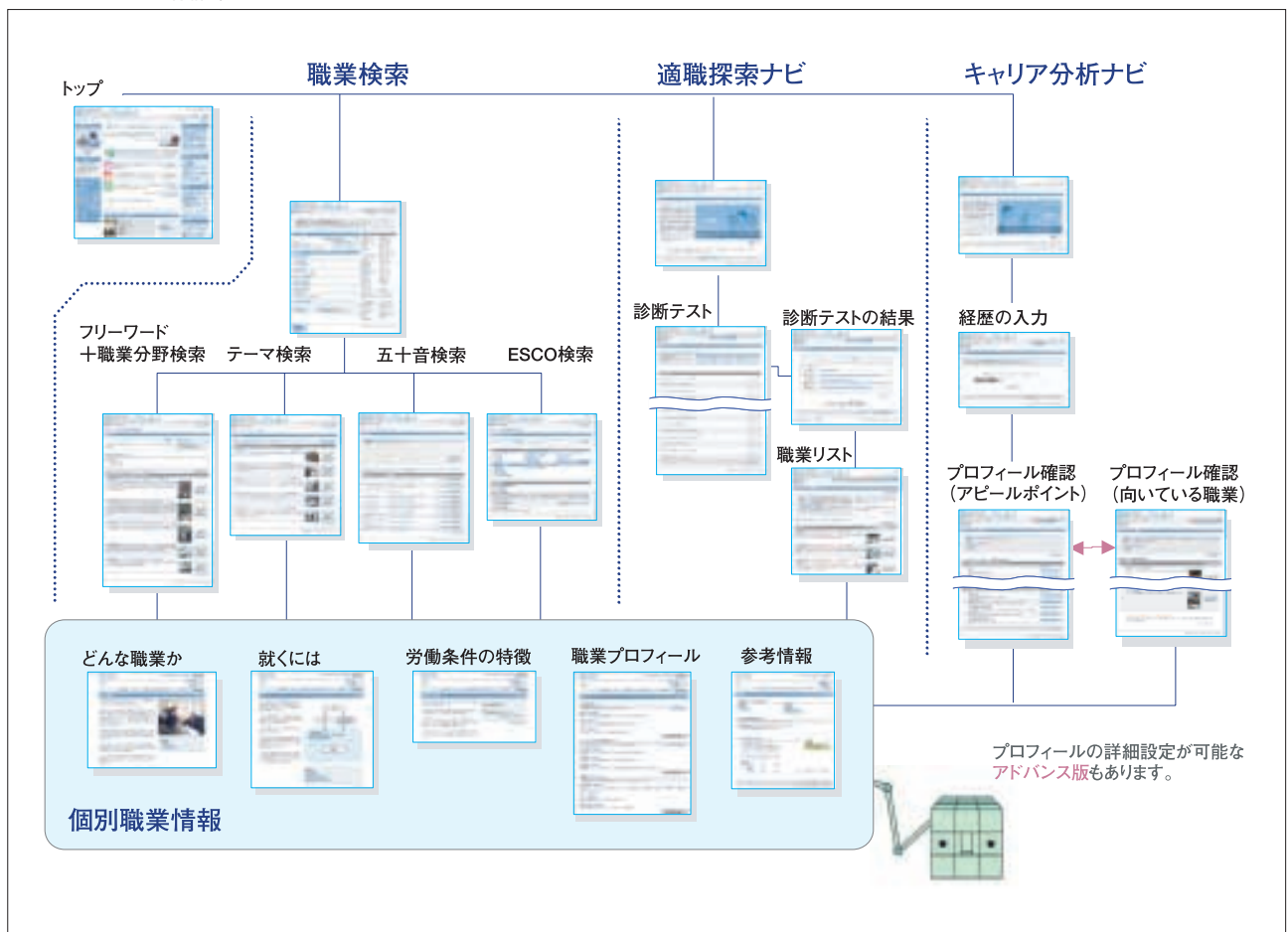
図9 キャリア分析ナビ(アドバンス版)プロフィール調整

図10 キャリア分析ナビ(アドバンス版)比較結果

図11 キャリア分析ナビ(アドバンス版)アピールポイント

図12 キャリア分析ナビ(アドバンス版)チャレンジポイント

図13 システムの全体構成



厚生労働省編職業分類（ESCO）から職業を検索することができる。

適職探索ナビ 「適職探索ナビ」は主に学生や若年向けである。簡単な職業興味検査、職業の選択で重視する点（ワークスタイル）、スキル等からそれに合った職業を探索することができる。簡単な自己診断テストに回答すると（図4）、その結果が示され（図5）、その結果から適した職業をみることができ（図6）。

キャリア分析ナビ 「キャリア分析ナビ」は、就業経験のある人向けのシステムで、これまでに就いた職業や職務を入力すると、そのような職業や職務をしてきた人であれば、「このような強みがあるはずだ」（図7、アピールポイント）、そしてその強みから「このような職業が向いています」という結果が得られる（図8）。「キャリア分析ナビ」にはアドバンス版も用意されており、経歴から自動的に算出されるスキルや知識のレベルを調整したり（図9）、特定の職業に関して、転職や就職の可能性を検討できる（図10）。そして、アピールポイント（図11）やチャレンジポイントを明らかにできる（図12）。

アピールポイントはベシック版同様、その人の強み、長所であるが、チャレンジポイントとは、その職業に就くためには足りない部分であり、就業するために身につけたり、伸ばさなければならぬ点である。チャレンジポイントは将来的には、それを伸ばすための能力開発の手段や方法、関係教育研修機関の情報や具体的な教育訓練

コース、セミナー等の情報へリンクできることを目指している。

システムの全体構成 図13にシステムの全体構成を示した。以上、説明してきた各システムの関係がわかることと

CAREER MATRIX 図14～18

図14 職業情報—どんな職業か



図15 職業情報画面—就くには



図17 職業情報—職業プロフィール



図16 職業情報—労働条件の特徴



図18 職業情報—参考情報



思う。職業検索、適職探索ナビ、キャリア分析ナビのいずれを使っても、次に紹介する職業情報に繋がっている。

職業情報画面 各システムを使った結果表示される職業情報は、職業情報の

概要を写真とともに示した「どんな職業か」（図14）、その職業に就く経路を示した「就くには」（図15）、就業者数や労働時間、平均賃金等を表示する「労働条件の特徴」（図16）、職業の特徴を数値化した「職業プロフィール」



(図17)、類似職業や関連団体のサイトの紹介、そして、職業の映像情報を提供するジョブジョブワールドへのリンクを提供する「参考情報」(図18)からなる。

3 職業の特性数値と 共通言語・共通基準

システム開発と平行して行ってきたのが、求人・求職や能力開発における

「共通言語、共通基準」の整備である。共通言語、共通基準とは、共通の職業名、共通の分類、関連分野の用語の共通化、共通の基準の提供であり、これまではこのようなものがなかったり、曖昧であったために、求職側の経歴やスキル、興味等の特性と、求人側が求める要件を照合する際、食い違いが生じたり、ミスマッチや就職プロセスでの様々な問題が生じているといえる。

共通言語、共通基準として、スキル三五カテゴリ、知識三三カテゴリ、興味六カテゴリ、ワークスタイル六カテゴリ、仕事環境一四カテゴリ、計九四カテゴリに関しては、それぞれカテゴリを定義し、そのカテゴリ毎の基準となる数値がシステムに入れられている。五〇三の職業に対して(行)、それぞれ九四個の数値(列)、合計で五〇〇〇個近い数値が行列として用意されていることになる。

「キャリアマトリックス」という名称は、マトリックスに基盤としての意

味があるため、就職、転職、キャリア開発、能力開発等の基盤としての情報システムであり、また、中に登録されている数値情報が、行列、すなわちマトリックスとなっていることに由来している。

職業毎の九四カテゴリの基準となる数値は、次に述べるWeb職務調査によって情報を収集しており、実際にその職業に就いている人の評定を整理したものである。またこの数値は職業情報の「職業プロフィール」として表示されたり、「適職探索ナビ」での個人の特性と職業の結びつきに使われたり、「キャリア分析ナビ」において経歴を分析する基準となっている。

4 六〇〇箇所の団体訪問、 五〇万人のモニター 調査とWeb職務調査

システムから提供するコンテンツの情報収集は二通りの方法で行っている。一つ目が関係団体等の訪問調査であり、当該職業に関連する団体・機関、業界団体等を訪問し、情報収集を行うものである。このような団体からその職業が見られる事業所等を紹介されることもある。システム公開までに、このような団体、約六〇〇箇所の訪問調査を行っている。

もうひとつの方法がWeb職務調査である。これまでにWebモニター約五〇万人の現在の職業を調べ、そのうち約二万人に対して、今回のプロジェクトのなかで開発した「Web職務調査システム」により、職務や仕事の内容を詳細に調査している。Web職務調査では、その職業を構成する課業(タ

スク)を評価・記述してもらうとともに、職業の各側面を数値により評定してもらっている。

Web職務調査により職業毎の詳細な数値データが得られたことから、先に述べたようにこの数値を整理し、データベースとしてシステムに搭載している。また、このWeb職務調査で得られた数値データについて、今後さらに分析、検討することにより、職業の相互関連性や構造、その特性値の分布等を統計的、科学的に明らかにしてゆくことができるようになる。

Webモニターによる調査を発展させ、現在、その仕事をしている職種毎のモニターを常時確保しておくことや、医療、福祉、IT、広告業界等々、その業界に詳しい人を常設モニターとして確保しておくことも考えられる。このような常設の情報源を通じて、今日、職業や業界に起こっている事象や状況をリアルタイムに把握し、関連法制度や技術等の変化の著しい中であって、日々変化している職業実態について常に最新の情報を求めるニーズに応えることができる。

5 システムの役割と 今後の展開

キャリアマトリックスは公開一ヶ月で約三〇〇万件のアクセスがあり、ハローワークインターネットサービス等、公的なサイトや、大学の就職部・キャリアセンター等のホームページに数多くリンクが設定され、この分野の基準となる代表的なサイトとなってきたと言えることができる。また、キャリアマトリックスの一般公開は、様々な

報道によっても大きく取り上げられている。

このシステムは、米O*NET、Career InfoNet等のシステムから見ればその一部を達成したにすぎない。今後も拡張、発展していく予定であり、一般公開後も開発作業は進んでいる。

現在、具体的に開発が進んでいるものを紹介すると、そのひとつは専門家向けのシステムである。九月に公開したものは一般向けであり、学生、若者、転職を考えている人等、一般の人が使えるものであるが、学校の進路指導担当者、キャリアカウンセラー、ハローワーク職員等、キャリアガイダンスや就職・転職を支援する専門家向けのシステムも必要とされている。カウンセリングや指導に必要な専門・技術的関連情報を専門家に提供するものである。

このシステムは「キャリアマトリックスPro」(仮称)として、現在、準備を進めている。また、企業の求人活動を支援するシステムや企業内の配置、異動、能力開発等を支援するシステムも開発を行っている。本システムの基盤といえる職業の特性を数値化したデータベースを活用し、企業の人事担当者等を支援するものである。このシステムは、人材の開発や人材の活用という面では、政策立案や雇用管理支援を行う行政職員にも有用なものといえる。

図19にキャリアマトリックスの機能と役割を整理しているが、求職者の就職・転職活動を支援し、学生や若者のキャリアガイダンスの情報源となり、求人企業や専門家にも利用される情報システムとなることを目指している。そしてキャリアマトリックスの最も根

源的な機能と役割は、共通の職業名、共通の分類、共通の用語、共通の基準からなる共通言語、共通基準の提供ということができる。キャリアマトリックスが広く利用されることによって、関連する分野の共通言語、共通基準を普及させていくことが、ひとつの大きな目標といえる。

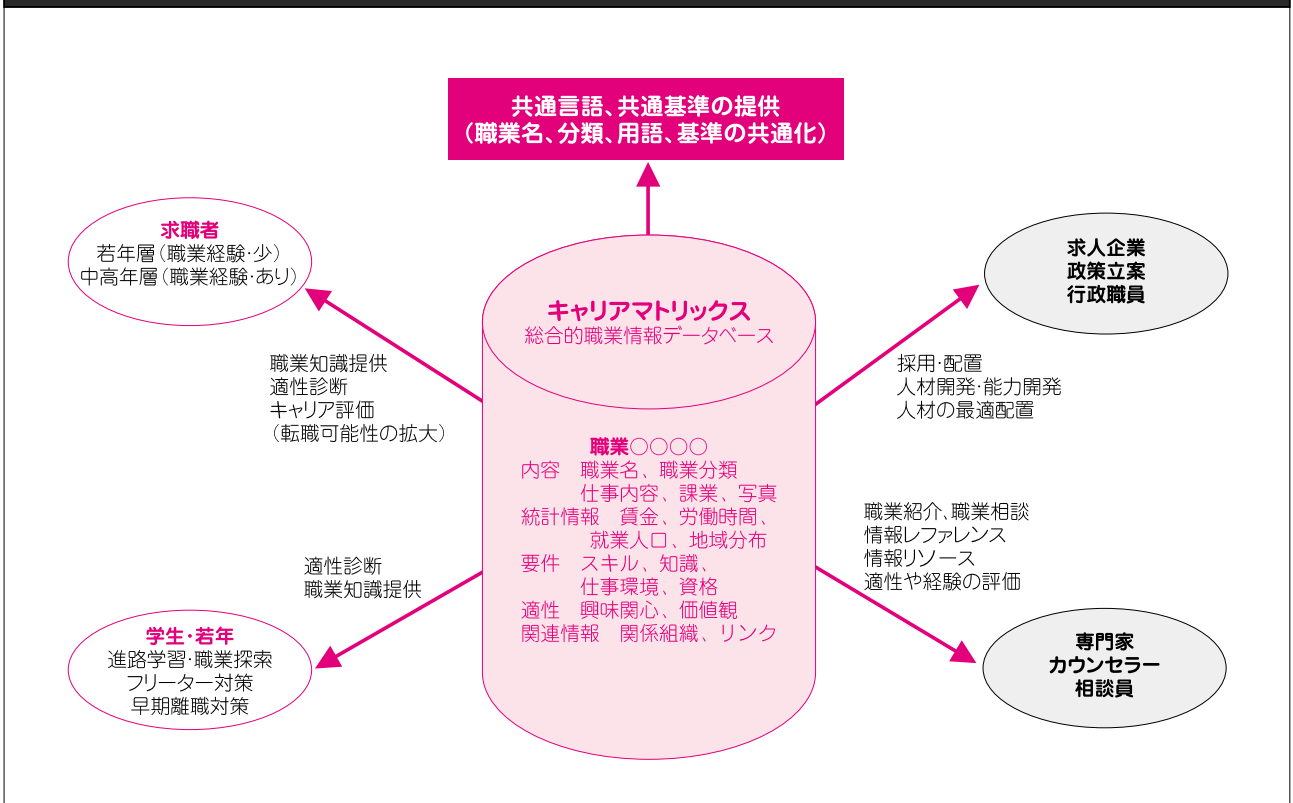
キャリアマトリックスは以下の三つのサイトから、二四時間三六五日、無料で利用することができる。三つのサイトはミラーサイトとして同じ内容を提供しており、アクセス集中に対応するとともに、一つのサイトが万が一何らかの理由で停止しているときも、他のサイトからは情報提供が続けられるようにしている。

<http://cmx.vrsys.net>
<http://cmx.hsys.net>
<http://cmxn.vrsys.net>

【参考文献】

調査研究報告書一五一「人材の最適配置のための新たな職業の基本情報システムに関する研究—企業・個人ニーズ調査、諸外国のシステム、翻訳実験版の開発、他—」日本労働研究機構 二〇〇三年三月

図 19 キャリアマトリックスの機能と役割



Ⅲ. 職業情報の革新—キャリアマトリックス

JILPT主任研究員 石井 徹

1 総合的な職業情報開発の背景

近年の産業経済の回復や雇用情勢の好転のもとで若年層における就職や無業者（未就業者）の問題はかなり緩和されてきているが、これらの経験から若年者のキャリア教育や職業指導の重要性が改めて社会に認識されてきている。また、中高年の雇用状況はいぜん厳しい状況であり、中高年には技術変化や企業ニーズに即した技能や知識を習得することで就業力や仕事能力を高める必要がある。

特に若年者では、職業理解と自己理解に加えてキャリア選択スキルを促進することができ、しかもそれをセルフヘルプで利用できる職業情報ツールの提供が求められている。また、中高年にはこれまでの職業経験で得た仕事能力（スキル）を的確に評価した適職選択や転職などのキャリア開発に有用な情報を提供することが求められている。キャリアマトリックスは、若年から中高年までの利用者が年齢や発達段階に応じて自らさまざまなナビゲーションを利用し、心理テストやスキル分析などによる診断と併せて職業を探索することにより適切な職業選択や就業を支援する総合的な職業情報システムである。

2 キャリア支援と職業情報

（１）職業情報の機能や意義

職業情報とは、広い意味で人々が職業を理解し、よりよい職業選択をし、就職を行う場合、そして人々に職業や職務に人を適切に紹介しない人々を採用・配置する場合に有用な職業に関する情報である。言い換えれば、職業情報は、個々人の職業理解、職業選択、就職活動、そして教師やカウンセラーによる進路指導、進路相談、職業安定機関における職業紹介や就職支援、企業における従業員の採用や配置になくしてはならない情報といえる。

特に進路指導において、個々人が主体的に進路を決めるためには、自己理解と職業情報を関連づけることが重要である。すなわち職業情報は、ややもすれば抽象的かつ疎遠な感のある「自分の進路」を考える際に、具体的な仕事内容やキャリアを目に見える形で示すことができる。

（２）職業情報に求められる要件

情報技術が進展した今日では、最新の職業情報としては次のような要件が求められるだろう。これらの要件はきわめて有用なガイドラインである。キャリアマトリックスもできる限りこの要件を満たすよう開発を行っている。

- ・利用目的に沿ったもの
- ・最新で信頼性の高い情報
- ・利用対象の職業発達・レディネス、求職条件に沿ったもの
- ・利用対象の発達に応じて段階的、継続

統的な利用がなされるよう考慮されていること、例えば中高生には分かり易さ、面白さ、成人や求職者には詳細さ、具体性など

- ・印刷物以外にもビデオ、CD・ROM、パソコン、インターネットなど様々な媒体で提供されること
- ・相談や指導する側だけでなく、個人のセルフヘルプでの利用を考慮したもの

（３）職業情報の探索と職業選択を支援するナビゲーション、診断機能

職業情報だけがあっても、効果的な職業情報の活用や進路選択などのガイダンスにはつながりにくいものである。やはり使いやすく強力な検索や診断システムが必要である。適職を提示できる評価・診断システムにより自己分析や自己理解を支援し、その結果と連携した職業情報がガイダンス効果を高める。インターネットのシステムでは、さらに本体の職業情報とリンクした種々の関連情報や求人情報などがあれば、さらに有用性が高い。

この代表的な職業情報システムが米国のO*NETであり、我が国ではキャリアマトリックスである。

3 キャリアマトリックスの開発の要点

（１）職業情報の共通言語化

我が国にもすでに多くの職業情報があるが、その情報項目や内容は種々、

様々であり、信頼できる基準となる職業情報が必要とされている。これまでの職業情報において使用されてきた職業の分類、名称や用語は情報源や提供機関により様々で、進路指導関係者や職業紹介機関の間にも職業情報についての共通の言語がなく、情報を利用する学生や求職者などに混乱を与えていた。

職業情報の共通言語化の意義は、客観的で科学的な職業情報の提供であり、そのため職業分類、職業名、解説用語などを統一し、共通言語とすることである。工業製品に例えれば、JISの規格を定めるようなものといえる。キャリアマトリックスの開発目標の大きな柱が職業情報の共通言語化である。これからの職業情報は用語や項目などを出来るだけ統一したものにすることが重要である。

（２）利用対象の拡大

キャリアマトリックスの利用対象は、大学生以上から中高年までと幅広い。すでに提供している職業ハンドブックOHHBYが中学・高校生向けであるのに対して、その成人版と位置づけることができる。今回新たに搭載したスキルなどの職務特性とその診断システムは、就業してから職業経験において得たスキルなどから適職を診断するもので、中高年の自己理解やキャリア形成支援にきわめて有効である。この診断システムは職務分析の定量的分析（数値化）による画期的な研究開発成果をもとに開発された。

（３）職業情報の拡充

これまでの印刷物による職業情報は、職業解説と就業場面の写真等が主であ

り、職業数も数百タイトル程度が上限であった。近年、情報技術が進展するにつれて情報検索やナビゲーション機能が搭載され、情報自体も職業に関する解説はもとより、映像や音声情報が掲載されてきた。インターネットで提供するキャリアマトリックスでは、これらに加えて職業の関連統計や新たに開発したスキルや知識などの職務特性を職業情報としても掲載し、さらに動画などの映像情報、関連団体（問い合わせ先）のサイトをウエブリンクにより提供している。現在、職業名によるハローワークの求人情報とのリンクについても試用、検討中である。

（４）情報探索、適職診断・評価、マッチング機能の強化

職業情報システムのガイダンス効果や使い易さは、解説やコンテンツそのものの分かりやすさや豊富さだけでなくシステムが提供する職業探索やマッチング機能にも大きく依存している。キャリアマトリックスでは、職業解説のほかに、検索システム、職業興味、ワークスタイルなどの心理テスト、スキルなどの職務特性データに依拠した診断システムなどを搭載し、職業情報の参照、職業の検索、診断・評価そして選択支援までを一貫して行うことができる。

（５）総合的職業情報とインターネット

これまでの職業情報（印刷物やCD・ROMなど）では総合性を高めるためには、豊富な情報と多くの機能をもつシステムを搭載するオールインワン方式が有力であった。しかし、最近ではインターネットにより他のウエッ

ブサイトとリンクすることでより総合性を発揮することができると。このため、本体のシステムには情報の差別化、精緻化、職業探索や診断機能の高度化などの特色を持たせることが重要である。そこで基盤的で信頼できる職業情報と高度で斬新な探索・診断機能の連携による職業情報システムが開発モデルとなる。そして、本体の職業情報に種々のキャリア関連情報、分かりやすい動画などの映像情報そして就職に役立つ求人情報とのリンクが加味されればさらに効果的である。

いつでも、どこでも、だれでも簡単にアクセスでき、セルフヘルプで利用出来る職業情報の提供には、現在、インターネットが最良の媒体といえる。

４ キャリアマトリックスの利用・活用ポイント

キャリアマトリックスの具体的な情報や探索画面、システムの機能は詳しく紹介されているので、ここでは基本的な利用・活用のポイントを説明しておこう。

（１）職業情報の収録数

キャリアマトリックスの職業情報は約五〇〇で日本最大級であるが、これで十分とはいえない。しかし、数値情報を含めた信頼できる職業情報を数多く整備することは容易にできないのが実状である。世の中には、収録の約五〇〇の他にも多くの職業が存在している。求める職業がキャリアマトリックスにない場合でも、これらの五〇〇職業のいずれかに類似しているか、関連しているため、それらの職業から類推したり、比較検討することができる。

これは主要な職業の内容・特性を熟知したキャリアカウンセラーにおいては特に然りである。

（２）職業情報の内容

キャリアマトリックスの職業解説の分量は約二五〇〇字で、職業ハンドブック（九七年版）からみると約半分程度である。しかし、職業に関する特性データ、種々の統計、関連ウエブサイトなどの参考情報など職業情報全体では情報項目や内容が大幅に拡充されており、特に職務特性データは評価や診断システムにおけるマッチング機能の基盤になっている。これにより個人のニーズに応じて興味・適性や経験から適職を総合的に提供したり、希望職種に必要なスキルを提示するなど、「一人一人のための職業情報」の提供が可能となっている。この点がこれまでの解説や記述中心の職業情報と明らかに違っている。ちなみに職業理解や選択においてより詳しい職業記述情報が必要な場合は、詳細な情報をキャリアマトリックス掲載の業界団体のウエブサイトや本・雑誌などからも入手できる。

またキャリアマトリックスの職業リストや情報内容は、全国レベルのものであり、必要となる職業情報は地域や利用対象などにより異なる。カウンセラーやハローワークの職員が地域の情報や利用者の態様とニーズにあつた情報を加味すればより有用な情報となる。これとは逆に、高校生の一、二年においてキャリアマトリックスを使用する場合、職業情報は詳細過ぎたり、検索のナビゲーションや診断システムはうまく適合しないことがあると考え

られる。この場合は、中高生向けの職業ハンドブックOHBY（CD・ROM）を使用し、職業理解や発達にに応じてキャリアマトリックスに移行するのが適切であろう。

（３）心理検査や診断システムと連携した利用

キャリアマトリックスには、いくつかのテストが搭載されているが、ウエブ上で使用すること前提に、より簡単にスピーディに実施と結果の提供ができるよう設計されている。本格的な心理テストからみるとやはり簡易版であり、より正確な結果を求める場合には、本格的なテスト（紙筆版職業興味検査VPI、職業レディネステストVRTなど）やキャリア・インサイトなどの利用を奨める。また、テストの結果についてはシステムが簡潔な解説や適職などの情報を提供しているが、できればカウンセラーなどの専門家の診断や所見をおおぐことを奨めたい。

(3) 「キャリアマトリックス新版公開」『ビジネスレーバートレンド』2008 年 12 月号

『ビジネスレーバートレンド』2008 年 12 月号において、前年にリリースした新キャリアマトリックスを解説。また、日本キャリア教育学会での「職業情報の新しい展開（新キャリアマトリックス）ー若者・在職者・企業のための生涯キャリア発達支援」（東北大学、2008 年 10 月 26 日）の様子を紹介した。

若者と企業向け機能を強化、職業情報に課業リストも

「キャリアマトリックス」

新版公開

—最大級の総合的職業情報データベース

1. 新キャリアマトリックスの意義

労働政策研究・研修機構は、二〇〇八年九月二九日、新たな機能や内容を搭載した新「キャリアマトリックス」をインターネット上で一般公開した。

グローバル経済化、技術革新の進展等、労働市場を取り巻く環境は大きく変化している。その中で、労働者は自らの意思に基づいた職業キャリアの形

成を、企業は生き残りをかけて求める人材の採用・確保を図っていかなければならない。新「キャリアマトリックス」は、この両者の活動を支援すべく内容の充実等を図ったものである。

新キャリアマトリックスの職業情報

新キャリアマトリックスは、収録する約五〇〇の職業について、統一項目（職務内容、就職経路、要件、適性、統計情報、関連情報）の下に整備した職業情報データベースと、個人（求職者、学生、若者）、支援者（カウンセラー、相談員）、企業が、各々の用途に応じてアクセスできるシステムを用意している。特に今回の新キャリアマトリックスでは、若者・学生、企業向けのシステムを搭載したことが特徴である。

また提供する職業情報については、従来から積み重ねてきた関係団体等からの収集に加えて、当該職業に就いている者を対象としたWeb職務調査を実施して課業（job）リストを作成するなど、正確さと精密さを期した。一つひとつの職業について、職務内容の最小単位である課業（job）までを提供しているのは、あまたの職業情報の中でも、新キャリアマトリックスのみである。

新キャリアマトリックスの職業情報の構成と利用活用システムの充実については図のとおりである（詳細は後述の「新キャリアマトリックスの研究開発—開発の経緯とコア機能」参照）。

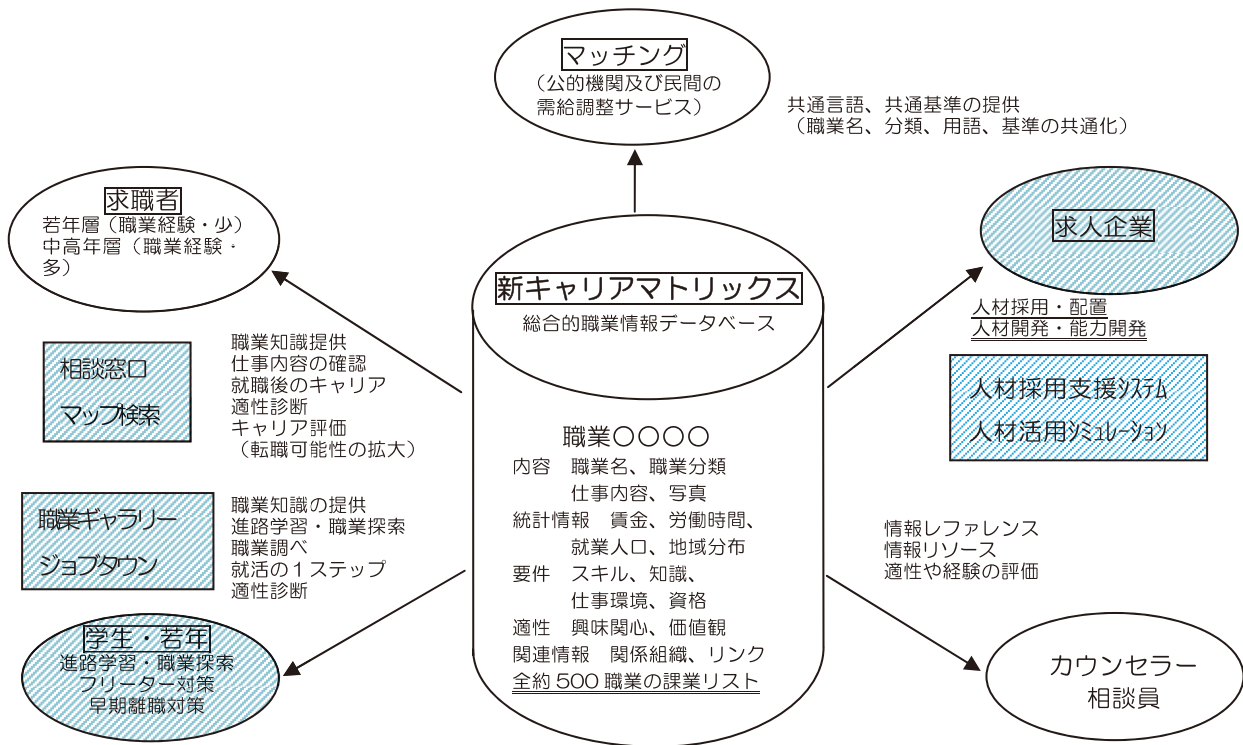
新キャリアマトリックスの役割

新キャリアマトリックスは、職業情報百科事典の機能に加え、企業向けのシステム、個人向けの自己理解ツール等を搭載した総合的職業情報データベースであり、個人、支援者、企業にとって、次のような役割を果たすこと



図 新キャリアマトリックスにおける職業情報の構成と利用活用

(注) 網掛けの部分とアンダーラインの部分为新たに提供を開始した情報内容と機能



を目指している。

(1) 個人のキャリア形成支援にとつて
新キャリアマトリックスで充実された職業情報は、各職業についての詳細な理解を支援する。またある職業から関連する職業への検索の拡大や自己理解ツールの活用等による職業発見は、柔軟で現実的な職業選択を行うことを支援する。さらに、入職経路や必要となる資格の情報は、その職業に就くための目標を明確化することを促す。

このように新キャリアマトリックスは、職業を選択し、実際に職業に就くための活動を行う際の羅針盤として大いに活用して頂きたいと考えている。

また進路指導を担当する教師、キャリア・コンサルタント等の方々には、効果的なキャリアガイダンスを行うための強力なツールとしてご活用頂くとともに、相談者自身が有効に活用することができるよう、相談場面において様々なご助言等をお願いしたいと考えている。

(2) 企業の人材確保等にとつて
新キャリアマトリックスでは、企業が求人を行う際の職務要件の明確化や企業内の人材の職種転換検討を行うことも支援している。例えば、一見かけ離れた職業同士であっても、新キャリアマトリックスで用意された職業プロフィール比較を行うことにより、多くの項目において必要とする能力に差がなかったり、類似・近似点が見出されたという現実がある。このような比較を行った後に必要な教育訓練が実施されれば、円滑な職種転換を行うことが可能となる。

(3) 共通言語の提供
さらに新キャリアマトリックスでは、個人、支援者、企業に対して同一の職業情報データベースを用いて統一的な用語、尺度で職業情報を提供することにより、職業情報の共通言語化を図っている。個人やその支援者が用いる用語の意味と企業が用いる用語の意味が違えば、労働市場は混乱する。新キャリアマトリックスが個人、支援者、企業に対して共通に提供した情報が労働市場で共有化され使用されることにより、同じ理解の下に、労働力の需給調整が円滑に進むことが期待される。

働く意欲のあるすべての人々が能力を発揮する全員参加の社会を実現するためには、変化し続ける労働市場の中で、個人にとっては長期的な職業キャリアの形成が、企業にとっては人材の活用が必須の条件であると考えられる。新キャリアマトリックスは、両者に対して共通の言語を用いて、分かりやすく利用しやすい形で職業情報等を提供し、両者の活動と相互作用を支援するものであり、労働市場におけるインフラストラクチャとして、関係各般からの期待も高い。

このような労働市場における有用な公共財としての機能を果たし続けていくために、新キャリアマトリックスは、常に前進していきたいと考えている。

(統括研究員・西村公子)

2. 新キャリアアマトリックスの研究開発

—開発の経緯とコア機能

キャリアアマトリックスとは労働政策研究・研修機構が二〇〇六年九月に一般公開を開始し、二〇〇八年九月、新版の提供を開始したインターネットによる職業情報、キャリア情報の提供システムである。公開以来、新聞、雑誌で取り上げられ、求人サイトにバナーが設置されたり、大学就職部、キャリアセンターのホームページ等に紹介が数多く行われ、非常に多くのアクセスとなっている。ここでは、このキャリアアマトリックスに関して、研究開発の経緯とコアとなる機能に関して紹介していくことにする。

この種のシステムとしては、米労働省が開発しているO*NET^①が有名である。本システム同様、職業を多面的に数値化し、データベースとして提供している。米労働省ではこのO*NET^①以外に職業を写真とともに分かりやすく解説したOccupational Outlook Handbook(OOH)^②や、求職者と求人企業向けの職業やキャリアに関するポータルサイトCareerInfoNet^③を提供しているが、キャリアアマトリックスはこれら三つを統合して提供しているサイトとも言える。

職業情報を提供するサイトは、英国、ドイツ、フランス等にもある。それぞれ政府や関連機関が開発、提供し、就職や転職、キャリア開発、能力開発、

等々に関する基盤となる情報となっている。各国のサイトはそれぞれに特色があるが、キャリアアマトリックスはこれら諸外国のものと比べても、最大級の情報を提供している。

1. 開発の経緯と方法

キャリアアマトリックスの研究開発は二〇〇〇年頃から始まっている。最初

は諸外国の参考となるシステムについて調査研究を行った。米労働省のO*NET^①とCareerInfoNet^③を始めとして、英国のWorkTram^④、ドイツのBERUFENet^⑤、フランスのROME^⑥、また北欧ではAVOやAMS等々、国やそれに準ずる機関が職業情報、キャリア情報の開発と提供を行っており、この状況を調査した。そして、二〇〇三年三月の厚生労働省「職業情報データベース検討会議」において、開発に関する基本的な方針、方向性が決定されている（日本労働研究機構、二〇〇三年）。これを受け二〇〇三年からシステム開発と情報収集を行い、二〇〇六年九月に一般公開を開始した。研究開発はその後も続いており、二〇〇八年九月に新「キャリアアマトリックス」を公開している。

システム開発は学識経験者、関係団体、大学高校教員、ハローワーク職員、

厚生労働省担当部局等をメンバーとする開発委員会において、開発方針や方向性を決定し、当機構研究員とシステム開発会社の技術者で構成される開発プロジェクトメンバーによって、開発の詳細な検討と試作、検証等を行い、順次開発を行ってきた。この開発プロジェクトメンバーによる会議はほぼ毎週行い、これまでに二〇〇〇回近くになっている。

開発したシステムは専門機関のユーザビリティテストによる評価も受けている。この評価はシステムを一般の利用者実際に使用してもらい、画面や操作性に問題が無いかを確認するとともに、ユーザビリティ専門家に評価いただくものである。ユーザビリティテストで問題点等があった場合は、検討しシステムを修正してきた。また、公開前には関係者、関係団体、ハローワーク等に事前に限定公開し、最終の確認を行うとともに意見等を聞いている。

キャリアアマトリックスのシステムに関しては以上のように開発を進めてきたが、キャリアアマトリックスの情報内容、コンテンツの収集と整理に関しては次の三つの方法で行ってきた。第一が所内の既存資料の活用である。当機構では一九八〇年代から「職業ハンドブック」として冊子やCD・ROMによる職業情報の提供を行っていたが、この冊子編集の基礎となる情報を蓄積、

整理してきた。キャリアアマトリックスにおいてもこのこれまでに蓄積した関連資料や情報を活用している。第二の方法が関連団体の訪問である。職業にはそれぞれ関連する協会等団体があるが、このような組織を訪問し、最近の状況を調査している。情報収集のために訪問した団体は約六〇〇カ所にのぼり、開発プロジェクトメンバーで手分けして行った。関係団体では仕事の場面の写真等の提供をいただいたり、場合によっては事業所等を紹介してもらい、その職場で職業の写真を撮影したりしている。また、関係団体には職業情報の解説文等の確認も行っていた。第三の方法がWeb調査である。これまでにWeb調査モニター三〇〇万人近くに現在の職業を聞き、今回のプロジェクトのなかで開発した「Web職務分析システム」により、職務や仕事の内容を詳細に調査している。Web調査では、職業毎に用意した課業(task)を実際に仕事の中で行っているかを聞き、また、用意したもの以外に課業がある場合はそれを自由記述により追加してもらっている。新キャリアアマトリックスは全約五〇〇職業の課業リストを提供しているが、この課業は案を作成し、それを実際の就業者を確認してもらい、必要な修正や追加を行うというサイクルを繰り返して作成したものである。スキル、知識、仕事環境は全体で九四カテゴリーになるが、これに関しても実際の仕事場面ではどうかを五段階で評定してもらっている。キャリアアマトリックスの全職業には職業を多面的に数値化した「職業プロフィール」があるが、この数値は

図1 新キャリアマトリックスのトップ画面

職業とキャリアに関する総合情報システム
CAREER MATRIX

サイトマップ | Q&A | お問い合わせ
提供: 独立行政法人 労働政策研究・研修機構

情報の力で、人と職業の最適な結びつきを支援します。

キャリアマトリックス(CMO)は職業情報とキャリアに関する総合的な情報サイトです。約600職種の仕事内容を写真とともに解説しています。しごとの百科事典としてご利用ください。
興味、ワークスタイル(価値観)、スキルから進路を探したり、これまでの経歴を分析し、それから進路を調べることもできます。

キャリアマトリックスが新しくなりました!
キャリアマトリックスが、新しくなりました。新しいツール、分かりやすいメニューなど、使い勝手が大きく向上しています。ぜひご利用ください。 [more](#)

トピックス

1. 08年夏のボーナス0.4%増
406.012円/毎月勤労統計(厚労省 11月4日)
2. 50万人分の公約雇用を創出(東京都10月31日)
3. 9月の有効求人倍率0.84倍、0.02ポイント低下(厚労省10月31日) [more](#)

アンケート

より良いサイトとするため、利用者アンケートを行っています。ご協力ください。

主な利用目的:
「選択してください」
年齢:
「選択してください」
性別:
☐ 男性 ☐ 女性

職業アクセスランキング

1. 一般事務員
2. 経理事務員
3. アクチュアリー
4. 保育士
5. NC技能工 [more](#)

お知らせ

1. キャリアマトリックスが新しくなりました。
[more](#)

■ ミラーサイトのお知らせ >>
■ 利用者の声 >>

※パンフレット、マニュアル、バナー等のダウンロードは、左側に移動しました。

利用者別メニュー

求職者、在職者の方はこちら
生徒、学生、若者の方はこちら
教育、キャリア相談担当の方はこちら
企業の人事担当の方はこちら

キャリアマトリックスガイドツアー
キャリアマトリックスを使ってできることを制作の流れに従って説明します。 >>>スタート

キャリアマトリックス・ツール

凡例: 求職 求職者、在職者向け 学生 生徒、学生、若者向け
専門 教育、キャリア相談担当者向け 企業 企業の人事担当者向け

職業理解

職業検索 求職 学生 専門 企業
職業名や職務内容から職業を検索し、職業についての詳細情報を表示します。

職業ギャラリー 求職 学生 専門 企業
キャリアマトリックスに収録されている職業の写真を一覧表示しています。写真を見て、気になる職業の情報をみましょう。

ジョブタウン 求職 学生 専門 企業
ジョブタウンのイラスト地図を見ながら、気になる場所で働く職業を探してみよう。

自己理解

適性探索ナビ 求職 学生 専門 企業
「興味」や「ワークスタイル」などから、あなたに向いた職業を探します。

キャリア分析ナビ(ベーシック版) 求職 学生 専門 企業
これまでの履歴からあなたの「スキル」などを推定し、それに見合った職業やあなたのアピールポイントを見ることができます。

キャリア分析ナビ(アドバンス版) 求職 学生 専門 企業
これまでの履歴を「スキル」などへ分解・分析し、気になる職業との適合度を比較できます。
使い方がやや複雑な部分があります。最初ベーシック版で慣れてから、ご利用下さい。

人材管理

人材採用支援システム 求職 学生 専門 企業
キャリアマトリックスの約600の職業情報を元で、職務要件(仕事内容、必要なスキルや知識、等々)を明確化します。

人材活用シミュレーション 求職 学生 専門 企業
社内の現状の人員と将来のあるべき姿を客観的に比較でき、人材の活用、教育訓練などの検討ができます。

マイリスト 求職 学生 専門 企業
上の様々なツールで職業をマイリストに記録し、それぞれの職業を見比べてみましょう。

©2003-2008 JILPT, All Rights Reserved -G001(0804+12)-

このようにして得られた実際の就業者の評定を集計分析したものである。Web職務調査ではこれ以外に、持っている免許や資格(選択と自由記述による追加)、年齢、性別、学歴、訓練歴、収入等の属性を調べている。

今回、伝統的な職務分析の方法ではなく、上記のようなWeb調査を使用した背景には、現実の問題として伝統的な職務分析の実施が困難であったという事情がある。従来の職務分析を多

くの職業に関して行うことは多大なコストを要する。職務分析者を養成し、その人が各職業の職場を訪問し調査を行うため、莫大な育成費・人件費・時間が必要となる。こうした制約から日本では第二次大戦後の一時期、大規模な職務分析が行われたが、その後は行われていない。米国においても各地の職務分析センターは閉鎖されている。このような事情から、従来の伝統的な職務分析の方法による職業に関する

データ収集は国内外を問わず実施不可能な状況にあった。こうした中、Web職務分析システムは情報を収集する手段として、大きな役割を担うものということが出来る。

また、このような形で職業毎の情報が収集できたということは、今後同種の情報を収集する際に様々な活用が可能である。Web調査は所要時間も短縮でき、各職場、各職業で起こっている状況を逐一情報収集することができ

る。大規模なデータ収集が短時間に低コストで実施できる意義は大きい。総計約三〇〇万人近くのWebモニターを使った職業情報の収集は、他の諸外国でも行われておらず、新たな職業収集の手法を開発した点も本研究開発の意義の一つと考えている。

2. 新キャリアマトリックスの内容 — トップ画面と職業情報画面

図1にキャリアマトリックスのトップ画面を示した。中央に利用者別メニューがある。新キャリアマトリックスでは若年向けの機能や企業の人事担当者向けの機能を充実させ、「求職者、在職者」、「生徒、学生、若者」、「教育、キャリア相談担当」、「企業の人事担当」向けにそれぞれメニューを用意している。これにより、より的確な情報提供ができるようにしている。

利用者別メニューの下にはキャリアマトリックスのツールが並んでいるが、ツールは職業理解、自己理解、人材管理にまとめられる。「職業理解」には職業検

図2 キャリアマトリックスの職業情報画面例

現実的(R) ★★★★★
機械、道具を使ったり、モノ(動植物を含む)を対象とした具体的で実証的な仕事や活動が好きなこと。

企業的(E) ★★★★★
企画、立案したり、組織の運営や経営等の仕事や活動が好きなこと。

2.ワークスタイルについて
この職業に特徴的な「ワークスタイル」は、以下のものがあります。

成長 ★★★★★
他の職業に比べて、新しいことが多く、仕事を通じて成長できる仕事であること。

達成感 ★★★★★
他の職業に比べて、努力した結果が達成感につながる仕事であること。

自律性 ★★★★★
他の職業に比べて、自ら意思決定し、自主的に業務を進行できる仕事であること。

3.職業スキル(研修や経験を通して時間をかけて育まれる能力)について
この職業を遂行する上で重要と思われる「職業スキル」は、以下のものがあります。

要件分析 ★★★★★
ニーズを分析し、製品の仕様を決めること。

読む ★★★★★
仕事に必要な文書を理解すること。

プログラミング ★★★★★
コンピュータープログラムを作成すること。

4.知識について
この職業を遂行する上で重要と思われる「知識」は、以下のものがあります。

コンピュータとエレクトロニクス ★★★★★
回路基板、プロセッサ、チップ、電子機器、アプリケーションとプログラミングを含む、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについての知識。

事務処理 ★★★★★
ワードプロセッシング、ファイルや記録の管理、連絡と書き起こし、書式の設計、その他の事務手続きといった管理事務手続きやシステム、および専門用語についての知識。

設計 ★★★★★
精密な技術計画、設計図、諸図面、モデルの作成に関連するデザインの手法、ツール、原理についての知識。

5.仕事環境(作業環境、人とかかわり方、仕事の影響度、等)について
この職業に特徴的な「仕事環境」は、以下のものがあります。

屋内作業 ★★★★★
事務所において、屋内で働くこと。

座り作業 ★★★★★
事務において、座り作業の時間。

厳密さ、正確さ ★★★★★
きわめて厳密、正確に職務を遂行することの重要性。

参考情報 ▲▼トピック

この職業について参考情報を見る

■類似職業
システムエンジニア(アプリケーションスペシャリスト)(A001)
プログラマー(A062)

■関連資格
情報処理技術者
情報処理技術者

より詳しい職業情報を収集する
必要な資格を調べる、学校や求人を探す、仕事の内容をより詳しく知る、などなど

1.関連団体のウェブサイト - 関連団体のウェブサイトと色々と調べることができます。
会社法人 情報サービス産業協会 <http://www.isaac.jp/>

2.私のしごと館 Job Job World
私のしごと館 Job Job World は、様々な職業を3つのコーナー(なごかな、なるほど、なごい)で、動画映像と共に紹介しています。
・「なごかな」では、しごとの概要を紹介する映像がご覧いただけます。
・「なるほど」では、実際に働いている人の体験談が聞けます。
・「なごい」では、しごとを就くための方法が紹介されています。

詳しくは、私のしごと館 Job Job World のホームページ
http://www.shigotokan.ehdo.go.jp/jw/100.html/をご覧ください。

システムエンジニア
なごかな なるほど なごい

3.求人を探す(ハローワーク・インターネットサービス)
ここでは全国のハローワークで受理した実際の求人情報を検索することができます。また、そのほかの様々なサービスも紹介しています。

トップ このページを印刷 閉じる

ご意見、ご要望はこちら >>>意見ボード

©2003-2008 JILPT. All Rights Reserved -GOSIA(0804+4)-

職業とキャリアに関する総合情報システム
CAREER MATRIX

労働政策研究・研修機構 閉じる

トピック | メールで通知 | マイリストに追加 | マイリストを開く

▲専門的・技術的職業
L 06 情報処理技術者
L 061 システムエンジニア

システムエンジニア(ソフトウェア開発)

どんな職業か

コンピュータのソフトウェアは、一般利用者向けの「アプリケーションソフトウェア」、それらを効率的に動作させる「ミドルウェア」、そのミドルウェアを動作させる「オペレーティングシステム」(OS)の3層に分けられるが、そのうちミドルウェアやオペレーティングシステムの開発を行う。

それらは、銀行の会計システムや航空機の予約システムなど様々なシステムが安定して稼働し、効率よく業務を行うために必要である。

法人顧客の要望・ニーズを聴取り、イメージを具体化していく。通信・関係ソフトウェアと関係分野のシステムエンジニアと打ち合わせ、ソフトウェアの仕様を固めて、開発の準備や計画を行う。他社の製品と比較したり、販売額を予測して、開発可能かを判断する。開発が決定されると、効率的に開発する方法を検討し、ソフトウェアを作成する。テスト作業を行い、出荷してよいのかを判定する。開発終了後は問題を分析し、次の開発に役立てる。

開発したソフトウェアを世の中へ広く普及させるために、利用者のニーズを反映したソフトを作成して、顧客の求めに応じたシステムを作成することが重要である。

この職業の用語集 >>>仕事の内容(職業リスト)

就くには

一般的な学歴は、大学の情報系、理系卒業であり、専門的な情報処理教育を受けた人が多い。

入職に際して、情報処理技術者の資格を持っていると有利である。その他に、コンピュータやプログラミングに関する基礎があることが望ましい。

経験が長い人や上級開発者の設計にたがって、プログラムの開発・検査作業を行う。その後、ソフトウェアの設計を行うようになり、最終的にはソフトウェアの企画を行う。

コンピュータは進化が激しく、新しい技術や価値できる基礎的な知識や能力、習得するための積極性・柔軟性および新技術を製品化する企画力が求められる。分野によってはアイデアの創造性が求められる場合もあるが、基礎的なコンピュータの知識が必要であり、情報処理教育を受けた人が望ましいといえる。グループで作業することが多いため、人間関係の維持や自分の主張を的確に表現できるコミュニケーション能力も必要である。

高校

大学、大学院(理工系、文系)

専門学校(情報処理系)

コンピュータメーカー、ソフトウェア会社(ソフトウェア・ベンダー)

プログラマー

システムエンジニア(ソフトウェア開発)

上級職へ 研修・訓練・資格取得

システムアナリスト、プロジェクトマネージャなど

関連資格
情報処理技術者

労働条件の特徴

コンピュータメーカーの中でオペレーティングシステムを開発する部署や、ソフトウェア販売会社でプログラマーを募集する部署で働く。コンピュータメーカーは都市部に多いが、最近はネットワークの整備などから事業所を地方に設けることも多い。打ち合わせのために客先に出向くこともあるが、通常は自分の会社内で働くことが多い。

働く時間、休日、休暇などに特徴はないが、フレックス制の適用など時間差への対応は少なくなる傾向にある。顧客のコンピュータシステムトラブルが発生した場合は、調査や修理のために休日や深夜に作業することもある。また、ソフトウェアの納期が厳しくなることもある。

20歳代後半から30歳代が中心で、男性の方が多い傾向がある。開発リーダーを中心に数人から数十人のチームで行うことが多く、一人一人がネットワークでつながれたコンピュータを使用して作業を行う。

労働需要は安定している。

職業プロフィール

職業プロフィールとは、その職業に関する様々な特性を数値化したものです。ここでは「興味」「ワークスタイル」等の各カテゴリごとに、数値が高くなる項目を表示しています。

統計情報の概要

就業者数(計)=774787人
国際調査・情報処理技術者 >より

労働時間(平均)=183時間/月
賃金(平均)=557.73万円/年
年齢(平均)=39.9歳
賃金センサス<システム・エンジニア>より

1.興味について
この職業に特徴的な「興味」は、以下のものがあります。

研究的(R) ★★★★★
研究や調査のような研究的、探索的な仕事や活動が好きなこと。

現実的(R) ★★★★★
機械、道具を使ったり、モノ(動植物を含む)を対象とした具体的で実証的な仕事や活動が好きなこと。

索と職業キャリアリ、ジョブタウンがある。職業検索はフリーワード検索、職業分野、テーマ、職業名等から職業を検索するものである。職業キャリア

リーは今回新たに提供を始めたものであるが、キャリアマトリックスに収録されている職業の写真を一覧表示し、それを見て、関心のある職業を調べる

というものである。ジョブタウンは仮想的な街並みのような画面からそこで働く職業を探すものである。職業キャリアとジョブタウンは新キャリアマト

リックスで提供を開始したものであるが、いずれも学生や若者が身近なところから気楽に興味を持って、職業情報に接することができるよう開発したものである。

「自己理解」の適職探索ナビは興味、ワークスタイル(価値観)、スキルなどから、自分に向けた職業を探索するものであり、これは以前から提供していた機能である。自分の興味やワークスタイルから職業を検索できるが、この根拠は「調査で収集した現職者のデータである。キャリア分析ナビには操作の容易なベシック版と様々な設定が行えるアドバンス版がある。いずれもこれまでの職歴から身に付いているスキルや知識を推定し、それに合った職業やアビリティポイント(自分の強み)を知ることができる。キャリア分析ナビも以前から提供していた機能であるが、操作

面等、かなり改良を加え、よりスムーズに的確に操作できるようにしている。ここで過去の職業からスキルや知識を推定できるのも、Web調査による実際の就業者のデータがあるからである。

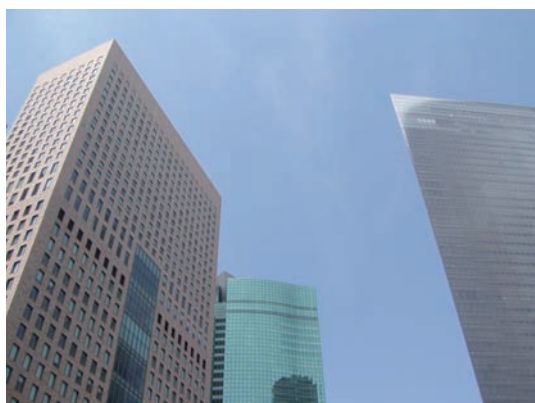
「人材管理」の二つのシステムは今回新たに開発し、提供を開始したものである。「人材採用支援システム・職務要件の作成」では、キャリアマトリックスの約五〇〇の職業情報を元に、職務要件（仕事内容、必要なスキルや知識、等々）を明確化することができ、人材活用シミュレーション・職種転換の検討」では社内や地域の人材の状況と、今後必要となる人材を客観的に比較し、人材の活用、人材の開発等が検討できる。この「人材採用支援システム・職務要件の作成」と「人材活用シミュレーション・職種転換の検討」の背景データとしても、Web調査の結果を利用している。

これら中央の主要機能以外にトップ画面左側では、今週の職業、今週のテーマを週替わりで表示している。その下にはシステム全体のメニューを一覧できるようにしている。左側のメニューの中に相談窓口マップ検索がある。これは最寄りのハローワークや関連機関を検索し、地図上で示すものである。キャリアマトリックスはインターネット上のシステムであるが、サイトからの情報だけに頼ることなく、関係者や専門家に会って相談したり、実際の職場を訪問する等、ネット以外の情報も積極的に活用することが望ましいと考えたためである。

画面右側では、求人求職、キャリアガイダンス等の分野における最近のト

ピックスを週替わりで表示し、その下には利用者アンケートのコーナーがある。これはいつも表示されるものではないが、利用目的等様々なことを聞き、今後のシステム開発に生かしていきたいと考えている。そしてその下に過去一週間によく見られた職業をランキング表示している。

図2に職業情報の画面例を示した。システムから提供している約五〇〇職業の職業情報は、職業情報の概要を写真とともに示した「どんな職業か」、その職業に就く経路を示した「就くには」、就業者数や労働時間、平均賃金等を表示する「労働条件の特徴」、職業の特徴を数値化した「職業プロフィール」、類似職業や関連団体のサイトの紹介、そして、職業の映像情報を提供するジョブジョブワールドへのリンク等を提供する「参考情報」から構成されている。「どんな職業か」に



において今回新たに全約五〇〇職業の課業（task）リストを提供している。

3. 新キャリアマトリックスのコア機能

キャリアマトリックスから提供する具体的な内容は以上の通りであるが、このキャリアマトリックスの基盤となる機能、コアとなる機能は次のようにまとめることができる。

第一に、標準となる職業情報／キャリア情報の提供があげられる。これまでの蓄積の上に関係団体約六〇〇カ所を訪問し、また三〇〇万人近くのWeb調査モニターを使い、実際の就業者からデータを収集してきた本システムは、求人求職、キャリアガイダンス、能力開発、人材管理等関係分野に、基準となるしつかりとした情報を提供できるものと考えている。職業情報の提供では欧米に立ち遅れてきた我が国であるが、ようやく本システムにより、充実した情報内容と信頼性において世界をリードしてきた米国労働省の諸システムに匹敵するものとなってきた。

第二に、標準となる関係ツールの提供がある。求職者個人向けの自己診断やキャリア分析、また求人企業向けの人材採用や人材活用を提供するツールを提供しているが、実際の就業者からの情報をもとに、根拠のあるツールを提供している点においても、キャリアマトリックスのツールは標準となるツール、基準となるツールであると考

えている。

がある。共通言語、共通基準とは、共通の職業名と共通の番号（これは職業分類といえる）、スキル、知識、仕事環境等、関連する用語の共通化、また、スキル、知識、仕事環境等の基準の共通化、例えば〇〇のスキルがこの程度等がある。共通の用語の部分は将来的には「標準スキル分類」、「標準知識分類」、「標準仕事環境分類」等々として、制定され広く利用されることを想定している。この共通言語や共通基準はやや抽象的な感じを受けるかもしれないが、かつての「厚生労働省編一般職業適性検査（GATB）」の適性（G、V、N、Q、S、P、K、F、M）は適性面から共通言語、共通基準を提供していたものと言える。また、ホランドの職業興味の分類におけるR、I、A、S、E、Cは米国に始まったものであるが、ヨーロッパや日本を含むアジア諸国でも利用されるようになっており、国際的な職業興味の標準分類となっている。そして、キャリアマトリックス研究開発プロジェクトのスタートの際、参考とした米国労働省O*NETにおいて、システムの目的をcommon language（共通言語）の提供としており、同じ趣旨で開発が行われている。

新キャリアマトリックスでは、共通言語、共通基準として、スキル三五カテゴリー、知識三三カテゴリー、興味六カテゴリー、ワークスタイル六カテゴリー、仕事環境一四カテゴリー、計九四カテゴリーに関してそれぞれカテゴリーを定義し、そのカテゴリー毎の基準となる数値がデータベース化されている。約五〇〇の職業に対して（行）、それぞれ約一

〇〇個の数値(列)、合計で五万近い数値が行列として用意されていることになる。「キャリアマトリックス」という名称はマトリックスに「基盤」としての意味があるため、就職、転職、キャリア開発、能力開発等の基盤としての情報システムであり、また、中に収録されている数値情報が「行列」すなわちマトリックスとなっていることに由来している。

第四に、システムの情報収集機能も基盤機能、コア機能の一つとしてあげることができる。先にも触れたように研究開発の過程でWeb職務分析システムを開発し、三〇〇万人近いWeb調査モニターを使って実際の就業者からの情報を収集している。このような大規模な情報収集を行っている例は諸外国を含め他にはない。このような情報収集があることによって、各ツールでは客観的な根拠のある結果を提示することができ、この情報をもとに職業を検索したり、職業プロフィールとして職業を多面的に数値化し表示することが可能となっている。

また、キャリアマトリックスは一般公開以降、膨大なアクセスがあることから、このアクセスを集計、解析することによっても様々なことがわかる。トップページに表示している「職業アクセスランキング」は過去一週間にどのような職業が閲覧されたかを集計しているものであるが、現在、どのような職業に関心が持たれているかをリアルタイムに把握することができる。また、九月から一般公開を開始した新キャリアマトリックスでは企業の人材採用、人材活用、人材開発を支援する

機能を提供しているが、この利用を集計し分析することにより、産業界がどのような人材に関心を持ち、どのような人材を必要としているか、人材をどのようにしたいと考えているか等々、全般的な傾向とその動向を知ることができる。

4. 今後の研究開発

新キャリアマトリックスの役割は情報提供である。情報提供を通じて社会、個人双方がより適切に動き、それによって人材の最適配置、人材の活用、的確な就職やキャリア形成を支援しようとするものである。この役割を果たすためには利用を広げる必要がある。また先に述べた共通言語が普及し定着するためには新キャリアマトリックスがより広く知られ、より広く利用されることが必要である。今後は周知、普及等が重要と考えている。

また、提供する情報は最新かつ正確なものでなくてはならない。このためにも情報コンテンツの更新・充実が重要である。システムから提供している各種のツールも、充実、強化し、より良いものとなるよう検討していくことも必要である。

キャリアマトリックスは以下のサイトから、二四時間三六五日無料で利用することができる。この二つのサイトは相互にミラーサイトとして同じ内容を提供しているが、これはアクセス集中時の負荷分散とともに、万が一、片方のシステムが止まった場合も他方から通常通り情報提供が継続できるよう

にしているものである。

数年前にヒットしたSF映画『マトリックス』三部作の三作目、完結編は『マトリックス・レボリューションズ』というタイトルであった。キャリアマトリックスも情報の収集方法、情報の提供方法、今後の研究面での様々な展開の可能性等を考えると革新的な大変革をもたらし、今後もそれが続いていくと言える。二〇〇八年の新版公開がrebatedであったとしたら、今後のキャリアマトリックスはrevolutionsでありたいと考えている。

3.

キャリアマトリックス・シンポジウム in 仙台

—日本キャリア教育学会で開催—

一〇月二五、二六の両日、宮城県仙台市の東北大学で開かれた日本キャリア教育学会で、「職業情報の新しい展開(新キャリアマトリックス)——若者・在職者・企業のための生涯キャリア発達支援」と題する企画シンポジウム(司会 吉田修・特任教授)が学芸二日目に開かれた。

シンポジウムでは当機構が今秋公開したキャリアマトリックス改訂版の構造や機能を紹介するとともに、学校から職場までの実践場面での活用の助けとなるための情報提供と、参加者との討議を目的に開かれたもの。シンポジウムの冒頭、松本真作・副統括研究員が新しくなったキャリアマトリックス

<http://cmx.vrsys.net>
<http://cmx.hrsys.net>

(副統括研究員 松本真作)

【引用文献】

調査研究報告書No.一五一「人材の最適配置のための新たな職業の基盤情報システムに関する研究——企業・個人ニーズ調査、諸外国のシステム、翻訳実験版の開発、他」 日本労働研究機構二〇〇三年一月

のシステムについて、また石井徹・ARが主にコンテンツについてそれぞれ紹介した。

その後、〇六年の公開時から、キャリアマトリックスを活用している三人の出席者から、現在の活用方法を報告いただき、新キャリアマトリックスに対する期待などを語っていただいた。

求められる人材像を再分析できる

企業における人材活用や組織活性化のコンサルティングに長く携わってきた(株)アスピレックス町田秀樹代表取締役は、日本企業の経営における重

要課題として、人材育成のウエートが高まっていると強調した。

企業はこれまでの売り上げ重視から収益重視にスタンスを移すなか、新規事業、新製品、新規サービスの開発に力点を置いていると指摘。そのため、「優秀な人材をいかに確保するかが最大の課題となってきた」と語る。

これは日本企業に限ったことではなく、韓国、台湾、中国の成長企業も異口同音に優秀な人材の確保が、企業が成長するか否かのカギになっているという。ただ、その人材に求められる能力に



ついては、固定観念にとらわれていてはいけなと主張。「従来の自動車販売会社（ディーラー）の営業マンという、訪問販売で、一日に何件回ったかというノルマが重視されたが、今ディーラーに求められ、一番効率上がるのは、顧客満足度を上げること。どういった人がハイ・パフォーマンスかというと、顧客に対して聞き上手で、フットワークがよく、明るく、真摯な姿勢といった『おもてなしの心』が重視されてきており、従来の人材像とは異なる。こうしたスキルは整備士にも求められるものだ。顧客満足度を重視する整備士が営業にあたってもいいことになる」と述べ、実際に職種転換するケースも出てきているという。

このように、営業マンをステレオタイプ化せず、仕事の実際の中身について、課業（タスク）や能力まで分解していくと、異なる人材像が浮かび上がる。新キャリアマトリックスでは、仕事を課業や能力にまで分けて表示する機能が付加された。これを生かせば、実際に求められている課業や能力を分析し、仕事の効率化に結びつけるツールとして活用できる可能性があると述べた。

「当たる」診断テストで動機づけ

全校生徒七二〇人にキャリアマトリックスを使った進路指導を行っている東京都立晴海総合高等学校キャリアカウンセラーの千葉吉裕氏。適職探索ナビを使った、本人の診断テストは「よく当たる」という。診断テストは進路

指導だけでなく、科目を選択させる際にも活用している。「教師の教育的な演技は見抜かれてしまうが、当ててあげれば、生徒との間にすぐ信頼関係ができる」と、その効用を語る。

「入口で引きつけ、自分のことがわかる」と、職業に対して非常に興味を持ち始め、自分に合った職業を探し始める。その後、家庭でこのサイトのことを話し、家族にもテストしてもらったこともあるようだ。このような形になっていけば、このサイトは定着し、広がりが生まれてくる」（千葉氏）。全国高等学校進路指導協議会の事務局長も務める同氏は、キャリアマトリックスを進路指導の先生に積極的に薦めている。「本当にいいサイトを紹介してもらった」と感謝されることが多いという。

職業情報のスタンダードに

大学生や若者をはじめ、様々な人へのカウンセリング、適性相談などを行う「こころとキャリアのカウンセリングオフィス結」の山本公子代表は、若者の仕事に関する情報には「かなり偏りがある」とみている。ほとんどの若者は民間の就職情報サイトを利用してはいるが、こうした情報の大半は企業が発信元。たとえばある若者がマーケティングリサーチチャーターになりたいと思つて、民間の就職情報をみても、全体像は見えにくい。その点、キャリアマトリックスでは、その職業情報だけでなく、自己理解の支援、意思決定・行動の支援、さらに関係団体の情報もあり、「全体像が見えてくる」（山本代

表）。

実際、マーケティングリサーチチャーターの新卒求人は少ない。しかし「まず具体的に踏み出すための、情報のスタンダードが必要で、キャリアマトリックスは、そのスタンダードといえる」と語る。

新しいキャリアマトリックスについては「敷居が低くなったのに、奥行きが深くなったところが大変いい」という。若者は文字情報より、画像・映像情報を通じて、直感的に判断する傾向が強い。そのため、ジョブタウンや職業ギャラリーなどが追加されたことで、若者がサイトを活用する、いい導入部になるだろうと期待する。「自分で探してみても、自分で見つけることが大切。専門家のニーズにこたえつつ、働く人に幅広く展開していただくとありがたい」と要望した。

今後への期待

会場からは、新キャリアマトリックスについて、活用のあり方や今後の計画などについて、質問が出された。障害のある人たちにに対する職業支援の観点から、情報提供はできないだろうかとの質問もあり、「インターフェースについて、弱視の方に対するフィードバックテストなどはやっているが、こういうニーズがあるかの把握はこれから。ただし、課業（タスク）と障害は関連性が高いので、通常カウンセラーが行っている障害者の職域拡大にとつてベシッ的な情報になるのではない」（吉田修・特任教授）と答えた。

資料 10 サイト画面より「利用者の声」



職業とキャリアに関する総合情報システム

CAREER MATRIX

[サイトマップ](#) | [Q&A](#) | [お問い合わせ](#)
 提供:独立行政法人 労働政策研究・研修機構

[キャリアマトリックス トップへ](#)

[トップページ](#) > [利用者の声](#)

利用者の声

皆様からご利用、ご活用事例や、様々なご意見、ご感想などをいただいています。

山本 公子様(こころとキャリアのカウンセリングオフィス結(ゆう)代表)



情報コラエティがあり、意欲の低い学生にも、ジョブタウンなど、遊び心があってお勧めです。自己分析から適した分野探し、仕事研究まで、データに裏打ちされた豊富な情報があり、熱心な学生たちは、インターンシップやエントリーシート、面接対策などこう多く利用しているようです。今後、動画も含めてグラフィック情報、職種の拡大、活用事例紹介などを期待しています。

剣持 勝様(産業カウンセラー・大学非常勤講師)



「職業理解」と「自己理解」のために
公開当初から使わせていただいています。現在は主に就職活動に取組む学生に対して勧めています。特に「仕事の幅を狭く捉えている」「やりたい仕事が見えない」等の学生には職業理解と自己理解のためにアクセスしてもらいます。また現在の仕事に行き詰まりを感じている若者にも活用してもらおうと良いですね。カウンセリングの場ではアセスメントの結果も含めて話し合い付きを深めてもらえるように努めています。

大根田 充男様(宇都宮大学名誉教授)



キャリアマトリックス新版にあたって
キャリアマトリックスが、この度2年前の公開初期の段階から一歩進んで新しくなった。対象者は、学校教育分野での生徒や学生等の在学生から、求職者、在職者、キャリアカウンセラー、企業の人事担当者まで広がった。これで職業やキャリア問題に関係するすべての人々にとって身近な道具(tool)が用意されたことになる。画期的なことである。ただし、どれほどすぐれた道具でも、人の使い方によってその良さ、限界もみえてくる。キャリアマトリックス新版をきっかけに次の段階に向けた、さらなる研究と実践、その輪の広がりを期待したい。

本間 啓二様(日本体育大学教授)



キャリア支援の総合サイトとして活用する
新版のキャリアマトリックスは、新たに企業向けとして人材採用や人材活用の内容を加え、小学生から中高年まで幅広く活用できるように改善し、生涯を通したキャリア発達やキャリア課題の解決だけでなく、企業の採用・人事管理にも役立てることができるようになった。キャリア教育の教材、適性診断や進路相談のツール、企業の人事管理など幅広い活用が期待できる。

降幡 勇一様(ヤングワークプラザふぶや・統括職業指導官)



ヤングワークプラザふぶや(旧ヤングハローワーク)は新キャリアマトリックスを活用して更に若者を支援していきます！！
平成19年9月のキャリアマトリックス公開一周年に「ヤングハローワーク」は、フリーターが長期化している34歳未満の若者など、特に専門的な支援を必要とする方に対して、今まで以上に決め細かな支援を実施していくため、サービス内容を見直し、職業適性診断、職業力カウンセリング及び各種就職支援セミナーなどを重点的に行う「ヤングワークプラザふぶや」としてリニューアルOPENしました。
その際、「職業適性診断コーナー」の端末にキャリアマトリックスの利用メニューを追加するとともに、ホームページのトップにキャリアマトリックスのバナー広告を貼り、具体的にやりたい仕事が決まっていないう若者に活用を勧めました。また、昨年10月より事業開始したジョブ・クラブ(就職塾)でもキャリアマトリックスを取り入れたセミナーを設けるなど若年者支援に大いに活用しています。これからも「ヤングワークプラザふぶや」は、新キャリアマトリックスを活用し若年者の非正規雇用から正規雇用への支援を行っていきます。

千葉 吉裕様(全国高等学校進路指導協議会事務局長、都立晴海総合高校教諭・キャリアカウンセラー)



キャリアマトリックスが一般公開されて、瞬く間に全国に普及しました。進路指導の担当教諭が集まる機会に、認知されているか伺うと、よく知られていることがわかります。多くの高等学校、多くの高校生が、進路情報を探索したり、自己を理解したりするために全国で活用されています。私自身も、高等学校における生徒のキャリアカウンセリングの際、必須アイテムです。今後も、コンテンツの益々の充実、アクセス環境の整備、情報の更新を引き続きお願いし、これからも高校現場の進路指導の充実に寄与していただきたいと期待しております。

小堂 敏郎様(有限会社スタンド・アンド・ファイト代表)



以前、良く知られた人事担当者向けサイトの運営に携わり、コンテンツ制作などをしていました。そのときの経験から見て、このサイトは人事労務管理関係のサイトとして、これまでないユニークな機能を提供していると思います。背景となる裏づけもきちんとし、公的機関が提供するものとして中立性や信頼感もありますね。きっと、人事労務の関係者には広く利用されるでしょう。わたしもサイト公開を待ち遠しく思っていました。

児島 恵一郎様(株式会社ESTA代表取締役社長)



当社は企業が求人掲載するサイトを開発し、運営しています。求人の情報として賃金や勤務時間、場所等の情報はありますが、最近、特に、求職者も求人企業も、仕事の内容やスキル、知識に関する情報の掲載を求めています。このサイトはこれまでなかったこのような情報を提供しており、果たす役割は大きいと思います。当社のサイトでも利用していきたいと思えます(写真はESTA社が入居しているビル)。

資料 11 キャリアマトリックスにリンクを貼っている学校、組織等

Yahoo! のサイトエクスプローラーによると、キャリアマトリックスには全体で約 7 万 5 千のリンクが貼られている(2010.4)。そのうち Yahoo!より提供される 1,000 サイトに関して、ダブリや不明を除き整理した結果は 234 サイトとなり、その一覧を示した。また、この 234 のサイトの内訳は下記の通りであった。

分類	学校・組織等	件数
1	小学校	3
2	中学校	6
3	高校	7
5	大学	63
6	専門学校等	4
7	国等公的機関	15
8	地方公的機関	72
10	民間会社	64

234

番号	分類	機関名	サイト名等
1	1	大田区立梅田小学校	6年生の学習リンク
2	1	日立市立大みか小学校	学習用リンク
3	1	姫路市立余部小学校	姫路市立余部小学校 ホームページへようこそ
4	2	柏崎市立第三中学校	柏三中/進路学習情報米
5	2	甲南高等学校・中学校	図書館
6	2	埼玉県川口市立南中学校	お役立ちリンク集
7	2	札幌市立北野中学校	進路指導関係
8	2	長岡市立西中学校	リンク集 →職業とキャリアに関する総合情報システム
9	2	宮城県白石市立白石中学校	ようこそ!宮城県白石市立白石中学校のページへ
10	3	東海大学山形高等学校	東海大学山形高等学校
11	3	長岡工業高等専門学校電子制御工学科	長岡高専・電子制御工学科・リンク集
12	3	宮城県石巻高等学校	進路リンク集
13	3	宮城県立延岡青朋高等学校	青朋キャリアガイダンス
14	3	埼玉県高等学校進路指導研究会	埼玉県高等学校進路指導研究会
15	3	松戸市立松戸高等学校	松戸市立松戸高等学校 公式Web 進路
16	3	長野県松代高等学校	教科別リンク集
17	5	学習院大学 経済学部	適職をさがしてみよう!学習院大学経済学部キャリア・デザイン支援プロジェクト
18	5	金沢大学	就職関係リンク
19	5	関西学院大学	関西学院大学卒業生就職支援サイト K.G. ジョブサポート
20	5	北九州市立大学	就職情報一覧
21	5	北里大学	進路・就職 / 北里大学 進路・就職>就職情報サイト

22	5	岐阜聖徳学園大学	就職情報:就職ナビ[岐阜聖徳学園大学]
23	5	高知工科大学	高知工科大学・就職支援部
24	5	神戸大学	国文生と就職 - 国際文化科学研究科・国際文化学部キャリアデザインセンター(CDC)
25	5	産業能率大学	就職関連リンク集(就職情報:対象別) キャリア支援センター
26	5	四国大学	四国大学就職課>就活関係リンク集
27	5	静岡理工科大学	就職関連リンク / 進路・就職支援:静岡理工科大学
28	5	淑徳大学	就職に役立つリンク
29	5	鈴鹿医療科学大学	鈴鹿医療科学大学:リンク:就職関連
30	5	千里金蘭大学/千里金蘭大学短期大学部	就職スケジュール 就職
31	5	玉川大学	玉川大学キャリアセンター トップページ 左下バナー
32	5	中部学院大学・中部学院大学短期大学部	求人情報リンク集 中部学院大学・中部学院大学短期大学部
33	5	筑波大学 トップアスリート・セカンドキャリア支援室	セカンドキャリアWeb 自分を知る
34	5	東京大学 就職キャリアセンター	自己分析について : 就職活動準備 : 進路お役立ち情報 :
35	5	長岡大学	就職
36	5	新潟県立大学	生活環境化学の部屋(県短版)
37	5	新潟国際情報大学	就職関連サイト
38	5	福井工業大学	就職・資格取得支援 充実したサポート体制
39	5	福岡大学	福岡大学 就職・進路支援センター
40	5	武庫川女子大学	武庫川女子大学 キャリアセンター -就職に役立つサイト集-
41	5	武蔵大学	リンク集
42	5	横浜市立大学	e-ラーニング 業界研究でお悩みの方へ
43	5	琉球大学	学生のみなさんへ
44	5	琉球大学	関係者専用ページ:参加学生の皆様 アジア人財資金構想 高度実践留学生 ...
45	5	早稲田大学	キャリア・就職を考えるためのお役立ちサイト
46	5	関西学院大学	関西学院大学卒業生就職支援サイト K.G. ジョブサポート
47	5	岐阜聖徳学園大学	就職ナビ
48	5	京都精華大学	京都精華大学 : 在学生の方へ::就職情報(全般)リンク集
49	5	玉川大学	玉川大学キャリアセンター ニュース・イベント
50	5	九州大学	九州大学_Kyushu University_
51	5	広島工業大学	キャリア支援情報 女子学生キャリアデザインセンター
52	5	広島大学	広島大学 キャリアセンター
53	5	弘前大学学生	弘前大学学生就職支援センター
54	5	桜美林大学	桜美林大学
55	5	三重大学教育学部	LINK list by MINAMI
56	5	山形県立米沢女子短期大学廣田研究室	Verba volant, scripta manent.: [学術]山形県・東北
57	5	山形大学	就職情報 山形大学
58	5	山梨学院	山梨学院就職キャリアセンター
59	5	鹿児島大学	鹿児島大学就職支援センター/役立つリンク集
60	5	首都大学東京学生サポートセンター就職課	学生サポートセンター就職課 > お役立ちリンク
61	5	駿河台大学	就職に役立つリンク集 キャリア支援センター 駿河台大学
62	5	昭和女子大学	昭和女子大学 > 在学生の方 > 進路・就職サポート > 情報スポット
63	5	松山大学生協PC総合サポート	おすすめリンク
64	5	静岡大学	静岡大学就職情報資料室

65	5	石巻専修大学	オススメ!リンク集 進路支援係
66	5	千葉経済大学	就職情報 就職関連リンク集 千葉経済大学
67	5	洗足学園音楽大学	就職関係リンク集 -洗足学園音楽大学
68	5	大正大学	大正大学/就職お役立ちリンク集
69	5	長崎外国語大学	就職活動関連リンク集 長崎外国語大学 [進路・就職]
70	5	東京工業大学	学生支援センター キャリア支援部門 キャリアなんでも情報
71	5	東京情報大学	就職関連リンク集 情報システム学科・環境情報学科・情報 ...
72	5	東北芸術工科大学	就職に役立つリンク集:TUAD 東北芸術工科大学
73	5	日本橋学館大学	日本橋学館大学 - 進路・就職 -
74	5	富大経済学部資料室	コース共通リザーブ文献: 就職・進路
75	5	武庫川女子大学	武庫川女子大学 キャリアセンター -就職に役立つサイト集-
76	5	北海道大学	数学科を卒業したら 高校生・受験生の方へ(理学部数学科) 北海道大学大学院理学研究科数学専攻
77	5	名古屋経済大学	進路・就職 就職情報リンク集
78	5	鈴鹿医療科学大学	鈴鹿医療科学大学:リンク:就職関連
79	5	和歌山大学	和歌山大学/業界研究・職種研究の方法
80	6	アロマ&セラピースクール アンジェリカ	神戸三宮 入門講座 資格取得 ...
81	6	原宿学園 東京デザイン専門学校	TDA在校生専用サイト 東京デザイン専門学校
82	6	日本リフレクソロジスト養成学院	REFLEニュース
83	6	日本工学院北海道専門学校	e-Learningを活用しよう 職の百科事典
84	7	NPO法人キャリアサポート・ネットワーク	お役立ちリンク集
85	7	厚生労働省職業安定局	若チャレ!若者の人間力を高めるための国民運動 お役立ちサイト紹介 若者向け
86	7	中小企業災害補償共済福祉財団	労働-中小企業情報リンクコーナー あんしん財団
87	7	独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構	セカンドキャリアに関する各種情報提供(リンク集)
88	7	独立行政法人日本学生支援機構	学生支援情報DB-JASSO
89	7	独立行政法人雇用・能力開発機構	キャリア情報ナビ:独立行政法人 雇用・能力開発機構
90	7	独立行政法人雇用・能力開発機構 埼玉センター	独立行政法人 雇用・能力開発機構 埼玉センター/キャリア形成支援
91	7	内閣府	就職支援 information ニュートラ
92	7	内閣府男女共同参画局	女性いきいき応援ナビ
93	7	財団法人21世紀職業財団	職業大研究 Re・Be
94	7	財団法人全国母子寡婦福祉団体協議会	(財)全国母子寡婦福祉団体協議会--役立ちリンク
95	7	社団法人雇用問題研究会	社団法人 雇用問題研究会
96	7	女性と仕事の未来館	【女性と仕事の未来館】未来館相談室Q&A
97	7	中央職業能力開発協会	ADDS 職業能力開発関連リンク集
98	7	日本インターンシップ推進協会	日本インターンシップ推進協会
99	8	綾部商工会議所	綾部・京都府北部で就職するなら あやパワーキングパートナー あなたの就職 ...
100	8	インフォワークくまもと	インフォワークくまもと WebSite
101	8	上田市市役所	上田情報ライブラリー
102	8	大阪労働局	リンク集
103	8	おかやま若者就職支援センター	適職診断 おかやま若者就職支援センター
104	8	かながわ若者就職支援センター	リンク集
105	8	熊本県	熊本仕事いいねっと
106	8	高知県就職対策連絡協議会	就職関係
107	8	雇用能力開発機構大阪センター	独立行政法人 雇用・能力開発機構 大阪センター アビリティ訓練
108	8	雇用能力開発機構高知	キャリア形成 雇用能力開発機構 高知

109	8	雇用能力開発機構山口センター	金属加工科 / 独立行政法人 雇用・能力開発機構 山口センター
110	8	財団法人熊本県雇用環境整備協会	インフォワークくもと WebSite
111	8	佐世保商工会議所	佐世保で就職を探すなら 佐世保地区就職情報サイト
112	8	シニア・ジョブスタイル・かながわ	お役立ちリンク集：シニア・ジョブスタイル・かながわ
113	8	周南市サポートステーション	しゅうなん若者サポートステーション リンク集
114	8	ジョブカフェ いわて	ジョブカフェ いわて - リンク
115	8	ジョブカフェこうち	ジョブカフェこうち 高知県就職支援相談センター
116	8	ジョブカフェちば	ジョブカフェちば 求職中の方へ
117	8	ジョブカフェ石川	ジョブカフェ石川 就職関連サイト リンク集<業界研究>
118	8	千葉市学校教育情報ネットワーク	キャリアリンク集
119	8	戸田市	働く人の情報ガイド
120	8	鳥取県立図書館	リンク集:生活と仕事に役立つリンク 鳥取県立図書館
121	8	長崎労働局	ヤングハローワーク長崎 アクセス 長崎労働局
122	8	ならジョブカフェ	[リンク集] ならジョブカフェ:若者の就職活動をサポートします!
123	8	にいがたUターン情報センター	新潟のくらしGETT niiGET
124	8	新潟労働局	新潟労働局/求職者・勤労者向け情報/仕事探しのリンク集
125	8	ニートサポートネット	関連サイト ニートサポートネット
126	8	ハローワークインターネットサービス	ハローワークインターネットサービス
127	8	ハローワークおぢや	求職者向け情報/ハローワーク小千谷
128	8	ハローワーク広島	利用・業務案内-30歳未満の求職者のみなさんへ
129	8	ハローワークブラザ難波	ハローワークブラザ難波 転職関連リンク
130	8	ハローワーク妙高	お仕事をお探しの方/ハローワーク妙高
131	8	ハローワーク宇都宮	ハローワーク宇都宮
132	8	ハローワーク巻	ハローワーク巻 <巻公共職業安定所>
133	8	ハローワーク佐野	ハローワーク佐野からのお知らせ
134	8	ハローワーク糸魚川	ハローワーク糸魚川 <糸魚川公共職業安定所>
135	8	ハローワーク十日町	ハローワーク十日町 <十日町公共職業安定所>
136	8	ハローワーク小千谷	ハローワーク小千谷 <小千谷公共職業安定所>
137	8	ハローワーク小千谷サービスメニュー	ハローワーク小千谷サービスメニュー
138	8	ハローワーク松山	ハローワーク松山へようこそ!
139	8	ハローワーク新津	ハローワーク新津 <新津公共職業安定所>
140	8	ハローワーク新発田	ハローワーク新発田 <新発田公共職業安定所>
141	8	ハローワーク大阪西	ハローワーク大阪西 リンク集
142	8	ハローワーク南魚沼	ハローワーク南魚沼 <南魚沼公共職業安定所>
143	8	ハローワーク妙高	ハローワーク妙高 <上越公共職業安定所妙高出張所>
144	8	ひとり親Tokyo	ひとり親Tokyo > 関連リンク
145	8	姫路市	ひめじ女性チャレンジひろば「リンク集」
146	8	兵庫労働局	兵庫労働局 - 若年者・学生支援について
147	8	福岡県立図書館	就職活動に役立つ資料を探すには
148	8	福島県いわき市	いわき地域情報総合サイト「いわきあいあい」
149	8	まなびねっとぐんま	まなびねっとぐんま:キャリア支援情報
150	8	やまがた学生就職LOOK	やまがた学生就職LOOK セミナー等の開催予定
151	8	ヤング・ジョブ・あいち	リンク ヤング・ジョブ・あいち
152	8	ヤングJOBサポートみやざき	ヤングJOBサポートみやざき - リンク集>就職活動支援
153	8	ヤングキャリアセンター埼玉	リンク
154	8	ヤングジョブセンター滋賀	リンク
155	8	ヤングハローワーク長崎	ヤングハローワーク長崎 サービスメニュー 長崎労働局

156	8	ヤングほっとワークえどがわ	江戸川区 ヤングほっとワークえどがわ リンク集
157	8	岐阜市立図書館	岐阜市立図書館 リンク集 ビジネス支援関連
158	8	雇用能力開発機構いしかわ	フロアのご案内 / 石川センター -
159	8	社団法人愛知県雇用開発協会	社団法人 愛知県雇用開発協会:若年労働力の確保
160	8	庄内地域若者サポートステーション	庄内地域若者サポートステーション/リンク集
161	8	職業訓練法人 野田地域職業訓練協会	リンク集
162	8	新潟労働局職業安定部	新潟ワークナビ 新潟労働局職業安定部からのお知らせ
163	8	青森県総合社会教育センター 学習情報課	しごと力Power Upコンテンツ
164	8	静岡県ヤングジョブステーション	あなたの適職探し職業データベース
165	8	仙台市	仙台市 しごと情報ガイドせんだい 関連リンク集
166	8	大阪府立中央図書館	大阪府立中央図書館 分野別情報リンク集
167	8	東京しごとセンター	お役立ちリンク
168	8	八戸市	職業情報・企業情報 - 八戸市
169	8	和歌山労働局	和歌山労働局 リンク
170	8	和光市	和光市勤労青少年ホーム - リンク集
171	10	BM情報ランド推進協議会	BM情報ランド/ビルメンニュース
172	10	Buzzurl β バージョン	「キャリアマトリックス」を含むエントリー - Buzzurl パズール β ...
173	10	CHAMBER MEDIA 株式会社	求人お役立ち情報
174	10	HINT/街ダス京都	HINT/街ダス播磨
175	10	HINT/街ダス大阪	運営事務局ブログ: 東京会場
176	10	HINT/街ダス但馬	HINT/街ダス但馬
177	10	job@nifty	自分らしくキャリアアップ
178	10	JWord株式会社	派遣@なびる
179	10	KDDI株式会社	au one カテゴリ検索 - 総合ガイド -
180	10	NPO法人元気な学校を支援し創る会	週刊School55
181	10	NPO法人日本アクティブキャリア開発	JACD リンク1
182	10	アイティメディア株式会社	むささびの視線 > 自分の職業情報を調べてみる : ITmedia ...
183	10	エキサイト カテゴリ登録	職業の紹介 - エキサイト 仕事 カテゴリ
184	10	株式会社エンネット	公的機関を活用しよう!ピックアップサイト紹介「天職ルートなび」
185	10	株式会社キャリア・クリエイト	人材コンサルタントのひとりごと
186	10	株式会社教育家庭新聞・記事	KKSブログ: 500種類の自分の未来
187	10	株式会社教育家庭新聞・記事	KKSブログ: 教員は、つぶしが利くか?
188	10	株式会社ソフトレック	探索(仕事)
189	10	株式会社第一学習社	キャリア教育を支援する施設・HP紹介
190	10	株式会社ヒューマンサポート	便利機能も満載 約500種類の職業データベース キャリアマトリックス...
191	10	株式会社富士薬品	家庭用配置薬 - 置き薬こむ - 配置薬業の転職・求人情報
192	10	株式会社メディアサポール	「チーフ・ビール・オフィサー」求人広告に30カ国から応募殺到
193	10	株式会社理想経営	企業研修の「りそう」へ。株式会社理想経営
194	10	株式会社リトル東京	産業廃棄物処理技術者の転職・求人情報なら@ベンチャー ...
195	10	キャリアデザインブログ	運営事務局ブログ: その他
196	10	キャリアバンク株式会社	つながるひろがる キャリア・マトリックス
197	10	古書・東林	日本人の暮らし
198	10	ジェイ・リスティング株式会社	総合ガイド - Jディレクトリー (ライブドア グループ)
199	10	ソフトバンクテレコム株式会社	職業の紹介 - ODN ビジネスと金融 カテゴリ
200	10	西日本新聞	西日本新聞パソコン教室 リンク集

201	10	非営利法人	キャリアマトリックス - Wikipedia
202	10	福島民報	カウンセリング
203	10	ふくびき.com	労働政策研究・研修機構情報ならふくびき.com版スーパーサーチ
204	10	マイナビ転職サイト	激白!転職活動ドキュメント 転職・求人情報サイトのマイナビ転職
205	10	毎日コミュニケーションズ	働きウーマン 賢い転職のススメ 転職・求人情報サイトのマイナビ転職
206	10	読売新聞・記事	【新卒向け情報】早まる活動スケジュール：就活最前線：新卒・就活.
207	10	読売新聞・記事	人材紹介会社 転職に活用：とれたて!ミックスニュース：ニュース.
208	10	読売新聞・記事	女の天職に、人材紹介会社：アフターファイブ：しごとアラカルト：ジョブサーチ：YOMIURI ONLINE(読売新聞)
209	10	ライオン企画株式会社	大学フェア
210	10	株式会社DECO・記事	そろそろ「就活に役立つアルバイト」始めてみない ...
211	10	株式会社アイスリーデザイン	団塊JOB.com(団塊ジョブドットコム)-団塊世代・中高年・シニアのための再就職・社会貢献・独立開業情報サイト: 2006年10月 アーカイブ
212	10	株式会社アド・プロモート	職の百科事典 - 株式会社アド・プロモート
213	10	株式会社アドウィル	就職への道 高校生就職スクエア静岡
214	10	株式会社オールアバウト	この秋こそ、資格取得で自信をつける
215	10	株式会社クロスリスティング	X-Listing：厳選サイト >Top>政治と社会>社会問題>労働 ...
216	10	株式会社ケイ・オブティコム	HINT/街ダス兵庫
217	10	株式会社サンジーバー	能力開発の支援等に関するもの
218	10	株式会社サンジーバー	今日のひとこと
219	10	株式会社ジョブダイレクト	就職支援関連
220	10	株式会社ティンバーラインパートナーズ	キャリアマトリックスの定義で見るコンサルタントという職業
221	10	株式会社ナレッジバンク	キャリアアップカフェ キャリアプランシートであなたの夢を
222	10	株式会社ネクスト	livedoor カテゴリ検索 検索結果：総合ガイド
223	10	株式会社栄光 Eikoh Inc.	家庭でのキャリア教育 Vol.4 (1/2) - まなび倶楽部(栄光 ...
224	10	株式会社日本プロデュースセンター	万代塾 進学・大学・専門・適職探し
225	10	人材ニュース株式会社	奈良県の求人・就職活動応援サイト 人材ニュースナビ
226	10	特定非営利活動法人キャリアコアサポート	お役立ちリンク - さが若者サイト
227	10	特定非営利活動法人キャリアデザインフォーラム	リンク集:特定非営利活動法人キャリアデザインフォーラム
228	10	日本キャリアート株式会社	関連ニュース:日本キャリアート株式会社
229	10	伯耆 有限会社 HOHKIスタッフサービス	京都人材派遣/求人 hohkiスタッフサービス
230	10	浜島書店	最新図説現社 リンク集 第1章 現代に生きる私たちの課題
231	10	福岡情報サイト フクオカフリーク	キャリアマトリックス 福岡情報サイト フクオカフリーク
232	10	有限会社インタリスト	リンク集-職務経歴書作成代行、パーソナルキャリアプロモーションのインタリスト
233	10	有限会社キャリアウイング	キャリア形成支援のCareer wing
234	10	有限会社ユニバーサルワークス	三島図鑑 取材日記

資料 12 キャリアマトリックスのパンフレットと説明資料

利用促進、広報普及のために作成した A4 版三つ折りの資料と、キャリアマトリックスの機能の説明のために作成した A4 版のトップ画面と職業情報画面。

アクセス

【トップ画面】

活用場面

キャリアマトリックスは、就職をめざす学生・生徒や、転職、再就職を考えている社会人、また、教育やキャリア相談の担当、人事担当などの方々にご利用いただけます。

生·学·年·着·



CASE1「やりたいこと」探しに CASE2 職業調べに CASE3 適職探しに CASE4 就職活動に

社会人は



- CASE1 キャリアの棚おろしに
- CASE2 新しい可能性の発見に
- CASE3 アピールポイントの確認に
- CASE4 キャリアアップに

育、キャリア相談担当の方は



- CASE1 キャリア教育に
- CASE2 進路決定の支援に
- CASE3 マッチングに
- CASE4 専門情報のリファレンスに

企業の人事担当の方は



- CASE1 効率的な人材確保に
- CASE2 職務要件の確認に
- CASE3 人材活用に
- CASE4 人材開発に

キャリアマトリックスには次の2つのサイトからアクセスできます。

<http://cmx.vrsys.net>
<http://cmx.hrsys.net>

キャリアマトリックス・モバイル

厚生労働省の「キャリアモバ.jp」の中で携帯向けのキャリアマトリックスも提供しています。

<http://carimoba.jp>



先世問題

キャリアマトリックスは労働政策研究・研修機構が開発・運営しています。お問い合わせ等は下記へお願いします。

E-mail : cmx@vrsys.net

キャリアマトリックス問合せ窓口

提供 独立行政法人
労働政策研究・研修機構 労働大学校
〒351-0023 埼玉県朝霞市溝沼1983-2

MMIX.VI

職業の世界がわかる 総合的職業情報データベース

CAREER MATRIX

- 1 職業とキャリアのインターネット百科事典
- 2 約500職業の仕事内容や就き方などを写真付きで解説
- 3 自己診断テストで自分の適職や経験を活かす職業を発見
- 4 いつでも、誰でも無料で簡単に使えるシステム
- 5 就職や転職、キャリア開発や進路指導をサポート
- 6 人材の採用や人材の活用を支援

[illegible]

新キャリア マトリックス・トップ画面

キャリアマトリックスは職業とキャリアのインターネット百科事典です。約 500 職業の仕事内容や就き方などを写真付きで解説しています。自己診断テストで自分の興味や経験を活かす職業を見つけることもできます。人材の採用や人材の活用に役立つ情報も提供しています。キャリアマトリックスは下記の二つのアドレスより、いつでも無料で利用できます。二つのアドレスはミラーサイトとして同じ内容を提供しています。

<http://cmx.vrsys.net>

<http://cmx.hrsys.net>

職業とキャリアに関する総合情報システム
CAREER MATRIX

サイトマップ | Q&A | お問い合わせ
提供: 独立行政法人 労働政策研究・研修機構

職業スポットライト



今週のご紹介
看護師

今週のテーマ
健康を守る
医薬品製造員、歯科医師、保健師、看護師、助産師、など

はじめに
▶ 職業について知る
▶ 職業選択のガイド

ツール
▶ 職業検索
▶ 職業ギャラリー
▶ ジョブタウン
▶ 適職探索ナビ
▶ キャリア分析ナビ(ベーシック版)
▶ キャリア分析ナビ(アドバンス版)
▶ 人材採用支援システム
▶ 人材活用シミュレーション
▶ マイリスト
▶ 職業レファレンスブック
▶ 相談窓口マップ検索

その他
▶ Q&A
▶ パンフレット、マニュアル
▶ 当サイトへのリンクについて
▶ サイトマップ
▶ お問い合わせ
▶ 利用規約
▶ サイト内検索

関連情報
▶ 関連リンク
▶ 関連ツール
▶ 関連基礎知識

情報の力で、人と職業の最適な結びつきを支援します。

キャリアマトリックス(CMX)は職業情報とキャリアに関する総合的な情報サイトです。約500職業の仕事内容を写真とともに解説しています。しごとの百科事典としてご利用ください。
興味、ワークスタイル(価値観)、スキルから適職を探索したり、これまでの経歴を分析し、それから適職を調べることもできます。

利用者別メニュー

求職者、在職者
の方はこちら

生徒、学生、若者
の方はこちら

教育、キャリア相談担当
の方はこちら

企業の人事担当
の方はこちら

キャリアマトリックスガイドツアー

キャリアマトリックスを使ってできることを操作の流れに従って説明します。

>>スタート

キャリアマトリックス・ツール

凡例: 求職 求職者、在職者向け 学生 生徒、学生、若者向け 専門 教育、キャリア相談担当者向け 企業 企業の人事担当者向け

職業理解

職業検索

職業名や職務内容から職業を検索し、職業についての詳細情報を表示します。

求職 学生 専門 企業

職業ギャラリー

キャリアマトリックスに収録されている職業の写真を一覧表示しています。写真を見て、気になる職業の情報を見てみましょう。

求職 学生 専門 企業

ジョブタウン

ジョブタウンのイラスト地図を見ながら、気になる場所やそこで働く人々の職業について調べてみましょう。

求職 学生 専門 企業

自己理解

適職探索ナビ

「興味」や「ワークスタイル」などから、あなたに向いた職業を探索します。

求職 学生 専門 企業

キャリア分析ナビ(ベーシック版)

これまでの職歴からあなたの「スキル」などを推定し、それに見合った職業やあなたのアピールポイントを見ることができます。

求職 学生 専門 企業

キャリア分析ナビ(アドバンス版)

これまでの職歴を「スキル」などへ分解・分析し、気になる職業との適合度を比較できます。
使い方にやや複雑な部分があります。最初にベーシック版で慣れたら、ご利用下さい。

求職 学生 専門 企業

人材管理

人材採用支援システム

キャリアマトリックスの約500の職業情報を元に、職務要件(仕事内容、必要なスキルや知識、等々)を明確化します。

求職 学生 専門 企業

人材活用シミュレーション

社内の現状の人材と将来のあるべき姿を客観的に比較でき、人材の活用、教育訓練などの検討ができます。

求職 学生 専門 企業

マイリスト

上の様々なツールで職業をマイリストに記録し、それぞれの職業を見比べてみましょう。

求職 学生 専門 企業

トピックス

1. 「新卒緊急応援窓口」を開設／東京しごとセンター(東京都 3月10日)
2. 現金給与総額、前年比0.1%増／毎月勤労統計調査(厚労省 3月3日)
3. 1月の有効求人倍率0.46倍、5カ月連続で僅かに改善／一般職業紹介状況(厚労省 3月2日)

more...

アンケート

より良いサイトとするため、利用者アンケートを行っています。ご協力ください。

主な利用目的:
選択してください
年齢:
選択してください
性別:
☐ 男性 ☐ 女性
送信
>> 集計結果を見る

職業アクセスランキング

1. 一般事務員
2. 経理業務
3. データ入力
4. 保育士
5. システムエンジニア(プロジェクトマネージャー)

more...

お知らせ

1. 携帯サイト「キャリアマトリックス・モバイル」提供(2009.4.27)
2. 若者向けコンテンツ充実(2009.3.2)

more...

ミラーサイトのお知らせ >>
利用者の声 >>

※パンフレット、マニュアル、パンナー等のダウンロードは、左側に移動しました。

注目の職業を週替りで紹介

検索テーマを週替わりで紹介

サイト内メニュー一覧

関連した最近の話題

過去一週間によく見られた職業

利用者別入口

キャリアマトリックスのツール

- 258 -

職業情報画面サンプル

約 500 職業の中から
システムエンジニアと
看護師の 2 画面を紹介

職業プロフィール

職業の各側面（5 分野
94 項目）の特徴を数
値で表示

スキル

説得、インストラク
ション、要件分析、プ
ログラミング、意思決
定、資金管理等、35 項目

知識

経営とマネジメント、
販売・マーケティング、
生産・加工、コンピ
ュータとエレクトロニ
クス、教育訓練、外国
語等、33 項目

仕事環境

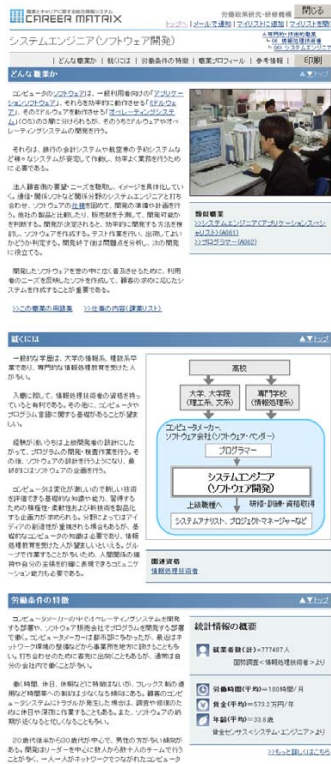
他者とのかわかり、
屋外作業、厳密さ・正
確さ等、14 項目

興味

現実的、研究的、芸術
的、社会的、企業的、
慣習的、6 項目

ワークスタイル

達成感、成長、
社会的認知、人間関係、
自立性、労働条件、
6 項目（価値観）



どんな職業か

仕事内容、仕事の場面の写
真、関連職業、類似職業、
職業分類、仕事の内容（課
業リスト、下記）

「看護師」の仕事内容(職業リスト)

1. 病院・診療所・介護施設などで、医師の指示に従って、患者の診療や看護を行う。
2. 患者の病状や経過を観察し、記録をとり、医師に報告する。
3. 患者の病状や経過を観察し、記録をとり、医師に報告する。
4. 患者の病状や経過を観察し、記録をとり、医師に報告する。
5. 患者の病状や経過を観察し、記録をとり、医師に報告する。
6. 患者の病状や経過を観察し、記録をとり、医師に報告する。
7. 患者の病状や経過を観察し、記録をとり、医師に報告する。
8. 患者の病状や経過を観察し、記録をとり、医師に報告する。
9. 患者の病状や経過を観察し、記録をとり、医師に報告する。
10. 患者の病状や経過を観察し、記録をとり、医師に報告する。
11. 患者の病状や経過を観察し、記録をとり、医師に報告する。
12. 患者の病状や経過を観察し、記録をとり、医師に報告する。
13. 患者の病状や経過を観察し、記録をとり、医師に報告する。
14. 患者の病状や経過を観察し、記録をとり、医師に報告する。
15. 患者の病状や経過を観察し、記録をとり、医師に報告する。
16. 患者の病状や経過を観察し、記録をとり、医師に報告する。

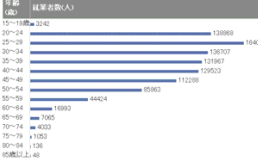
就くには

就業までの経路や関連す
る資格等

労働条件の特徴

地域別の就業人口や所得、
労働時間等、統計数値も表
示（詳しい図表も（下記）

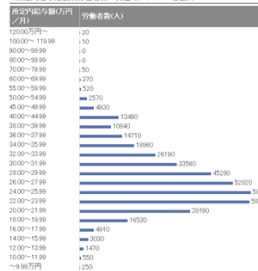
2 年都府県別就業人数・総労働時間・看護職



3 都府県別総就業人口・総労働時間・看護職



4 所定内給与と月給別労働人口・月給センサス・看護職



参考情報

関連情報へのリンク、動画
サイトへのリンク

JILPT 資料シリーズ No.86

総合的職業情報データベースの研究開発

発行年月日 2011 年 3 月 29 日

編集・発行 独立行政法人 労働政策研究・研修機構

〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23

(照会先) 研究調整部研究調整課 TEL:03-5991-5104

(販売) 研究調整部成果普及課 TEL:03-5903-6263

FAX:03-5903-6115

印刷・製本 有限会社 太平印刷

©2011 JILPT

* 資料シリーズ全文はホームページで提供しております。(URL:<http://www.jil.go.jp/>)